

原審公判調書ニハ裁判長ハ證據調ヲ爲ス旨ヲ告ケ證第一號乃至證第十一號及記錄二四一丁乃至二五〇丁ノ表ヲ各展示シ云々其ノ都度意見辯解ノ有無ヲ問ヒ且利益ノ證據アラハ提出シ得ル旨ヲ告ケタル旨ノ記載アリ尤モ右調書ノ記載ニ依レハ原審裁判長ハ右表ヲ被告人ニ展示シタルニ止リ之ヲ被告人ニ朗讀シ又ハ其ノ要旨ヲ告ケタルモノニ非サルコト明ナルモ縱令證據書類ト雖其ノ内容ノ如何ニ依リ之ヲ被告人ニ示スコトカ之ヲ朗讀シ若ハ要旨ヲ告ケタルヨリモ却テ被告人ヲシテ其ノ内容ヲ知悉セシメムルニ適スル場合ニ於テハ之ヲ被告人ニ示スコトニヨリ證據調ハ完全ニ履踐セラレタルモノト爲スヲ相當トス (大審院四刑、九年(レ)一五九一號、詐欺被告事件、一〇年二月一五判決、法律新聞三八三九號一八頁)

●公判手續更新前ノ公判調書記載ノ被告人供述ト更新後ノ證據調 (勳章、合同毛織事件)  
然リ而シテ同一審級ニ於テ法定ノ事由ニ由リ公判手續ノ更新ヲ命シタル場合ニ於テハ公判裁判所ハ更ニ獨立シテ審理ヲ更新スヘキモノニシテ此ノ場合審理更新後公判廷ニ顯出セラレタル訴訟資料ノミカ判決ノ資料ト爲リ得ルモノニシテ假令審理更新前公判廷ニ顯出セラレタル訴訟資料例ヘハ被告人ノ訊問供述ノ如キニ在リテモ該資料カ更新後ノ公判廷ニ顯出セラレサルトキハ之ヲ採リテ事實認定ノ資料ト爲スヲ得サルモノトス、然レトモ審理更新前ニ於ケル同一被告人ノ供述ト雖之ヲ錄取シタル公判調書存在シ審理更新後ノ公判廷ニ於テ裁判所之ヲ一ノ書證トシテ適法ナル證據調ノ手續ヲ履踐シ被告人ニ對シ意見反證提出ノ告知ヲ爲シタルトキハ該資料ハ審理更新後ノ公判廷ニ顯出セラレタルモノニシテ事實認定ノ資料ト爲スヲ妨クルモノニ非ス (大審院二刑、一〇年(レ)八一號、濱職横領證憑湮滅教唆等被告事件、一〇年九月二八日判決、法律新聞三九二六號一二頁)

●豫審請求書ヲ讀ミ聞ケサル證據調ト採證法違背 (刑訴第四一〇條同項參照)

第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

●檢事ノ聽取書ト證據書類

檢事ノ聽取書ハ檢事ニ於テ供述者ノ任意ノ供述ヲ錄取シタル書類ニ過キスシテ固ヨリ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルヲ以テ區裁判所事件ニ非サル本件ニ付テハ原則トシテ之ヲ證據ト爲スコトヲ得サルモノナレハ斯ル檢事ノ聽取書ハ刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂證據物又ハ證據書類ニ該當セサルモノト解セサルヘカラス (大審院四刑、九年(レ)一五一五號、放火被告事件、一〇年二月五日判決、法律新聞三八三一號一七頁)

●被告人訊問中ニ爲シタル證據調ノ當否

證據ノ取調ヲ爲シ之ニ對スル被告人ノ意見辯解ヲ聽クハ眞實ヲ發見シ若ハ其ノ情狀ヲ明カニスル爲ニ外ナラス從テ證據調ハ被告人訊問中ニ便宜之ヲ爲スヲ妨ケス (大審院二刑、一〇年(レ)九〇九號、傷害被告事件、一〇年九月二六日判決、法律新聞三九一六號一五頁)

●事實裁判所ニ於ケル證據調ノ自由

事實裁判所ハ刑事訴訟法第三百四十二條ハ如キ特別規定アル場合ノ外自由ニ證據調ノ限度ヲ定ムルコトヲ得ルモノニシテ當該事件ノ一切ノ證據ニ付公判廷ニ於テ之カ取調ヲナスコトヲ要スルモノニ非サルコト本院判例ノ趣旨トスル處ナルヲ以テ縱令第一審公判中辯護人栗山武俊カ證據トシテ提出シタル端書二葉ノ内一葉ニ付原審ニ於テ之レカ證據調ヲナササリシトスルモ依テ



以テ不法ト爲スヲ得ス (大審院四刑、一〇年(れ)一一五二號、詐欺横領被告事件、一〇年二月九日判決、法律新聞三九二一號一二頁)

●被告人ノ提出シタル上申辯明書ト證據調ノ要否

所論辯明上申書ナルモノハ被告人カ當該事件ニ付キ公判ニ於ケル口頭ノ陳述ニ代ヘテ其ノ趣旨ヲ記載シタル書面ナルヲ以テ該公判ニ於テ被告人ニ其ノ内容ヲ了解セシムル爲證據調ヲ必要トスル證據物又ハ證據書類ト謂フヘキニアラス (大審院二刑、一〇年(れ)一三〇號、收賄賂路約東被告事件、一〇年四月二二日判決、法律新聞三八六二號一七頁)

●公判期日後訴訟關係人ヨリ提出セル證據ト取調ノ要否

刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類トハ第一回公判期日前公判ニ於ケル取調準備ノ爲訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ノミヲ指稱スルモノナルヲ以テ第一回公判後訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物又ハ證據書類ノ如キハ同條ニ依リ公判廷ニ於テ其ノ取調ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス之カ取調ノ要否ハ専ラ裁判所ノ自由ナル裁量ニ任セラレタルモノトス (大審院二刑、一〇年(れ)六五〇號、放火住居侵入被告事件、一〇年七月四日判決、法律新聞三八九六號七頁)

第三百四十三條

被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得

- 一 供述者死亡シタルトキ
- 二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルニ能ハサルトキ
- 三 訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

●法令ニ依リ作成セラレタル訊問調書ノ謄本ノ意義

所論訊問調書ハ勿論陸軍々法會議法第八條ニ依リ作成セラレ其ノ謄本ハ第一師團軍法會議陸軍錄事ノ調製シタルモノニシテ刑事訴訟法第三百四十三條ニ所謂法令ニ依リ作成セラレタル訊問調書ノ謄本ト同様ニ取扱ハルヘキモノナルヲ以テ原本ト均シク之ヲ證據ト爲スコトヲ得ルモノトス (大審院二刑、一〇年(れ)二七六號、爆發物取締罰則違反補助騒擾補助殺人補助等被告事件、一〇年一月二四日判決、法律新聞三九一四號二〇頁)

●區裁判所事件ニ關スル檢事聽取書ノ證據採用

刑事訴訟法第三百四十三條第二項ノ規定ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ第一項各號ノ制限ニ從フコトヲ要セス如何ナル審級ニ於テモ第一項所掲ノ書類ヲ證據ト爲スコトヲ得トノ趣旨ニ解スヘキモノナルヲ以テ縱令被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サル所論檢事ノ聽取書ト雖原審ニ於テ之ヲ證據ト爲シ得ヘキコト明ナリ (大審院四刑、九年(れ)一七〇九號、恐喝私文書偽造行使被告事件、一〇年三月一日判決、法律新聞三八四七號一三頁)

●略式命令請求書記載ノ事實ト證據採用ノ當否 (刑訴第五二四條同項參照)

第三百四十四條

證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

●控訴審ニ於ケル證據申請却下ト偏頗ノ裁判

裁判所ハ事實ノ真相ニ合スルコトヲ要ス從テ證據調モ之ニ應スヘク又之ヲ以テ足ル而モ被告人



ハ意見辯解ニ關スル供述モ亦證據タルコトヲ得ルモノトス要ハ孰レカ眞實ナルカヲ判斷スルニ在リ叙上ノコトタル控訴ノ審判ニ於テモ亦然リ故ニ控訴審ニ於テ新ナル證據ノ取調ヲ爲スコトアリ然ラサルコトアリ茲ヲ以テ被告人辯護人ヨリ爲シタル新ナル證據申請ヲ却下スルコトアリ然レトモ之カ爲ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト爲スヘキモノニ非ス蓋シ控訴ノ利益ハ覆審ニ在リ更ニ判斷ヲ受クルニ在リ新ナル證據ヲ取調ヘストモ判斷ヲ爲スニ十分ナル場合アレハナリ (大審院二刑、一〇年(フ)一二號、忌避申立却下ノ決定ニ對スル抗告事件、一〇年五月二〇日決定、法律新聞三八四七號一六頁)

●公判外ニ於ケル證據調取消決定ト關與スヘキ判事

公判ニ於テ爲シタル證據決定ヲ公判外ニ於テ之カ取消決定ヲ爲スモ敢テ不法ニ非サルノミナラス公判外ニ於テ右決定ヲ爲ス場合ニ公判列席ノ判事ト同一ノ判事カ其ノ決定ニ關與スルコトヲ要スル旨ノ規定ナキカ故ニ本件前記證據調取消決定ハ適法ナリ (大審院一刑、一〇年(レ)五五六號、恐喝同未遂被告事件、一〇年六月一七日判決、法律新聞三八八三號一二頁)

●書類ノ原本取寄ノ證據決定ト其寫書ニ付テ證據調ヲ爲ス場合

然レトモ公判ニ於テ公務所ニ保管スル書類取寄ノ決定ヲ爲シ其ノ施行トシテ裁判長カ公務所ニ對シ書類送付方ノ囑託ヲ爲シタルニ當該公務所ハ該書類ノ原本ノ送付ニ代ヘ其ノ寫書ヲ送付シ來リタル場合裁判所之ヲ其ノ後ノ公判ニ於テ之ヲ公廷ニ顯出セシメ適法ニ證據調ヲ爲シタルトキハ縱令證據決定ノ趣旨カ原本ノ取寄ニ在リタリトスルモ後日ノ公判ニ於テ寫書ニ付證據調ヲ爲シタル際訴訟關係人ニ於テ異議ナカリシトキハ其ノ證據調ヲ爲シタル書類カ原本ニ非サリシトノ理由ヲ以テ證據決定カ完全ニ履踐セラレサリシモノト論スルヲ得ス (大審院三刑、一〇年

(レ)八九〇號、新聞紙法違反被告事件、一〇年一〇月二日判決、法律新聞三九二〇號一二頁)

●證據決定ノ取消ト裁判所ノ自由裁量

證據調ノ範圍程度ヲ定ムルコトハ裁判所ノ自由ナル裁量ニ一任セラレタルコロナルカ故ニ裁判所カ辯護人ノ請求ニ依リ證人ヲ訊問スヘキ旨決定シタル場合ト雖其ノ後右訊問ヲ爲スノ必要ナク又ハ訊問ヲ爲スコト能ハサルニ至ラハ曩ニ爲シタル證據調ノ決定ヲ取消シ右請求ヲ却下シ辯論ヲ終結スルモ之ヲ以テ審理不盡ノ違法アルモノト爲スヲ得ス (大審院三刑、一〇年(レ)六一四號、業務上横領被告事件、一〇年六月二十九日判決、法律新聞三八六四號一三頁)

第三百四十五條 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

●控訴審ニ於ケル檢事ノ被告事件要旨陳述

刑事訴訟法第三百四十五條ノ規定ニ依レハ檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スルヲ以テ足リ他ニ何等ノ制限ナキカ故ニ控訴審ニ於テ檢事カ其ノ要旨ヲ陳述スルニ當リ公判請求書ニ依リタルト第一審判決ノ事實摘示ニ依リタルト將又記憶ニ基キタルトハ問フトコロニ非ス要ハ當該被告事件ノ要旨ヲ陳述スルヲ以テ足ル故ニ原審ニ於テ檢事カ第一審判決ノ事實摘示通りノ公訴事實ノ陳述ヲ爲シタル以上之ヲ以テ足リ毫モ不法ニ非ス (大審院二刑、一〇年(レ)四六號、常習賭博被告事件、一〇年三月二八日判決、法律新聞三八五七號四頁)

●結審後提出セル證據書類ト辯論再開ノ要否

原審ハ昭和十年六月六日公判ヲ開廷シ被告人ノ訊問並證據調等ヲ爲シ同日ヲ以テ結審シ同月十



三日ニ判決ノ言渡ヲ爲スヘキ旨宣シタルモノニシテ所論ノ診斷書カ原審ニ提出セラレタルハ右  
結審後タル同月十日ナルコト明白ナルカ故ニ辯論ヲ再開セサル限り之ヲ法廷ニ顯出シ被告人ニ  
讀聞ケ其ノ意見辯解ヲ聽クニ由ナキモノトス而シテ再開ノ要否ハ原審ノ判斷ニ委ネラレタルモ  
ノナルコト刑事訴訟法第三百五十條ノ規定ニ徴シ明白ナルヲ以テ原審カ辯論ノ再開ヲ爲サス從  
テ所論ノ診斷書ニ付證據調ヲ爲ササレハトテ違法ニ非ス (大審院二刑、一〇年(れ)九〇九號傷  
害被告事件、一〇年九月二六日判決、法律新聞三九一六號一五頁)

第三百四十六條

區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限り他ノ證據ヲ  
取調ヘサルコトヲ得

●自白ト他ノ證據ノ取捨判斷

證據ノ取捨判斷ハ實驗則ニ反セサル限り裁判所ノ自由ナル裁量ニ任セラレタルモノナルカ故ニ  
裁判所カ被告人ノ自白ヲ措信スルニ足ルモノト認ムルニ於テハ其ノ自白ノミヲ採用シテ犯罪事  
實ヲ認定スルモノ之ヲ以テ違法ナリト爲スヲ得ス刑事訴訟法第三百四十六條ノ規定ハ夙ニ本院判  
例ノ示スカ如ク區裁判所ニ於ケル審理手續ノ特例ヲ定メタルニ止マリ證據ノ取捨判斷ニ關スル  
裁判所ノ職權ヲ制限シタルニ非サルモノト解スルヲ相當トスルヲ以テ所論ノ如ク同規定ヨリ推  
シテ地方裁判所ノ事件ニ付自白ノミヲ援用シテ犯罪事實ヲ認定スルハ違法ナリト論スルハ當ラ  
ス(大審院三刑、一〇年(れ)二六〇號、放火被告事件、一〇年五月一日判決、法律新聞三八三九號一五頁)

第三百四十七條

裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ  
裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告グヘシ

●被告人ノ利益ノ爲メニ許可セラレタル證言ニ對シ重ネテ意見ヲ問フノ要ナシ

原審第二回公判調書ヲ查閱スルニ原審第二回公判廷ニ於テ裁判長ハ被告人ノ訊問ヲ終リタル後  
各證據書類及證據物件ニ付取調ヲ爲シタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問ヒ且被告人ニ對シ其  
ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告ケタル處被告人ハ自供ニ反スル點ヲ否認  
シ證據申出ハ之ヲ辯護人ニ讓ル旨ヲ陳述シ辯護人ハ在廷セル西本米吉及峯キタヲ各證人トシテ  
申請シ裁判所之ヲ許可シテ直ニ右兩證人ノ訊問ヲ爲シタル事實明瞭ナリ斯ノ如ク裁判所ニ於テ  
一旦諸般ノ證據調ヲ爲シ之ニ付被告人ノ意見ヲ聽キタル後特ニ辯護人ヨリ被告人ノ利益ノ爲申  
請シタル證人ヲ訊問シタル場合ニ於テハ其ノ各證言ニ付テハ更ニ重ネテ被告人ニ對シ意見反證  
ハ有無ヲ問フノ必要ナキモノト解スヘキヲ以テ(大正十三年五月二十六日當院第二刑事部判決  
參照)原審ニ於テ右在廷證人ノ訊問ヲ終リタル後其ノ證言ニ付被告人ノ意見及反證ヲ求メスシ  
テ直ニ事實及證據ノ取調終了ノ旨ヲ告ケタリトスルモ毫モ違法ニ非ス (大審院四刑、九年(れ)  
一五一五號、放火被告事件、一〇年二月五日判決、法律新聞三八三二號一七頁)

●豫審訊問調書ニ添付セル私文書ノ證據調

所論被告人北田京次豫審第三回訊問調書ヲ查閱スルニ同調書末尾添附ノ表第一號ハ同被告人カ  
其ノ調査ノ結果ヲ表トシテ提出シタルモノナレハ素ト同被告ノ作成ノ私文書タルコト論ナキモ  
之ヲ右調書ノ末尾ニ添付シテ以テ其ノ供述ノ記載ニ代用シ該調書ト右表ノ各葉トハ間ニハ作成  
者タル裁判所書記一々之ニ契印シタル結果右表ハ該調書ノ一部トナリ右表ト該調書トハ一箇ノ  
調書ヲ作成スルモノナルカ故ニ原審公判調書中裁判長ハ右豫審訊問調書ヲ讀聞ケ被告人ノ意見  
辯解ヲ求メタル旨ノ記載アル以上其ノ添附ノ表第一號ニ付テモ適法ノ證據調アリタルモノト解



セサルヘカラス (大審院二刑、一〇年(れ)二一號、麻薬取締規則違反、關稅法違反被告事件、一〇年四月四日判決、法律新聞三八五六號一五頁)

●豫審請求書ヲ讀ミ聞ケサル證據調ノ探證法違背 (刑訴第四一〇條同項参照)

第三百五十三條

開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

●公開停止決定ノ效力ト公判手續更新後ノ效力 (憲法第五九條同項参照)

第三百五十四條

開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

●補充判事ノ審問關與ト公判手續更新原因 (裁判所構成法第一二〇條同項参照)

第三節 公判ノ裁判

第三百六十條

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由又ハ刑ノ加重減免ノ理由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

●民事訴訟ヲ手段トスル詐欺罪ト證據說明缺如ノ違法

原判決ハ被告人ハ株式會社產業貯蓄銀行丹波市支店長乾米藏ト被告人トノ間ニ紛争ヲ來タシ同

人ニ對シテ告訴ヲ提起シタルモ右告訴事件ハ被告人カ米藏ノ爲メニ金千圓ヲ融通シタル事蹟ナシトノ趣旨ノ下ニ奈良區裁判所檢事局ニ於テ不起訴處分ト爲リ其ノ旨被告人ニ對シテ告知アリタルノミナラス該告訴事件ニ付屢々各關係人ト共ニ取調ヲ受ケタル結果被告人ハ米藏ニ對シ何等ノ債權ヲ有スルモノニ非サルコトヲ熟知スルニ至リタルニ拘ラス裁判所ヲ欺罔シテ米藏ヨリ金千圓ヲ騙取センコトヲ企テ奈良區裁判所ニ對シ米藏ヲ被告トスル融通金返還請求ヲ提起シタル旨判示シテ民事訴訟ヲ手段トスル詐欺ノ犯罪事實ヲ認メタリ然レトモ被告人ニ於テ米藏ニ對シ何等ノ債權ヲ有スルモノニ非サルコトヲ熟知スルニ至リタル旨判示事實ハ原判決舉示ノ證據ヲ綜合スルモ到底之ヲ肯認スルニ由ナキヲ以テ原判決ニハ右事實ニ對スル證據說明ヲ缺如スル違法アルモノト謂ハサルヘカラス (大審院二刑、九年(れ)八三二號、詐欺未遂被告事件、九年九月一三日決定、大審院裁判例八卷刑事事六〇頁)

●收賄罪ニ於ケル金錢其ノ他ノ利益カ職務ニ關連アリヤ否ヤノ判示

收賄罪ノ構成ニ必要トスル金錢其ノ他ノ利益ト其ノ利益カ公務員ノ職務ニ關係ヲ有スルヤ否ヤノ問題ハ事實ノ判斷ニ非スシテ法律上價值ノ判斷ニ屬スルモノトス從テ之ニ對シ法律ノ解釋論ヲ爲スハ格別證據說明ヲ爲シ得ヘキモノニ非サルト同時ニ證據ニ依リテ説明スヘキモノニ非ス (大審院三刑、九年(れ)六四四號、傷害教唆被告事件、九年九月十五日判決、法律新聞三七九三號一〇頁)

●賭博罪ト手段方法判示ノ要否

凡ソ犯罪ノ手段方法ハ判文ニ明示スルノ優レルニ如カスト雖「トランプ」又ハ賽等ヲ其ノ用法ニ從ヒ使用スル賭博ハ其ノ性質上偶然ノ輸贏ニ因リ勝敗ヲ決スルモノナルコト自ラ明ナレハ被告人等ハ此等ノ物件ヲ使用シ財物ヲ賭シテ賭博ヲ爲シタル旨判示スル以上特ニ其ノ方法ヲ詳



細ニ説示セサルモ且其ハ賭博ハ博戲ナリヤ將賭事ナリヤハ如キモ必スシモ之ヲ明示セサルモ賭博罪ノ判示トシテ理由ニ缺クル所ナキモノトス蓋刑法ニ於テハ賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭スルコトヲ要件トシ其ノ博戲タルト賭事タルトニ依リ同罪ノ成立並科刑上何等ノ差異ヲ認メサレハナリ (大審院四刑、一〇年(レ)三八一號、常習賭博被告事件、一〇年五月一七日判決、法律新聞三八五七號一〇頁)

●收賄罪ニ關スル公訴事實ト判決事實ノ同一性 (刑法第一九七條同項參照)

●麻雀賭博認定ノ場合ニ於ケル具體的遊戯方法判示ノ要否

麻雀遊戯ニ於ケル輸贏カ如何ナル方法ニ於テ行ハレ且其ノ輸贏カ技術ノ優劣ニ關係スルコトコトナキニ非スト雖主トシテ偶然ノ事情ニ繫ルモノナルコト公知ノ事實ニ屬ス故ニ原判示ノ如ク被告ハ昭和六年十一月頃ヨリ同九年一月頃迄ノ間常習トシテ自己經營ノ麻雀俱樂部其ノ他ノ個所ニ於テ前後二百七十數回ニ亘リ山本覺太郎外數名ト共ニ各自千點ニ付一圓乃至三圓ヲ賭スル約定ノ下ニ麻雀牌ヲ使用シ麻雀遊戯ノ方法ニヨリ輸贏ヲ爭ヒ以テ賭博ヲ爲シタルモノト認定シタル以上麻雀遊戯ニ依ル賭博罪ノ判示トシテハ之ヲ以テ足り之以上更ニ具體的ニ該遊戯ノ方法ヲ判示スルコトヲ要スルモノニ非ス (大審院二刑、一〇年(レ)四六號、常習賭博被告事件一〇年三月二八日判決、法律新聞三八五七號四頁)

●情ヲ知ラサル者ヲ介シテ爲シタル收賄事實ニ對スル判示ト當該第三者ニ對スル判示ノ要否

原判決カ證據ニ依リテ認定シタル事實ハ被告ハ鶴野壽一ヨリ職務上ノ指導援助ヲ爲シタル謝禮ノ趣旨ニテ織田吉太郎ノ手ヲ經テ供與セラレタル金百圓ヲ收受シタルト云フニ在レハ吉太郎カ情ヲ知ルト否トハ被告ノ犯罪成立ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス從テ原判決カ被告ノ犯罪事實ヲ判示スルニ當リ吉太郎ノ行爲カ犯罪ヲ構成セサルコトノ說明ヲ爲スヲ要セス (大審院一刑、一〇年(レ)八四五號、收賄被告事件、一〇年九月九日判決、法律新聞三八九五號一四頁)

●賄賂罪ニ於ケル請託ノ證據說明ノ要否

公務員ノ職務ニ關シ謝禮トシテ利益ヲ供與スルトキハ請託ノ有無ニ拘ラス賄賂罪ヲ構成スヘク所論請託ノ有無ノ如キハ必シモ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明スルヲ要スヘキ重要ナル事實ニ非ス (大審院二刑、一〇年(レ)三二七號、收賄賄賂交付幫助商法違反被告事件、一〇年六月一日判決、法律新聞三八八四號七頁)

●誣告事實ノ認定ト告訴狀引用ノ要否

記錄ニ徵スレハ原審ハ公判廷ニ於テ本件訴狀ニ付適式ノ證據調ヲ爲ササルニ拘ラス之ヲ罪證ニ供シタル違法アリ然レトモ誣告ノ事實ヲ斷スルニ當リ必スシモ告訴狀ヲ引用スルコトヲ要スルモノニ非ス他ノ證據ニ依リ之ヲ認定スルヲ妨ケス而シテ本件ニ於テ右告訴狀ヲ除外スルモ原判決引用ノ爾餘ノ證據ニ依リ原判決判示第二ノ事實ヲ認メ得ヘキヲ以テ前記ノ違法ハ原判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルモノト謂フヘク從テ之ヲ以テハ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス (大審院二刑、九年(レ)一三三五號、誣告私文書偽造行使被告事件、九年一月二〇日判決、法律新聞三八二〇號一一頁)

●引用證據説示ノ方法

引用證據ノ説示ハ判示事實ト對照シテ其ノ證據ノ内容ヲ認識シ得ル程度ニ於テスルヲ以テ足ルコトハ屢次本院判例ノ認ムル所ナリ (大審院一刑、一〇年(レ)六三一號、虛偽公文書作成行使私文書偽造行使業務上橫領被告事件、一〇年七月四日判決、法律新聞三八九九號一七頁)



●證據理由ノ説示

證據理由ノ説示ヲ爲スニ當リテハ必スシモ各證據ノ内容ヲ逐一具體的ニ掲記スルコトヲ要セス判文ニ於テ明示シタル各個ノ事實ト對照シ其ノ證據内容ノ何タルヤヲ自ラ推知セシメ得レハ足ルモノトス原判決ノ證據理由ヲ看ルニ判示土地ハ判示部落民共有地ノ一部ニシテ該土地ニ付共有者間ニ被告人主張ノ如キ開墾植林ニ因ル所有權取得ノ申合セナカリシコト又從來共有者間ニ行ハレタル共有地ノ配當ハ單ニ共有者各自ノ使用收益スヘキ區域ヲ定メタルニ過キスシテ分割ニ因リ所有權ヲ取得シタル事實ナカリシコト並共有者間ニ於テ共有地ヲ雜賣シタル事實ナカリシコトハ總テ證人菊池豊初(一、二回)菊池房吉、山田由三郎、星政義ノ各豫審訊問調書中ニ於ケル同人等ノ供述記載ヲ綜合シ之ヲ認ムルニ足ルカ故ニ被告人ノ辯疏ハ之ヲ排斥スヘキモノナリト謂フニ在ルヲ以テ之ニ依レハ所論證據トシテ援用セラレタル證人供述ノ内容ハ其ノ證明セントスル所掲事實ト對照シ之ト同一趣旨ノ内容ヲ有スルモノナルコト判文上之ヲ推知シ得ルニ難カラス而シテ記録ニ依リ此等證人ノ各豫審訊問調書ヲ査閱スルニ夫々判示事實ニ照應スル供述ノ記載アリ之ヲ綜合スレハ優ニ該事實ヲ證明スルニ足ル (大審院四刑、一〇年(レ)七〇〇號、横領被告事件、一〇年七月二三日判決、法律新聞三八八八號一二頁)

●收賄罪ニ對スル法律ノ適用ト判示

原判決ノ確定シタル事實ハ刑法第九十七條第一項前段ニ該當スルコト洵ニ所論ノ如シ原判文法律適用ノ部ヲ閱スルニ單ニ刑法第九十七條第一項トノ記載シ在リテ其ノ前段ヲ適用シタルモノナリヤ明瞭ヲ缺クノ嫌ナキニ非スト雖翻テ其ノ主文ニ於ケル宣告刑其ノ他ニ對照スルトキハ同條項前段ヲ適用シタル趣旨ナルコトヲ推知シ得ヘキカ故ニ所論ノ如ク法律ノ適用ヲ誤リ

タルモノト論スヘキニ非ス (大審院三刑、一〇年(レ)六六四號、收賄被告事件、一〇年八月一七日判決、法律新聞三九〇七號一二頁)

●公文書偽造罪ニ於ケル共犯ノ規定ヲ適用スル旨ノ判示 (刑法第一百五十五條)村役場書記ノ證明用紙交付ト公文書偽造ノ共犯(參照)

●事實ノ認定法條ノ適用ヲ前審ト異ニスル理由判示ノ要否

第二審判決力第一審判決ト事實ノ認定法條ノ適用ヲ異ニスルコトアルモ其異ナル理由ヲ説明スルヲ要スルモノニアラス刑事訴訟法第三百六十條ハ斯ル説示ヲモ要求スル廣汎ナル規定ニアラス (大審院二刑、一〇年(レ)一三號、殺人窃盜被告事件、一〇年三月一八日判決、法律新聞三八二一號五頁)

●收賄罪ニ於ケル犯罪事實ノ判示

名古屋市立女學校教諭ハ公立學校職員制(大正六年勅令第五號)第六條ニ基キ生徒ノ教育ヲ掌ルモノナレハ刑法ニ所謂公務員タルコト疑ナシ、然リ而シテ收賄罪ノ犯罪事實ヲ判示スルニ當リテハ其ノ犯罪ノ主體カ公務員タルコトヲ知り得ヘキ程度ニ於テ具體的ノ判示ヲ必要トシ其ノ職務權限カ法令ニ基因スルコトヲ必要トスルコト夙ニ判例ノ存スル所ナリト雖其ノ準據法令ノ如キハ常ニ必スシモ判文上ニ之ヲ明示セサルヘカラサルモノニ非サルナリ、然カモ現ニ名古屋市立高等女學校ノ教諭カ公務員タルコト上叙ノ如クナル以上同教諭カ原判示ノ如ク他人ヨリ同校ニ入轉學斡旋方ノ依頼ヲ受ケ之レカ謝禮又ハ入轉學者ノ將來ニ於ケル教務上ノ盡力ニ對スル報酬トシテ判示商品券ノ贈與ヲ受クルカ如キハ其ノ入轉學希望者ニ對スル許否ノ決定權カ校長ニ專屬スルト否トニ拘ラス又請託關係ノ有無ヲ論セス均シク教育上ノ職務ニ關係ヲ有スルコト勿論ナリトス、蓋シ公務員カ他人ヨリ或ル利益ヲ收受シタル場合其ノ利益カ職務ニ關係アリヤ



否ヤハ單ナル事實認定ノ問題ニ非スシテ一定ノ職務權限ヲ有スル公務員カ夫等ノ利益ニ關係ヲ有スルコトカ公務員タル身分地位ヨリ觀察シテ職務執行ノ公正ヲ疑ハルヘキ事情アリヤ否ヤヲ客觀的ニ評價シテ判斷スヘキ法律上ノ問題ニ屬スレハナリ (大審院三刑、一〇年(レ)六六四號、收賄被告事件、一〇年八月一七日判決、法律新聞三九〇七號七頁)

●沒收ト證據說明

沒收ハ一附加刑處分ニシテ刑罰ナルコト勿論ナレトモ沒收ノ事實關係ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルカ故ニ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ説明スルコトヲ要セス又押收物件ハ之ヲ罪證ニ供スル場合ニハ被告人ニ示シ其ノ意見辯解ヲ求ムルコトヲ要スルモ單ニ沒收ノ處分ヲ爲スノミノ場合ニ於テハ必シモ被告人ニ之ヲ示スノ要ナシ (大審院一刑、一〇年(レ)八二三號、收賄賄賂要求被告事件、一〇年九月二日判決、法律新聞三九〇六號一二頁)

●裁判書ト公開ノ原則及引用證據ノ種類及內容判示ノ要否

裁判公開ノ原則ハ裁判事件ノ審理並ニ裁判ノ言渡ヲ一般公衆ニ解放シタル公判廷ニ於テ爲スヘキコトヲ謂ヘルモノニシテ裁判書ノ內容ニ關スルモノニアラス有罪ノ言渡ヲ爲ス裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實ヲ記載シ及之ヲ認メタル理由ヲ證據ニ依リ説明スルコトヲ要スルモ此ノ證據說明ヲ記載スルニ當リテハ引用證據カ書證物證人證等何レノ種類ニ屬スルヤ又是等ノ證據ニシテ記錄中ニ存在スルモノニ付テハ其ノ內容如何ニ付テハ記錄ノ記載ヲ援用スレハ足り一々其ノ具體的內容ヲ記錄ヨリ移記スルコトヲ要スルモノニアラス (大審院一刑、九年(レ)一一九二號、賄賂收賄等被告事件、九年一月二六日判決、法律新聞三八一三號一〇頁)

●犯罪日時ニ關スル證據判示ノ要否

原審カ所論ノ如ク勅使河原さい作成ノ始末書中ノ昭和九年舊二月初旬トアルヲ採ツテ以テ昭和九年二月頃ト認定シタリトスルモノヲ以テ事實認定ト證據說明トノ間ニ齟齬アリト斷スルヲ得ス加之犯罪ノ日時ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルハ之ニ對スル證據ノ判示ヲ爲スヲ要セサルカ故ニ偶其ノ日時ニ關スル證據ノ判示ニ瑕疵アリトスルモノヲ以テ判決破毀ノ事由ト爲スニ足ラサルコトハ本院判例ノ夙ニ肯認スルトコロナリ (大審院一刑、一〇年(レ)一〇四四號、詐欺被告事件、一〇年一月二一日判決、法律新聞三九〇七號一二頁)

●證據理由ノ說明方法

有罪ノ言渡ヲ爲ス判決ニ在リテハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ説明スルコトヲ要スルハ刑事訴訟法第三百六十條第一項ノ規定スル所ニシテ此ノ規定ニ依ルトキハ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サルハ必シモ證據說明ヲ要セサルモ罪ト爲ルヘキ事實ニ付テハ證據說明ヲ爲スノ必要アルコト明白ナリ而シテ茲ニ所謂證據說明ハ單ニ證據ノ題目ヲ舉示スルノ義ニ非スシテ如何ナル事實點カ如何ナル證據ニ依リテ證明セラルヘキカ二者ノ連絡關係ヲ查覈スルコトヲ得ル程度ニ於テ判文上證據ノ內容ヲ示シ以テ事實認定ノ合理的基礎ヲ明示スルノ趣旨ニ外ナラス是即チ判決ノ正確ト威信トヲ確保スル所以ナリ然リ而シテ證據ノ內容ハ必シモ之ヲ原文ノママ寫録スルコトヲ要スルモノニ非スト雖或ハ其ノ趣旨ヲ摘示シ或ハ其ノ題目ヲ掲ケテ判示事實又ハ他ノ判示證據トハ綜合對照上其ノ趣旨ヲ認識シ得ル程度ニ於テ之ヲ舉示スルコトヲ要スルノ趣旨ノ所論本院判例ノ夙ニ認ムル所ナリ、若シ夫レ特定ノ證據ニ付テ叙上ノ程度ニ於ケル內容ノ舉示アリヤ否ハ當該判決ニ就テ個別的ニ甄別スヘキ事項ニシテ抽象的ニ斷定シ得ヘキ問題ニ非ス之ヲ原判決ニ徵スルニ其ノ舉示セル死亡「診斷書ノ記載」ハ未タ證據ノ內容ヲ示スニ



足ラスト雖其ノ他ノ判示證據中第一審第一回公判調書ニ於ケル被告人筆太郎ノ供述記載トシテ同被告人カ判示ノ死亡診斷書ヲ休吾ニ渡シタル後云々ナル說示アリ而シテ右判示死亡診斷書ナルモノハ判示事實ト相對照シテ久次顯ハ生前健康體ニシテ既往ニ疾惡ナク且體辯ヲ有セザリシ旨記載アル診斷書ナルコト一見明瞭ニシテ所論判示死亡診斷書ノ記載ナルモノモ畢竟右ト同趣旨ノ内容ヲ有スル記載ナルコト判文全體ノ查覈上自ラ推知セラルルヲ以テ原判決ニ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ (大審院一刑、一〇年(れ)九四一號、詐欺幫助被告事件並ニ附帶私訴事件、一〇年一月三日判決、法律新聞三九二〇號一六頁)

●職務權限認定ト事實理由不備

本件訴訟記録並原審ニ於テ取調ヘタル證據ヲ查スルニ本件會津大川筋農業水利改良工事ハ判示本郷、龜岩崎、門田、松堰ノ各普通水利組合ノ區域ニ涉リ此等ノ水利組合カ共同スルニ非サレハ之カ地元請負ヲ爲シ得サルコトハ當初ヨリ明白ナル事實ナルカ故ニ若右工事カ地元請負トナリタル場合ニ於テ該工事ノ下請負人ノ選定下請負契約締結等ノ職務ヲ執行スル者ハ右五堰水利組合ノ共同シタル團體ノ業務執行者ナラサルヘカラス然ルニ原判決ハ判示門田、松兩堰水利組合ノ管理者タル小山吉藏カ如何ナル關係ニ於テ前示共同團體ノ本件工事ニ關シ下請負人選定下請負契約締結等ノ職務權限ヲ有スルニ至ルヤニ付毫モ判示スル所ナク結局原判決ニハ事實理由不備ノ違法アリ (大審院二刑、八年(れ)一四九四號、收賄贈賄被告事件、九年二月一五判決、大審院裁判例八卷刑事四七頁)

●判決ノ一部ニ證據ヲ舉示シタルトキハ他ノ部分ニ付テハ之ヲ要セス

判決ノ一部ニ於テ證據ヲ舉示シタル以上ハ他ノ部分ニ於テ同一ノ事實ヲ說示スルニ當リ重テ證據ヲ舉示スルハ要ナキコト本院判例ノ存スル所ナリ、原判決ヲ閱スルニ冒頭被告人ハ宮城縣財務係トシテ遊興稅額ヲ調査スヘキ事務ニ任シ右事務ニ附帶シテ遊興稅(主トシテ滯納分)ヲ取立テ營業者ノ爲之ヲ縣支金庫ニ納入スヘキコトヲ慣行上業務ト爲シ居タル所以ヲ證據ヲ舉示シテ之ヲ説明シアルカ故ニ第二事實ノ認定ニ付テハ重テ之ヲ舉示スルノ要ナキト同時ニ第二事實ニ付舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ所論賄賂ハ何レモ被告人ノ職務ニ關シ授受サレタルモノナルコトノ證明アルモノト解スヘシ (大審院四刑、一〇年(れ)一二七六號、業務上橫領收賄被告事件、一〇年一月三日判決、法律新聞三九二三號一七頁)

●新贖者ノ共同施術ニ因ル業務上過失致死ト判示 (刑法第二二一條同項參照)

●賭博行爲ニ非サル旨ノ主張ト犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由

本件取引ハ現物取引ニシテ賭博行爲ニ非ストノ主張ハ犯罪構成要件タル事實ノ否認ニ過キスシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由タル事實上ノ主張ニ非ス (大審院一刑、九年(れ)一一五一號、常習賭博幫助被告事件、九年一月二二日判決法律新聞三八〇三號七頁)

●賭博常習ニ非サル旨ノ主張ト減免ノ理由タル事實上ノ主張

常習賭博ノ行爲アリトシテ訴追セラレタル被告事件ニ付其ノ常習者ニ非ストノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ規定セル減免ノ理由タル事實上ノ主張ニ該當セサルコト夙ニ當院ノ判例トスルコロナリ(昭和二年三月二十六日判決) (大審院二刑、九年(れ)一六〇〇號、常習賭博被告事件、一〇年二月二八日判決、法律新聞三八二〇號一四頁)

●橫領罪ニ於ケル犯罪構成事實ノ否認ト犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由タル事實

橫領罪ハ他人ノ物ノ占有者カ委託者タル他人ノ意思ニ反シテ占有物ヲ領得スルニ因リテ成立ス



ルモノナレハ委託者ノ意思ニ反スルコトハ其ノ構成要件ヲ成スモノト解セサルヘカラス、從ツテ委託者ノ承諾アリタル旨主張スルコトハ則チ犯罪構成事實ノ否認ニ外ナラスシテ刑事訴訟法第二百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由タル事實上ノ主張ト該當セス (大審院三刑、九年(れ)二七四八號、業務上横領私文書偽造行使登記簿原本不實記載行使被告事件、一〇年三月九日判決法律新聞三八四七號一四頁)

●執行猶豫ヲ求ムル爲ノ心神耗弱事由ノ主張ニ付テハ判斷ヲ示スノ要ナシ

原審公判調書ニ依レハ被告人等カ本件ニ關係スル際ニ於ケル心理状態ハ群衆心理ニシテ普通ノ精神状態ニ非ス寧ロ心神耗弱ノ状態ニアリタルモノト認ムルカ安當ニ非サルカト思料セラレ云々各被告人ニ對シ是非執行猶豫ノ御寛大ナル判決アリ度旨辯論シタル旨ノ記載アリテ此ノ辯論ハ趣旨ハ所論ノ如ク各被告人ハ心神耗弱ノ状態ニ於テ本件所爲ニ出テタルモノハナル旨ノ主張ニ非スシテ單ニ執行猶豫ヲ求ムル爲ノ情狀トシテ述ヘタルニ過キササルモノト解スルヲ相當トス而シテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ規定ハ其ノ所定ノ主張アリタル場合ニ關スルモノハニシテ單ニ執行猶豫ヲ求ムル爲ノ情狀トシテ述ヘタルニ過キササル場合ニ關スルモノハニシテ正當トス蓋シ前段ノ場合ニアリテハ其ノ主張ニ對スル判斷ヲ示スコトヲ要スルモ後段ノ場合ニアリテハ執行ノ猶豫スヘキ情狀アリヤ否ヲ判斷スルヲ以テ足り其ノ判斷ヲ判決ニ示スコトヲ要スルモノニ非サレハナリ (大審院二刑、一〇年(れ)一八〇號、業務上過失致死被告事件、一〇年四月一五日決定、法律新聞三八六二號一三頁)

●法律上犯罪ヲ阻却スヘキ事由ト事實ノ否認

辯護人ハ原審ニ於テ右株券ヲ賣却シタルハ相違ナキモ開ハ銀行ノ貸金回收ノ手段トシテ重役ノ承認ヲ得テ賣却シタルモノニシテ横領シタルモノニアラスト主張シアリテ此ノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由タル事實上ノ主張ニ屬スルヲ以テ原判決ニ於テハ此主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示サルヘカラサルモノナルニ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示サルハ右法條ノ規定ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ所論株券ヲ賣却スルニ當リ重役ノ承認ヲ得タリトノ主張ハ畢竟事實ハ否認ニ歸スルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂判斷ヲ示スヘキ事項ニ屬セス (大審院四刑、一〇年(れ)三二五號、業務上横領被告事件、一〇年五月七日判決、法律新聞三八六四號一五頁)

●相對的刑ノ輕減事由ト刑ノ減免ノ理由タル事實上ノ主張

自首ハ相對的刑ノ輕減原因ニシテ自首減輕ヲ爲スト否トハ裁判所ノ職權ニ屬シ必然的ニ刑ノ減免ノ結果ヲ來スヘキモノニ非サルカ故ニ之ニ關スル主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂刑ノ減免ノ理由タル事實上ノ主張ニ該當セス (大審院一刑、一〇年(れ)三二〇號、強盜殺人強盜強姦被告事件、一〇年五月一三日判決、法律新聞三八六六號七頁)

●犯罪事實ニ對スル單純ナル否認ト犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由タル事實上ノ主張

原判決ノ如ク被告人ヲ詐欺罪ニ問擬處斷シタル案件ニ於テ本件公訴事實ハ孰レモ貸借關係ニ過キスシテ犯罪ヲ構成セサル旨ノ辯護人ノ主張ハ畢竟犯罪事實ニ對スル單純ナル否認ニ外ナラスシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由タル事實上ノ主張ニ該當セサルモノトス (大審院一刑、一〇年(れ)八八九號、詐欺被告事件、一〇年九月二六日判決、法律新聞三九二〇號八頁)

●郵便法第二十三條一項違反行爲ノ判示 (郵便法第四十三條同項參照)



第三百六十一條

區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日内ニ判決書ノ謄本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文並罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

刑訴第三六一條ニ所謂適用シタル罰條ノ意義

刑訴第三百六十一條ノ規定ハ區裁判所ニ於ケル事務簡捷ノ爲ニ設ケラレタル特例タルノ趣旨ニ鑑ミレハ同條ニ所謂適用シタル罰條トハ刑罰法令中ナル各法條ノミヲ指スカ如キモ斯ク解スルトキハ當該判決ノ主文ニ掲クル主刑ノ生スル範圍ノ根據明ナラサル場合アルヘキヲ以テ右罰條中ニハ刑法第四十七條第五十七條等ノ如キ刑法ノ總則規定ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス (大垣區裁判所照會、法曹會、九年一月一六日、雜誌一三卷二號八一頁)

第三百六十二條

被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

連續犯中一部無罪ト判決言渡

連續犯ノ起訴アリタル場合裁判所審理ノ結果連續犯ヲ組成スヘキ各個ノ事實ニ付或ハ其ノ有罪ヲ認メ又ハ無罪ヲ認メタルトキハ之ヲ判決書ニ掲載スルニ當リテハ其ノ有罪ノ部分ニ付テハ事實理由ヲ判示シ主文ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ要スルモ其ノ無罪ノ部分ニ付テハ判決書中ニ必スシモ其ノ理由ヲ説示セサルヘカラサルモノニ非ス、從テ斯ノ如キ場合其ノ無罪ノ部分ニ付判文中ニ其ノ事實理由ノ説示ナキノ故ヲ以テ請求ヲ受ケタル事項ニ付判斷ヲ爲サス又ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲ササル違法アリト爲スヘカラサルモノトス (大審院三刑、九年(九)一八三號、濱職被告事件、九年一月五日判決、法律新聞三八一五號一七頁)

罪トナラサル事實ノ認定ト擬律錯誤

被告人等ノ判示所爲ハ賭博罪ヲ構成セサルコト明白ナルニ拘ラス原審カ判示事實ヲ認定シナカラ之ヲ刑法第八十五條但書ニ該當スルモノト爲サス同條本文ニ間擬シ各被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ罪トナラサル事實ニ對シ不當ニ刑法第八十五條本文ヲ適用シ刑ノ言渡ヲ爲シタル違法アルモノトス、尤モ原判決ハ其ノ末尾ニ於テ被告人及辯護人ノ本件賭博ハ一時ノ娛樂ニ供シタルモノナリトノ主張ニ對シ被告人等ニ對スル司法警察官檢事ノ各取調ノ結果其ノ他ヲ援用シテ其ノ然ラサル所以ヲ説明シ以テ右主張ヲ排斥シタルモ有罪判決ニ於ケル法律ノ適用ハ其ノ認定シタル事實ヲ對象ト爲スヘキモノナルコト論ヲ俟タサルトコトナルカ故ニ原判決ノ認定シタル事實ニシテ既ニ前叙ノ如クナル以上ハ右説明アルノ故ヲ以テ原審ノ擬律ヲ正當ト爲スコトヲ得ス (大審院三刑、八年(九)一六九五號、賭博被告事件、九年二月七日判決、大審院裁判例八卷刑事二頁)

放火事件ト犯罪ノ無證明

本件公訴事實ノ要旨ハ被告人和ハ奈良縣生駒郡北倭村大字上眞弓山長弓寺塔中ノ一ナル寶光院ノ住職里村心城同なかノ二女ナル處被告人一家ハ昭和五年右心城ニ於テ長弓寺ノ會計ヲ掌ルニ至リテヨリ同寺塔中ナル藥師院岡崎良海方及法華院清水隆堅方ト兎角折合惡ク就中良海妻岡崎コシノノ如キハ右なかヲ嫉視シ事ニ觸レ中傷的言辭ニ出ツルコトアル爲同人ニ對シ快カラス思ヒ居タルニ昭和七年一月十七日清水方薪小屋ヨリ次テ同年三月十日岡崎方風呂場ヨリ出火シタル事件ニ付被告人和カ同縣生駒警察署ニ於テ放火被疑者トシテ取調ヲ受クルニ及ヒ爾來放火犯人ナルカ如キ世評ヲ生スルニ至リタルニヨリ被告人和及なかハ右ハ畢竟岡崎ヨシノニ於テ被告人一家ヲ陥レンカ爲ニ故意ニ被告人和ノ所爲ナルカ如ク言觸ラシタルニ因ルモノナリト思惟シ



深ク同人ヲ恨ムニ至リ機會アラハ同人ヲシテ放火ノ嫌疑ヲ受クルニ至ラシメ之ニ報ユルトコロ  
 アラント欲シ居タル折柄同年五月十二日朝被告人和ニ於テ偶同日同寺堂守高須某カ他出シタル  
 ヲ知ルヤ淺慮ニモ長弓寺本堂東側ナル村木小屋(堂守住居附近)ニ密ニ放火シ以テ岡崎ヨシノ  
 ヲシテ放火ノ嫌疑ヲ受ケシメ同人ニ對スル恨ヲ露ラサント決意シ同日午前十時過頃自宅ニ在ッ  
 タル燐寸ヲ携ヘ長弓寺所有ノ右材木小屋ニ到リ之ニ附設セラレタルコクマ(落葉ヲ撮集メタル  
 モノ)置場ニ右燐寸ヲ摺リテ放火シ因テ該材木小屋一棟ヲ全燒セシメタリト云フニ在レトモ右  
 事實ヲ認ムルニ足ル證明十分ナラサルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ被告人和ニ對シ  
 無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス (大審院三判、八年(九)一〇八七號、放火被告事件、大審院裁判例  
 八卷刑事一八頁)

●選舉運動ニ關スル犯罪事實ヲ認ムヘキ證明ナキ場合

本件公訴事實ハ被告人ハ鹿兒島縣揖宿郡姪村郡區長ナルトコロ昭和八年四月七日施行ノ同村  
 ヲ會議員選舉ニ際シ同村郡區部落ヨリ立候補シタル鮫島小四郎、川邊銀藏、永井萬吉、川内新  
 吉及田口軍之助ノ五名ヲ當選セシムル目的ヲ以テ同年三月十二日同郡區役所ニ同區内ノ有權者  
 タル有志及人民組長西德等約五十名ヲ召集シ前記選舉ニハ同區ヨリ右五名ヲ推薦スヘキ旨協議  
 シ同人等ヲ右議員候補者トシテ決定シタル上同候補者等ノ選舉地盤ヲ同區内各部落ニ割當テ人  
 民組長西德外十七名ヲ其ノ頃前同區役所ニ召集シ各之ニ面接シテ右候補者五名ノ推薦狀名刺等  
 ヲ各割當部落内ノ各選舉人ニ配布シ運動方ヲ託シ又西德ニ對シテハ同區浦芝原部落選舉人ニ右  
 候補者田口軍之助ニ投票セシムヘキ選舉運動ヲ指示シ西德ヲシテ同年四月六日夜同部落青年舍  
 ニ選舉人武元利右衛門外約四十名ヲ集メシメ同部落有力者ナル窪傳左衛門、窪十次郎、窪甚左

衛門共同シ利右衛門等ニ個々ニ面接シ軍之助ニ投票セラレ度キ旨依頼セシメ以テ不法ニ選舉運  
 動ヲ爲シタリト云フニ在レトモ被告人ニ對スル右犯罪事實ハ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事  
 訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス  
 (大審院二判、八年(九)一九四二號、村會議員選舉罰則違反被告事件、九年四月一六日判決、大審院裁判例  
 八卷刑事二二頁)

●收賄事件ト犯罪ノ無證明

本件公訴事實ハ被告人ハ神奈川縣會議員ナル處同縣鎌倉郡豊田村本郷村小坂玉繩村三村ヲ貫流  
 スル柏尾川改修工事ニ付被告人ハ其ノ地位ヲ利用シ該工事ヲ池田孫七ニ請負ハシムル爲之カ仲  
 介ヲ爲シタルカ其ノ際孫七ニ對シ右改修工事ヲ請負フニ就テハ用地買收ノ縣豫算小額ノ爲地元  
 三村居住ノ各地主トノ間買收ノ協定困難ニ付各村ニ於テ其ノ不足額ヲ補フ必要アルヲ以テ之ニ  
 充當スル爲請負金ノ約五分金七千圓支出セラレタキ旨申聞ケ承諾ヲ得其ノ後大正十五年三月八  
 日孫七カ縣トノ間ニ隨意契約ニ依リ請負金十四萬四千八百圓ニテ該工事ヲ請負フヤ更ニ同人ニ  
 對シ前掲用地買收不足額填補費トシテ取敢ヘス前示三村ニ金千圓宛合計金三千圓交付スヘシト  
 要求シ同月十二、三日頃同郡戸塚町料理店伊勢吉ニ於テ當時豊田村收入役奉職中ノ第一審相被  
 告人吉田庄藏及當時ノ同村々長實方金五郎本郷村々長佐相竹次郎列席ノ上前記趣旨ノ下ニ孫七  
 ヲリ現金三千圓ノ交付ヲ受ケ其ノ情ヲ告ケテ庄藏ニ保管ヲ託シ同人ハ之ヲ豊田村役場金庫内ニ  
 保管シ居リタルカ超テ昭和二年四月中頃被告人ハ右第一審相被告人ト共謀ノ上右保管中ニ係ル  
 前示金員ヲ其ノ趣旨ニ反シテ擅ニ自己等ニ分配領得センコトヲ企テ其ノ頃順次ニ被告人ハ庄藏  
 ヲシテ内金千圓ヲ自己ニ交付セシメ尙金七百圓ヲ佐相竹次郎ニ贈與シ殘金千三百圓ハ之ヲ庄藏



ニ於テ領得シ以テ不法ニ該金額ヲ分配横領シテ各自己ノ用途ニ費消シタリト云フニ在レトモ右  
公訴事實ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十二條ニ依  
リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス (大審院二刑、八年(九)一七九八號、横領被告事件、九年四月二  
六日判決、大審院裁判例八卷刑事二三五頁)

●保險料横領行爲ト犯罪ノ無證明

本件公訴事實中上告ニ係ル業務上横領ノ點ハ被告人ハ帝國火災保險株式會社ノ代理店主トシテ  
同會社ト保險契約ヲ締結シタル者ヨリ保險料金ヲ受領シ之ヲ右會社本店ニ送付スル業務ニ從事  
シ昭和五年一月二日頃ヨリ昭和七年八月二日頃迄ノ間ニ前記會社ト保險契約ヲ締結シタル小川  
雄助等三十數名ヨリ集金セル保險料ヲ占有保管中犯意ヲ繼續シテ數十回ニ亙リ八百八十四圓餘  
ヲ前記會社本店ニ送金セスシテ其ノ頃栃木縣那須郡大田原町等ニ於テ自己ノ經營セル肥料商資  
金又ハ家計費等ニ費消横領シタリト云フニ在レトモ右犯罪事實ハ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ  
刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス  
(大審二刑、九年(九)一三〇號、業務上横領被告事件、九年五月二四日判決、大審院裁判例八卷刑事二五頁)

●郵便電信係ノ横領行爲ト犯罪ノ無證明

本件公訴事實ハ被告人ハ北海道網走郡津別村津別市街地所在三等郵便局ナル津別郵便局ニ通信  
事務員トシテ該郵便局郵便電信係事務ニ從事中昭和八年四月七日午後六時十分頃右郵便局郵便  
物發着室ニ於テ自己ノ職務上取扱ニ係ル美幌郵便局宛遞送ニ附スヘキ郵便物金七百四十圓入價  
格表記一通及爲替證書入書留通常書狀郵便物合計十一通ヲ擅ニ着服横領シ殘餘ノ郵便物ハ同局  
備付郵便物遞送用物件俗稱麻製大行囊ニ納メタルモ右横領事實ヲ掩ハントシ恰モ自己ノ右ノ横

領郵便物ハ遞送中ニ何者カカ拔取り窃取シタルカ如クニ觀察ヲ爲サシムル爲該室備付郵便物俗稱  
封印切ニテ右大行囊ヲ長サ約四寸ニ切り損傷ヲ爲シタルモノナリト云フニ在レトモ之ヲ認ムヘ  
キ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無  
罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス (大審院四刑、八年(九)一五六〇號、業務上横領郵便法違反被告事件、  
九年六月二二日判決、大審院裁判例八卷刑事四一頁)

●民事訴訟ヲ手段トスル詐欺罪ト犯罪ノ無證明

仍テ審按スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ亡父新治郎名義ノ預金通帳ニ依リ奈良縣山邊郡丹波市  
町所在株式會社產業貯蓄銀行丹波市支店ト當座取引繼續中昭和四年八月十日頃預金千圓ノ拂戻  
ヲ受クルニ當リ偶々印章ヲ持參セサリシモ同支店長乾米藏ノ好意ニ依リ預金通帳ノ受領者證印  
欄ニ受領ノ捺印ヲ爲サシテ便宜ノ力拂戻ヲ受ケタルニ拘ラス其ノ捺印ヲ爲ササルヲ奇貨トシ  
右金千圓ハ被告人ニ於テ受領シタルモノニ非ス乾カ支店事務監査ニ備フル爲必要ナレハ一時之  
ヲ融通セラレ度シトテ右ノ如キ拂戻ノ記載ヲ爲シタルモノナルトコロ其ノ後乾ニ對シ該融通金  
ノ返還ヲ求メタルモ同人ハ之ニ應セサルモノナルカ如ク事實ヲ虛構シ昭和五年五月十七日奈良  
區裁判所ニ對シ辯護士峰本新太郎ヲ訴訟代理人トシテ右事實ニ基キ乾ヲ被告トスル金千圓ノ融  
通金返還請求訴訟ヲ提起シ裁判所ヲ欺罔シテ乾ヨリ金千圓ヲ騙取セントシタルモ結局敗訴ニ歸  
シ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリト云フニ在レトモ右犯罪事實ハ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ  
刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス  
(大審院二刑、九年(九)八三二號、詐欺未遂被告事件、九年九月一三日判決、大審院裁判例八卷刑事六一頁)

第三百六十四條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

刑事訴訟法 第一卷 公判ノ裁判 (三六四條)



五 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ(抄)  
●傷害罪ニ對スル重大ナル事實誤認ト告訴取下アリタル單純暴行罪ニ對スル公訴棄却ノ判決  
(刑訴第四一四條其一、其二同項參照)

第三百六十五條 左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ(抄)

二 被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

●上告審ニ於ケル被告人ノ死亡ト私訴ノ裁判 (刑訴第五九〇條同項參照)

第三百七十二條 押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス(第一項抄)

●沒收言渡ナキ押收物件ノ還附手續

檢事ノ證據品處分ニ關シ判決ニ證據物ニ付特ニ言渡ナキ場合ハ押收ヲ解ク言渡アリタリト看做ス關係上必然的ニ被押收者タル差出人ニ還付スルノヤムナキニ歸スルモ被害者又ハ所有者各明瞭ナル場合ニ於テハ押收ニ係ル贓金品ハ被押收者タル受刑者ノ承諾ヲ得テ之ヲ右被害者又ハ所有者ニ還付スル手續ヲ爲スヲ相當トス (甲府裁判所檢事局照會、九年二月二日決議、雜誌一三卷三號五八頁)

### 第三編 上 訴

#### 第一章 通 則

第三百七十八條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

●被告人ノ上訴取下ト刑訴第三七八條ノ同意權利者 (刑訴第三八二條但書同項參照)

第三百八十二條 檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

●第二審中親告罪ニ對スル告訴取消後ノ控訴取下ト第一審判決ノ效力及執行停止

第二審ニ於テ親告罪ニ對スル告訴ノ取消アルモ判決前控訴ノ取下ヲ爲シタルトキハ第一審判決確定ス而シテ之ニ對シテ再審又ハ非常上告ヲ許サス刑ノ執行ニ付刑訴第五百四十六條末號ヲ活用スルノ外ナシ、蓋シ訴訟行爲ハ錯誤ニ因リ之カ取消ヲ爲スコトヲ許ササルモノナルヲ以テ有效ナル控訴ノ取下ニ因リ直ニ第一審判決ハ確定ス而シテ此ノ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ノ再審原由ヲ規定シタル刑訴四八五條各號ノ何レニモ該當セス又非常上告理由タル法令違反ハ審判ノ時ヲ標準トシテ決スヘキモノニシテ確定ノ時ヲ標準トスヘキモノニアラサルヲ以テ再審又ハ非常上告ハ之ヲ許サス (大垣區裁判所照會、法曹會、一〇年四月一二日決議、雜誌一三卷六號一〇五頁)

●被告人ノ上訴取下ト刑訴第三七八條ノ同意權利者

刑事訴訟法第三百八十二條但書ノ同意ハ被告人ノ爲シタル上訴ニ對スル同意ト解スヘシ  
右但書ハ未成年者準禁治產者又ハ妻タル被告人カ上訴シタル場合ニ是等被告人カ自己ノ爲シタル上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スニ付夫レ夫レ第三百七十八條ニ規定シタル者ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トシスル被告人ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノト解スヘケレハナリ (鋼路地方裁判所檢



## 第二章 控 訴

第三百九十四條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

●連續犯中二個ノ獨立セル裁判ノ内有罪部分ニ對スル上訴ノ效力ト公訴事實(刑訴第二九一條同項参照)

●連續犯タルヘキ事實ニ於ケル被告人ノ控訴ト移審 (刑法第五五條同項参照)

第四百一條 控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除ク外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルト

キハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ

### ●控訴ノ覆審主義

刑事訴訟ノ控訴審ニ於テハ第一審判決ノ當否ヲ審査シテ控訴ノ理由アリヤ否ヲ判示スルノ要ナキモノナルコト屢次判例ノ示ストコロノ如シ蓋シ現行刑事訴訟法ハ控訴ニ付テハ純然タル覆審主義ヲ採用シ控訴審ハ事件ニ付覆審ヲ遂ケ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトシ上級審トシテ下級審ノ判決ノ當否ヲ批判シ其ノ取消又ハ棄却ヲ爲スヘキモノニ非ストシテ同法第四百一條第一項ノ規定ヲ設ケタル立法ノ精神ニ照シ疑ヲ容レサレハナリ原判文ヲ閱スルニ其ノ末尾ニ於テ(本件控

訴ハ其ノ理由ナシ)トノ附記アリ恰モ原審ニ於テハ第一審判決ノ當否ヲ審査シ之ヲ判示シタルモノノ如ク見ユルモ這ハ單ニ後日檢事ニ於テ刑ノ執行上ノ便宜ニ資センカ爲附記サレタル事項ニ過キスシテ判決ノ内容ヲ爲スモノトハ解シ難シ (大審院三刑、一〇年(れ)一一九四號、詐欺橫領被告事件、一〇年一月九日判決、法律新聞三九一六號一七頁)

### ●控訴審ニ於ケル審理

控訴ハ覆審ナルヲ以テ控訴審ニ於テハ控訴ニ係ル被告事件ニ於ケル不服ノ點ノ如何ヲ問ハス全部ノ事實ニ付更ニ審理ヲ遂ケテ相當ナル判決ヲ爲スヘキモノニシテ第一審判決ノ當否ヲ審査スルモノニ非ス從ツテ被告人控訴ヲ爲シタル事件ニ付必スシモ被告人ヲシテ控訴ノ趣旨ヲ陳述セシメ其ノ不服ノ理由ヲ明確ニスル要アルコトナシ (大審院二刑、九年(れ)一五三三號、殺人未遂傷害被告事件、一〇年二月七日判決、法律新聞三八三六號一七頁)

第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

### ●上級審ニ於ケル事實認定及法律適用ノ更正

裁判所ハ眞實主義ニ則リ事件ノ審判ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ檢事ノ起訴シタル事實ノ範圍ヲ逸セサル限り眞實ニ即シタル事實ヲ闡明シ之ニ對スル法律ヲ適用セサルヘカラサルコト當然ナリ從テ控訴裁判所ハ檢事ノ起訴及第一審裁判所ノ見解ニ拘束セララルコトナシ而シテ刑事訴訟法第四百三條ハ唯第一審裁判所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ禁スルニ止マリ事實認定及法律適用ノ更正ヲ禁スルモノニ非ス原審ハ檢事ノ起訴ノ範圍内ニ於テ第一審裁判所ト事實ノ認定法律ノ適用ヲ異ニシタルモ刑ニ變更ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百三條ニ違反セル違法アルコト



ナシ (大審院一刑、九年(れ)一一五一號、常習賭博補助被告事件、九年一月二二日判決、法律新聞三八〇三號七頁)

●上級審ニ於ケル罰金ノ輕減及之ニ對スル勞役場留置ノ言渡ノ當否

被告人忠吉ハ昭和八年十一月頃其ノ長男緒方忠藏ト共同シテ森田初治所有ニ係ル熊本縣菊池郡龍門村大字龍字大野七百六十八番山林ニ於ケル價格金十圓相當ノ樫立木ヲ盜伐シ該伐採木ヲ以テ木炭(價格金三十圓餘)ヲ製造シタルモノナリ、法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ森林法第八十四條第二號第七號刑法施行法第十九條第一項第二條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑並前示贓額十圓以上其ノ二倍以下ノ罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月及罰金十五圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ハ刑法第十八條ニ從ヒ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置シ右懲役刑ニ付テハ其ノ執行ヲ猶豫スルノ情狀アフト認メ刑法第二十五條ニ則リ裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス叙上ノ如ク當院ニ於テ原判決ハ罰金刑(五十圓)ヨリ輕キ罰金刑ヲ言渡ス以上ハ縱令原審ニ於テ罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ヲ爲サス當院ニ於テ之カ言渡ヲ爲スモ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スモノト爲スヲ得サルヲ以テ當院ハ前示ノ如ク刑法第十八條ニ則リ罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ヲ爲シタルモノトス(大審院三刑、九年(れ)一〇六九號、森林竊盜被告事件、九年一月二二日判決、大審院裁判例八卷刑事七三頁)

●略式命令ヨリ重キ科刑ト不利變更

刑事訴訟法ニ所謂略式手續ハ正式裁判ノ請求ニ依リ本來ノ裁判手續ニ復歸シ其ノ判決ニ因リ略

式命令ハ效力ヲ失フモノナルヲ以テ正式裁判ハ略式命令ニ對スル上訴ニアラス從ツテ亦刑事訴訟法第四百三條ノ適用ナキハ勿論之ト其ノ趣旨ヲ同フスヘキ法理ノ存セサルヲ以テ略式命令ノ科刑ヨリモ重キ科刑ヲ爲シタルハトテ該正式裁判ヲ不當ナリト目スヘキニアラス (大審院二刑、九年(れ)一三六二號、暴行被告事件、九年一月一七日判決、法律新聞三八一五號一四頁)

第三章 上告

第四百八條 上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

●第一審手續ト上告理由

第一審公判調書ヲ査スルニ第一審公判ニ於テ所論ノ如ク被告人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシ違法毫モ存スルコトナキノミナラス假ニ所論ノ如キ事實アリタリトスルモ既ニ辯護人ニ最終ニ陳述ヲ爲サシメタル以上ハ被告人ニ最終ノ陳述ヲ爲サシムルノ要アルコトナク又假令之ヲ違法ナリトスルモ第一審ニ於ケル審理手續ノ違法ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲ス事ヲ得ス(大審院四刑、一〇年(れ)七一四號、變造有價證券交付被告事件、一〇年七月二六日判決法律新聞三八八八號一二頁)

●第二審ノ公判手續更新前ニ於ケル訴訟手續ノ違背ト上告理由

上告ナルモノハ原則トシテ第二審判決ヲ對象トシ其ノ判決又ハ其ノ基本ト爲リタル訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ許サルヘキ性質ノモノニシテ第二審判決ノ基本ト爲ラサル訴訟手續例ヘハ第一審ノ訴訟手續又ハ第二審ニ於テ公判手續ノ更新アリタル場合其



ハ更新前ノ訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ主張シテ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモハトス、仍テ原審カ所論ノ如ク公開禁止ノ決定ヲ宣言シテ公衆ヲ一時退廷セシメタルハ其ノ第一回公判手續進行中ノ出來事ニシテ該公判手續ハ其ノ第二回又ハ第三回ノ公判ニ於テ審理ヲ更新セラレタルモノニ係ル而シテ判決ノ基本ト爲リタル公判手續ハ第三回以後ニシテ其ノ第三回公判ニ於テハ公開ヲ禁止シタル事跡ナキコト明ナルカ故ニ結局本論旨ハ原審ニ於ケル公判手續更新前ニ行ハレタル對審ノ公開ニ關スル法則違反ノミヲ上告ノ理由トシテ主張スルモノト云フヘク冒頭ノ説明理由ニ照シ上告理由トシテ適法ナラサルモノトス (大審院三刑、一〇年(れ)八九〇號、新聞紙法違反被告事件、一〇年一〇月二日判決、法律新聞三九二〇號一三頁)

第四百九條 上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

●證據ニ依ラサル事實認定ト法令違反ヲ基礎トシタル上告理由

原判決書ヲ査スルニ被告人伴藏カ直ヨリ選舉運動ノ報酬トシテ金十圓ヲ又被告人彌三郎カ直ヨリ同様金二十圓ヲ各供與ヲ受ケタリトノ所論判示事實ニハ之ヲ證スヘキ證據ノ舉示毫モ之レナキコト洵ニ所論ノ如シ然レハ原判決ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アリ而モ該違法ハ被告人伴藏及同彌三郎ニ對シテハ追徵ニ關シ判決ノ結果ニ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ右被告人兩名ニ關スル原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス (大審院四刑、八年(れ)一三六四號、縣會議員選舉罰則違反被告事件、八年一月二八日裁判大審院裁判例八卷刑事一八頁)

●上告審ノ訴訟手續違反ノ主張ト上告理由

凡ソ上告ナルモノハ下級審ノ判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ

理由トスルトキニ限り許容セラルヘキ性質ノモノニシテ單ニ上告審ノ訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ主張スルカ如キハ上告理由トシテ許サルヘキモノニ非サルナリ (大審院三刑、一〇年(れ)二二四號、放火被告事件、一〇年四月二四日判決、法律新聞三八三九號一六頁)

●虛無ノ證據ニ依ル事實認定ト上告理由

〔上告趣意書〕 上告人森田卯之松ノ第二犯罪中其ノ二以下ノ罪ヲ認定スルニ方リ「判示第二ノ二乃至十ノ事實ハ被告人卯之松ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ得ヘキ旨」説示セリ仍テ原審公判調書ヲ閱讀スルニ第二犯罪ノ(二)ハ藤井貞治ニ對シ運動報酬及投票買收費金二十五圓ヲ二回ニ供與シタリト謂フ被疑事項ニ係リ被告人卯之松ハ「五月一日頃藤井ニ渡シタル金十五圓ハ櫻ノ花見ノ費用ニシテ森田善五郎ノ選舉トハ何等關係ナク又同月十一日頃ハ金十圓ハ藤井ヨリ請求ヲ受ケ(備考同人ハ善五郎ノ選舉事務長ナリ)渡シタルモノナルカ選舉運動ノ報酬及投票買收等ノ意味ヲ有スルモノニ非ラス」ト辯明シ居レルモノニシテ(記錄七三〇枚参照)原審判示ノ如キ不正ノ供與タル事實ヲ自認セルコト絶對ニ存在セス然ラハ畢竟原裁判所ハ全然虛無ノ證據ニ依リテ右判示第二ノ(二)事實ヲ肯定シ被告ヲ處斷シタル違法アリ當然破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リ

〔判決理由〕 原判決ハ被告人卯之松ニ對スル判示第二ノ(二)ノ犯罪事實ニ付同人カ原審公廷ニ於テ同趣旨ノ供述ヲ爲シタリトナシ之ヲ證據ニ援用スト雖原審公判調書ニ叙上ノ供述アリト解スヘキ記載ナキヲ以テ原判決ハ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法アルモノニシテ此ノ違法ハ原判決中同被告人ニ對スル犯罪事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘク隨テ同人ニ對スル原判決全部ヲ破毀スヘキモノト認メ事實審理ノ決定ヲ爲スヘキモノトス (大審院四刑、八年(れ)一五〇四號、



村會議員選舉罰則違反被告事件、八年二月一五日裁判大審院裁判例八卷刑事九頁)

●虚無ノ證據ニ因ル事實認定ノ違法

被告人ハ原審公判廷ニ於テ松田利雄カ被告人ノ操縦スル自動自轉車ノ三、四尺前方ヲ横斷セムトスルニ及ヒ云々ノ趣旨ノ供述ヲ爲シタルモノニシテ三、四間前方ヲ横斷セムトスルニ及ヒ云々ト供述シタルコトナキニ拘ラス其ノ供述ヲ爲シタルモノトシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ結局虚無ノ證據ニ依リ事實ヲ認定シタル違法アルモノト謂フヘク而モ其ノ違法ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキコト明白ナルカ故ニ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス (大審院二刑九年(れ)九六八號、業務上過失致死被告事件、九年九月一三日決定、大審院裁判例八卷刑事八二頁)

●契印ナキ公判調書ノ效力ト採證法違背 (刑訴第七十一條同項参照)

●違警罪即決言渡手續ノ違背ト上告理由 (違警罪即決例第二條同項参照)

陪審廷ニ於ケル證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關スル裁判長ノ意見ノ表示ト法令違反 (陪審法第七七條但書同項参照)

第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス(抄)

- 十一 不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ
- 十三 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ
- 十四 公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ
- 十六 法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セザリシトキ
- 十九 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十一 判決書ニ列事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

●公判期日通知ノ懈怠ト辯護權ノ不法制限

被告人田淵麻藏及鈴木信治ハ原審ニ於テ一松定吉ヲ辯護人ニ選任シ其ノ届出ヲ爲シタルニ原審ハ昭和九年十一月八日ノ第一回公判期日ニ同辯護人ヲ呼出サスシテ審理ヲ進行シタルコト明白ナリ而シテ同期日ニ於テハ檢事ノ公訴事實ノ陳述アリタル後他ノ共同被告人ノ取調アリタルニ止リ被告人麻藏及信治ニ對シテハ事實ノ取調無カリシモノナリト雖辯護人ハ被告人ノ爲ニ在廷シ必要トスル事項ニ付共同被告人ノ訊問ヲ裁判長ニ請求シ又裁判長ノ處分ヲ不當トスルトキハ之ニ對シ異議ヲ申立ツルハ權利アルモノナレハ事件ノ分離ヲ言渡シタル場合ハ外開廷ニ際シテハ必スヤ之ヲ呼出スコトヲ要シ此ノ手續ヲ怠ルトキハ辯護權ノ不法制限トナルモノトス

(大審院二刑、一〇年(れ)二五〇號、贈收賄等被告事件、一〇年五月二日決定、法律新聞三八八四號、同趣旨大審院四刑、八年(れ)一五六四號、八年二月二日大審院裁判例刑事三二頁)

●豫審請求書ヲ讀ミ聞ケサル證據調ト採證法違背

原審公判調書ヲ閱スルニ原審裁判長ハ所論被告人ニ對スル第一回豫審訊問調書ノ證據調ヲ爲スニ當リ所論豫審請求書ヲ公判廷ニ顯出セシメ之ヲ被告人ニ讀聞ケ意見辯解ヲ徵シタル事跡ノ認ムヘキモノナシ、果シテ然ラハ原審カ本件ノ犯罪事實ノ證據トシテ採用シタル被告人ニ對スル第一回豫審調書中ノ供述記載ハ所論豫審請求書記載ノ犯罪事實ト相俟ツニ非サレハ其ノ意義不明瞭ナルコト勿論ナルカ故ニ斯カル場合該豫審調書ニ於ケル被告人ノ供述ノ内容ヲ罪證ニ供セントセハ其ノ證據ノ取調ヲ爲スニ當リ須ラク豫審調書中ノ問答ヲ讀聞カスヘキハ勿論之ト共ニ豫審請求書中ノ記載事實ヲモ讀聞カセ被告人ヲシテ之ニ對スル意見辯解ヲ爲スノ機會ヲ與ヘサ



ルヘカラサルニ不拘原判決ニ於テハ前叙ノ如ク所論豫審請求書ヲ被告人ニ對シ讀聞カスコトヲ爲サス單ニ豫審調書ノミニ付證據調ヲ爲シ然カモ所論ノ如ク被告人供述ノ内容ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニシテ本論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス (大審院三刑、九年(九)一九號、治安維持法違反被告事件、九年三月三十一日決定、大審院裁判例八卷刑事二四頁)

●決定留保ヲ爲シタル證人申請ニ付決定ヲ爲ササル違法

記録ヲ査スルニ原審第一回公判調書ノ記載ニ依レハ岡上辯護人ハ被告人櫻木健一ノ爲證人林健一、梶西寅一、山下龜代、南純一、森糸ノ訊問ヲ申請シタルニ對シ原審ハ相被告辯護人ノ證人申請ト共ニ其ノ中ノ梶西寅一、野中廣治、森健一ヲ證人トシテ喚問シ其ノ他ノ證人ハ其ノ採否ハ決定ヲ留保スル旨ヲ告ケタル旨ノ記載アルモ其ノ後該決定留保ノ證人申請ニ付テハ何等ハ決定ヲ爲サスシテ審理ヲ終結シタルモノニシテ刑事訴訟法第四百十條第十四號ニ該當ス (大審院二刑、九年(九)二六八號、傷害致死被告事件、九年四月二六日決定、大審院裁判例八卷刑事三九頁)

●採證法違背及公判手續不更新ノ違背

〔上告趣意書〕 辯護人川崎齊一郎、山口貞昌上告趣意書第一點ハ原院ニ於ケル第一回公判期日ハ昭和八年十一月十四日ニシテ同日檢事ハ被告事件ヲ陳述シ裁判長ハ事實及證據ニ關スル問查ヲ爲シ被告人ハ是ニ對スル辯明ヲ爲シタルモ未タ結審ヲ爲スニ至ラスシテ同年十二月二日ニ公判ヲ續行シタル處右第二回公判期日ニ本件上告人吉村稔秋ハ出廷セス同人ニ對スル事件ノ審理ヲ他ノ共同被告ヨリ分離シ別ニ同年十二月七日ニ之ヲ爲スヘキコトヲ決定セリ而シテ此ノ續行期日ハ第一回公判ヨリ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百五十三條ニ依リ須ラク公判手續ヲ更新スヘキニ拘ラス原院ハ此ノ更新ヲ爲ササル儘直ニ審理ヲ終結シ

仍テ判決ヲ爲シタルコト第一回乃至第四回公判調書ノ記載ニ徴シ疑ナキ所ニ係リ同法第四百十條第十六號所定ノ破毀原由存スルモノト信スト云ヒ、同第二點原判決ハ上告人其ノ他共同被告ノ原院第一回公判ニ於ケル供述被告人及證人ノ豫審調書關係人ノ始末書第一審公判調書押收書類等ヲ證據ニ引用シ以テ上告人ノ有罪ナルコトヲ說示認定シタリ然レトモ原院ニ於ケル事件ノ審理ハ昭和八年十一月十四日第一回公判ヲ開キ其ノ後十五日以上ヲ經過セル同年十二月七日ニ至リ續行公判ヲ開廷シ結審ヲ爲セシモノニシテ判決ノ基本タル此ノ續行期日ニハ公判手續ノ更新ヲ爲サス(一) 上告人ニ對シ被告事件ノ事實ヲ問查セサルノミナラス(二) 亦前記豫審調書以下ニ付證據調ヲ爲シタルコトナキヲ以テ是等證據ハ渾テ斷罪ノ資料ニ引用スルヲ得サルモノニシテ原判決ハ此ノ瑕瑾ニ因リ破毀ヲ免レ難キモノト思料スト云フニ在リ

〔決定理由〕 仍テ記録ニ徴スルニ原審ノ審理ニハ論旨第一點所論ノ如ク法律ニ依リ公判手續ヲ更新スヘキ事由アル場合ナルニ拘ラス之ヲ更新セサリシ違法アリ又原判決ニハ論旨第二點所論ハ如ク適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ罪證ニ供シタル違法アリ (大審院二刑、九年(九)一四號、詐欺私文書偽造行使被告事件、九年三月二一日決定、大審院裁判例八卷刑事三七頁)

●公判手續更新ヲ爲ササル場合ト上告理由

刑事訴訟法第三百五十三條ニ依レハ開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シタル場合ハ勿論其ノ他如何ナル事由ニ基クテ問ハス苟モ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニハ當然公判手續ヲ更新セサルヘカラス故ニ若シ該法條ニ違反シ引續キ十五日以上開廷セサリシニ拘ラス公判手續ヲ更新セサリシ場合ニハ同法第四百十條第十六號ニ從ヒ常ニ上告ノ理由アルモノトス記録ヲ査スルニ原審第二回公判ヲ開廷シタルハ昭和十年三月十一日ニシテ其ノ第三回公判ハ同



月二十日ナリシモ同期日ニハ被告人板谷寅之助及辯護人共ニ出頭セス而シテ本件ハ被告人ノ出頭ナクシテ開廷シ得ヘキ事件ニ非サルヲ以テ原審ハ同被告人ニ對シ審理ノ手續ヲ爲サス更ニ期日ヲ指定シ同年四月一日ヲ第四回公判期日トシテ其ノ召喚狀ヲ發シ同日公判ヲ開廷シタルモノナルコト明ナルヲ以テ前示法條ニ所謂引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ該當シ原審ハ須ラク其ノ公判手續ヲ更新セサルヘカラサルモノトス然ルニ原審第四回公判調書ニ依レハ所論ノ如ク毫モ公判手續ヲ更新シタル形跡アルコトナシ、然レハ原審公判手續ハ前示刑事訴訟法第三百五十三條ニ違背シ同法第四百十條第十六號ニ依リ本論旨ハ其ノ理由アリ (大審院四刑、一〇年(レ)七三二號、濱職公選投票贈賄等被告事件、一〇七月三十日判決、法律新聞三九〇三號八頁)

●犯情ノ輕重ヲ定メタル理由ノ要否 (白木屋失火事件)

若夫レ犯情ノ輕重ヲ定メタル理由ヲ判示スルカ如キハ法ノ要求スルトコロニ非サルヲ以テ之カ説示ヲ缺クモ理由不備ノ違法アルモノト爲スヲ得ス (大審院三刑、一〇年(レ)三六一號、法律新聞三八四七號四頁)

●詐欺ノ認定ト理由不備

原判示第二事實ハ被告人ハ判示日時内縁ノ妻田中アサカ判示森彌太郎ニ對シ連帶借用人ヲ立ツル約束ノ下ニ彌太郎所有ノ三ツ重襦袢一棹此代金百四十五圓ヲ十ヶ月拂ノ方法ニヨル買受ヲ申込ミ同日右重襦袢ヲ被告人方ニ持參セシムルヤ適當ナル連帶借用人トナルヘキ者ナカリシヨリ其ノ頃右重襦袢ノ月賦販賣契約證ニ連帶借用人トシテ判示ノ如キ田中朝ナル虛無人ノ氏名ヲ冒書シタル上アサカシテ之ヲ右森彌太郎ニ差入シメ同人ヲシテ恰モ田中朝ナル者カ連帶借用人トナリタル旨誤信セシメ因テ右重襦袢ノ月賦販賣ヲ承諾セシメテ一時右代金ノ支拂債務ヲ免レ以テ財

産上不法ノ利益ヲ得タルモノナリト謂フニ在レトモ右事實關係ニ依リテハ被告人カ何故虛無人ノ氏名ヲ連帶借用人トシテ記載シタル月賦販賣契約證ヲ差入レタルコトニ因リテ一時代金支拂ノ債務ヲ免レタルヤ不明ナリ蓋シ若被告人カ實在ノ人ヲ連帶借用人トセル月賦販賣契約證ヲ差入ルルニ非サレハ森彌太郎ニ於テ右重襦袢ノ買受契約ヲ承諾セザリシ趣旨ナリトスレハ寧ロ被告人ハ右重襦袢ヲ騙取シタルモノトナルヘク又若右森彌太郎カ被告人ニ對シ右重襦袢代金ヲ一時ニ全部請求シ得ヘカリシニ判示ノ如キ虛無人ヲ連帶借用人トセル證書ヲ差入レタル爲錯誤ニ陥リ其ノ請求ヲ爲ササリシ趣旨ナリト解センニハ代金一時拂契約ノ存在セシコトヲ前提トセサルヘカラス然ルニ右判示事實ニ依レハ本件當事者間ノ契約ハ最初ヨリ月賦販賣契約ト認メ代金一時拂ノ契約アリシコトヲ認メタルモノト解スルヲ得ス結局原判決ハ所論ノ如ク理由不備ノ違法アリ (大審院二刑、八年(レ)一一六六號、詐欺被告事件、八年一〇月二三日決定、大審院裁判例八卷刑事三頁)

●森林竊盜ト罰金算定ノ標準ヲ誤リタル違法及理由不備 (森林法第八四條同項參照)

●豫審終結決定書ノ契印欠缺ト判決ノ效力 (刑訴第七十一條同項參照)

第四百十一條

前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

●證據ニ基カサル連續犯ノ一部タル收賄事實ノ認定ト上告理由 (判決ニ影響ヲ及ホス場合)

原判決カ判示第一ノ六ノ事實認定ニ引用シタル證據ニ依リテハ仲谷キクエカ被告人半祐ノ家ニ至リ判示ノ謝禮トシテ現金百圓ヲ提供シタル事實並ニ被告人半祐ノ妻トヨニ於テ之ヲ受納シタル事實ヲ認メ得レトモ被告人半祐ニ於テ判示ノ謝禮カ現金百圓ナルコトヲ了知シ其ノ受納ヲ諾シタリトノ事實ヲ認ムルヲ得ス從テ此ノ點ニ於テ原判決ハ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタル



違法アルニ歸ス、而シテ此ノ違法ハ連續犯ノ一部ニ付存スルモノナリト雖被告人半祐ニ於テ判示ノ謝禮カ現金百圓ナルコトヲ了知シ其ノ受納ヲ諾シタリヤ否ハ附加刑タル沒收ニ代ル追徴ニモ影響ヲ及ホスコト勿論ナルカ故ニ判決ニ影響ヲ及ホスモノト謂フヘシ (大審院二刑、九年(九)八七一號、收賄被告事件、九年九月二七日決定、大審院裁判例八卷刑事事六二頁)

●判決ニ影響ヲ及ホササル法令違反 (刑法第一〇八條數個ノ建造物ニ對スル放火ト犯罪ノ個數及上告理由同項参照)

●判決ニ影響ナキ法令違反 (刑訴第一九五條宣誓資格調査ヲ遺脱シタル證人訊問ノ效力ト上告理由同項参照)

第四百十二條 刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

●齒科醫師ニシテ青年醫學生タル者ノ囑託墮胎罪ト量刑不當

〔上告趣意書〕 辯護人石橋孫治郎上告趣意書上告人正雄ハ大阪地方裁判所第三刑事部ニ於テ昭和八年十二月二十七日墮胎罪ニ於テ懲役八月(未決勾留日數六十日本刑ニ算入)ニ處スル旨ノ判決言渡ヲ受ケタルモ左ノ理由ニ依リ原審判決ノ刑ノ量定ニ於テ其ノ犯罪ノ動機並ニ情狀ニ照シ甚シク過重ニ失スルモノト思料ス、第一點本件ハ檢事當時被告正雄カ齒科醫師ニシテ而モ普通醫師ナル處ヨリ醫師ノ墮胎被告事件トシテ普通人ノ墮胎事件以上社會ノ視聽ヲ惹キタルハ被告ノ爲ニ勘ラス不幸不利トナリタルカ其ノ實ハ原審判決ニヨリテ明カナルカ如ク本件ノ犯行當時ノ被告正雄ハ唯單ナル一齒科醫師ニシテ(刑法第二一四條規定中ノ醫師ニ包含セラレサル齒科醫師)夜間開業シ(之カ收入ニヨリテ醫學ノ學資ニ充ツ)晝間ハ大阪高等醫學專門學校ニ通學スル一學生ニ過キス從テ法律上ノ見地ヨリスレハ本件ノ墮胎ハ加重刑タル醫師ノ墮胎事件ニ非ス

シテ世上往々見受ケタル處ノ刑法第二、三條ハ普通人ノ囑託墮胎ニ過キサルモノナレハ原審ノ懲役八月ノ實刑ハ其ノ量刑過重ナルヲ信スト云ヒ(中略)

第十三點新聞紙ノ報導スル所ニ據レハ某被告事件ヲ惹起シ懲役刑ニ處セラレタル某醫學士ハ其ノ判決ニ於テ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタルニ對シ同被告醫學士ハ此ノ涙ノ判決ニ感激シ釋放後燃ユル感謝ノ念ト國家奉公ノ念過去ノ贖罪ノ爲ニ血ヲ吐ク不眠不休ノ學究的努力ノ結果ハ報セラレ遂ニ醫學博士ノ名譽アル學位ノ榮冠ヲ獲得スルニ至リタル活キタル實例アリ又一時世上ヲ騷カシメタル醫學博士某モ亦起訴猶豫ノ恩典ニ感激シ滿洲チアスノ研究ニ一身ヲ抛ツコトヲ誓ヒタリト聞ク被告モ亦同シク醫師ナリ而シテ其ノ性格タルヤ明晰ナル頭腦ノ學究的ノ人物ナリ幸ニ法ノ寛恕ノ涙ニ浴スルヲ得ンカ前示例ヨリ以上ノ感激ヲ以テ莫忘直慕進以テ研究ニ精進努力カスルハ一大決心ト覺悟ヲ有ス法ノ慈淚ハ正ニ廢人タラントスル一個ノ被告ヲシテ更生セシムルノ強キ力ヲ有ス刑法中ノ刑ノ執行猶豫ノ僅々三ヶ條ノ條文ハ單ナル刑法ノ裝飾物ニ非ス本辯護人ハ第一審ニ於テ本件ノ被告ニ對シテハ執行猶豫ノ恩典ヲ賜ハルヲ有シ又原審ニ於テモ同様此ノ確信ヲ以テ刑ノ執行猶豫ヲ期待シタルニ之レナカリシハ實ニ痛心ニ堪エス本辯護人ハ徒ラニ被告並ニ其ノ身邊ノ情狀ヲ縷述シ感情論ヨリ被告ニ對シ寛典規定ノ適用ヲ請フモノニ非ラス感情ニヨル判決ハ公平ヲ失ス感情判決ニ依ルニ非ラスシテ眞ニ公平ナル判決ハ被告ニ對シ刑ノ執行猶豫ヲ與フ可キモノト信ス原審判決ノ刑ノ量定ハ此ノ點ニ於テ不當ナリト云フニ在リ(中略)

〔決定理由〕 記録ヲ精査シ犯人ノ性格年齡境遇犯罪ノ情狀等ヲ按スルニ原判決ノ量刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル疑アルヲ以テ本論旨ハ理由ナリ (大審院三刑、九年(九)一三五號、



墮胎被告事件、九年四月一四日決定、大審院裁判例八卷刑事二六頁)

●年少中學生ノ窃盜ト量刑不當及執行猶豫ノ事情 其ノ一

〔上告趣意書〕 辯護人谷村唯一郎、永田國光上告趣意書ハ假リニ被告ノ所爲ニシテ法律上ノ責

任ヲ負フヘキモノナリトスルモ前叙(被上告人上告趣意書略)ノ如ク其ノ動機ニ於テ全ク多クノ  
場合ニ於ケル窃盜罪ト趣旨ヲ異ニシ未タ思慮定マラサル少年ノ好奇心ニ驅ラレ誤レル英雄的満  
足ヲ滿タサンカ爲ニ行ハレタル所爲ニシテ飽ク迄モ之ヲ膺懲スヘキ惡性ヲ有スルモノニアラス  
殊ニ被告ニ於テハ一旦檢學セラシルルヤ自ラ進ンテ書籍ノ持出シ等凡テノ行爲ヲ告白シ爾來未決  
勾留百數十日ニ及ヒ深ク自己從來ノ行動ノ誤リタルコトヲ覺リ改悛ノ情顯著ナルモノアリ此ノ  
機會ニ指導宜シキヲ得ルニ於テハ必ス改過遷善ノ效果ヲ見ルニ至ルヘシ之ニ反シ此ノ上實刑  
ヲ科スルニ至ラハ却テ單純未熟ナルコノ種少年ノ思想ヲ惡化シ其ノ將來ヲ誤ルノ虞レナシトセ  
ス原審ハ宜シクコレ等ノ事情ヲ綜合斟酌シ被告ニ對シ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキヲ至當トセシニ拘  
ラス事茲ニ出テサリシハ刑ノ量定著シク重キニ過キルト認ムルヘキ顯著ナル事由アルモノニシ  
テ破毀ヲ免レスト云フニ在リ

〔判決理由〕 依テ記録ヲ精査スルニ原審ノ被告人ニ對スル刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘ  
キ顯著ナル事由アルコトヲ認ム (大審院四刑、九年(九)四一五號、窃盜被告事件、九年五月二五日  
判決、大審院裁判例八卷刑事四九頁)

●年少中學生ノ窃盜ト量刑不當及執行猶豫ノ事情 其二 (刑法第二一五條同項参照)

●老齡ナル市會議員候補者選舉違反ト量刑ノ不當 其一  
〔上告趣意書〕 辯護人白木英、田中成彦上告趣意書原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料ス

ヘキ顯著ナル事由アリ則チ被告人敬逸ハ齡七十一歳ニ至レル今日迄未タ一回モ選舉ニ携ハリタ  
ルコトナク選舉界ノ實情ニ全ク無智無經驗ナル者ナル處偶々二、三策謀家ニ乘セラレ遂ニ今回  
行ハレタル岐阜市會議員選舉ニ立候補ノ決意ヲ爲スニ至リタルモノニシテ本件犯罪ニ關シテモ  
相被告人久作、嘉右衛門、喜市等ニ金員ヲ提供スル以前同人等ヨリ投票取纏ヲ爲スヲ以テ其費用  
ヲ支出サレ度旨再三懇懇セラレタルニ拘ラス其ノ都度之ヲ拒絶シ居リタルモノニシテ昭和八年  
六月二十六、七日頃果竹梅(二休)ナル料亭ヘ來ルヘキ旨寺島久作ヨリ招電ヲ受ケ同所ニ赴キタ  
ル處既ニ同人ヲ始メ嘉右衛門、喜市等會合シ居リテ再ヒ被告人敬逸ノ爲極力運動スヘキ旨ヲ傳  
ヘ暗ニ金員ヲ交付スヘキ事ヲ求メ而モ其ノ翌日嘉右衛門、喜市ノ兩名ハ敬逸ノ宅ヲ訪レ費用ヲ  
支出スヘキ旨ヲ要求シタルモノニシテ又六月廿八、九日頃久作ニ手渡シタル金員モ同様同人ヨ  
リ要求シタルモノニ係リ本件ニ於テ供與セラレタル金員ハ被告人敬逸ヨリ積極的ニ支出シタル  
モノニアラスシテ總テ相被告人等ヨリ強要セラレタルニ至リテ止ムナク支出シタルモノナルハミ  
ナラス時恰モ選舉當日(昭和八年七月三日)迄僅ニ數日ヲ餘スノミニシテ而モ今回ハ岐阜市會  
議員選舉ハ議員數三十六名ニ對シ候補者七十六名ノ多キヲ數ヘ未會有ノ激戰ナリシヲ以テ被告  
人敬逸ニ於テモ未知ノ選舉界ニ立候補シ種々苦惱ヲ重ネ居レル當時ナリシヲ以テ遂ニ本件犯罪  
ヲ犯スニ至リタルモノナリ、且相被告人嘉右衛門ハ被告人敬逸ヨリ受取リタル金八十圓ノ内僅  
ニ一圓ヲ又喜市ハ金七十圓ノ内僅ニ金八圓ヲ選舉運動ノ爲支出シタルノミニテ他ハ總テ自己ノ  
爲費消シ居リ同人等ハ其ノ最初ヨリ果シテ敬逸ノ爲選舉運動ヲ爲サントシタルモノナリヤ否ヤ  
甚タ疑フヘク被告人敬逸ノ本件犯罪ヲ爲スニ至リタル事情洵ニ諒察スヘキモノ多々アルコト一  
件記録ニ徴シ明白ナリトス然シテ刑事訴訟法第二百七十九條並ニ累犯加重ノ原則ヨリ之ヲ考察



スルニ刑罰ヲ裁定スルニ當リテハ被告人ノ性格年齢犯罪ノ情狀又ハ犯罪ヲ再ヒ犯スヘキ恐レアリヤ否ヤヲ判斷ノ資料ト爲スヘキモノニシテ之ヲ被告人敬逸ニ就キテ考フルニ同人ハ齡既ニ古稀ニ達シ其ノ犯罪ノ動機又前述セル如クニシテ再ヒ前徹ヲ踏ムヘキ恐レナキ者ト謂フヘク之ヲ一般豫防ノ立場ヨリ見ルモ本件ハ市會議員選舉ニシテ衆議院府縣會議員選舉等ニ對比スルニ其ノ犯サルヘキ法益ノ僅少ナルコト言フ俟タサル處ニシテ御院ノ判例其ノ他ニ依ルモ數萬金ヲ供與スルニ拘ラス尙少額ノ罰金刑ヲ以テセラレル例甚タ少ナカラサルニ本件ノ如ク其ノ供與シタル金額モ少ナク殊ニ買收ノ爲用ヒラレタル金員ハ言フニ足ラサル小額ニシテ其ノ犯サルヘキ法益ノ如何ハ論スヘキ價值ナキニ等シキモノナルニ拘ラス八百圓ノ罰金刑ヲ言渡サレタルハ甚シク不當ナリト謂ハサルヘカラス且本件ノ如キ事案ニアリテハ少クトモ衆議院議員選舉法第三百三十七條第二項ニ該當スル事由存スルモノナルヲ以テ右規定ニ因リ特別ノ御宣告ヲ賜度候ト云フニ在リ

〔決定理由〕 依テ記録ヲ調査シ諸般ノ情狀ヲ參酌考量スルニ被告人敬逸ニ對スル原判決ノ科刑ハ重ニ過キ刑事訴訟法第四百十二條所定ノ事由アリト認ム (大審院二刑、九年(九)五七四號、市會議員選舉罰則違反被告事件、九年六月一日決定、大審院裁判例八卷刑事事五二頁)

●老齡ナル市會議員候補者選舉違反ト量刑ノ不當 其二  
昭和八年七月三日施行セラレタル岐阜市會議員選舉ニ際シ被告人ハ同年六月十三日議員候補者トシテ立候補ノ届出ヲ爲シタルモノナル處自己ニ當選ヲ得ルノ目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シテ

第一、昭和八年六月二十七、八日頃被告人肩書自宅ニ於テ選舉人永田嘉右衛門同森喜市ニ對シ自己ノ爲投票並投票取纏方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金百五十圓ヲ供與シ、第二、原審相被告人

寺嶋久作ト共謀ノ上選舉人等ニ被告人ノ爲投票並投票取纏方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金圓ヲ供與センコトヲ企テ久作ニ對シ金七十圓ヲ交付シ久作ハ同年六月二十八日頃岐阜市殿町四丁目四番地ナル同人住居ニ於テ選舉人宮部金松ニ對シ又同日頃稻葉郡北長森村淺井邦松方ニ於テ同人ノ手ヲ經テ選舉人久世文七ニ對シ夫々被告人ノ爲投票並投票取纏方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金松ニ對シ金五十圓文七ニ對シ金二十圓ヲ夫々供與シ以テ右共謀ノ犯行ヲ實行シタルモノトス (證據略) 法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ主文記載ノ罰金(三百圓)ニ處シ刑法第十八條第一項第四項ニ依リ右罰金ヲ完納スル能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置期間ヲ定メ主文ノ如ク判決ス (大審院二刑、九年(九)五七四號市會議員選舉罰則違反被告事件、九年一〇月一五判決、大審院裁判例八卷刑事事五二頁)

●小商人店員ノ横領ニ對スル量刑不當及執行猶豫ノ事情 其一  
〔上告趣意書〕 辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリトス即チ一、被告人ハ昭和八年二月頃ヨリ棕栢商池本精助ノ店員トシテ雇ハレ棕栢製品ノ販賣及其ノ代金ノ取立ニ從事シ居リタルトコ昭昭和八年六月頃ヨリ昭和九年七月頃マテノ間ニ賣掛代金千四百六十二圓十六錢也ヲ横領シタルモノナルカ被告人ハ生來溫順儉素ニシテ業務勉勵克ク主人ニ仕ヘ來リタル者ニシテ勿論前科モナキモノナリ初メ被告人カ池本商店ニ雇入レラルル以前傘問屋宮井商店ニ店員トシテ奉公シ諸方ニ販路ヲ擴メ居リシヨリ其類馴染モ多ク顧客ヨリ愛顧信賴ヲ受ケ居リシヲ以テ之ヲ雇入レ其ノ販賣ニ係ル棕栢ヲ販賣セシムルトキハ從來ノ顧客ハ延イテ池本商店ノ懇意先トナシ得ヘシトナシ主人池本モ厚ク被告人



ノ商積ニ信任シ業績發展ニ望ヲ囑シタリシ爲メ被告人モ其ノ信頼ニ報ヒルヘク日夜匪懈店務ニ努メ或ハ顧客ノ心ヲ吸引スル爲メ心ニ染マサル飲食交際ヲモナスコトアリシカ何分ニモ日給一圓五十錢ニテ諸方ヲ宿屋泊リニテ販賣シ代金集金ヲ以テ其ノ料金ニ充テ居リシカ時ニ費用嵩ミテ豫定以上ニ集金ヲ費消スルコトアリ或ハ交通不便ノ地若クハ集金意ノ如クナラサリシ時ハ被告人カ正當ニ得ラルヘキ費用モ之ヲ集金中ヨリ支出スルコト能ハサリシ場合モアリタリ二、斯クノ如クニシテ定メラレタル費用ヨリ超過シタル金並ニ被告人ノ家計不如意ナリシ爲メ生活費ニ流用シタル金員ヲ前後一ケ年餘ニ通算シテ金千四百六十二圓十六錢也トナリシヲ以テ之ヲ横領シタルモノト認定セラレタリ然レトモ其ノ費途ハ右ノ如ク商店顧客吸收ノ爲メ或ハ自己ノ生活費トシテ費消シタルモノニシテ純然タル酒色ノ爲メ又ハ賭博等ノ不身持ノ爲ニ費消シタルモノニアラス三、而シテ被告人ハ犯後其ノ非ヲ悔ヒ衷心ヨリ改心シ一方其ノ賠償ニ努力シ遂ニ其ハ妻ヲシテ内職ノ爲メ玩具商ヲ營マシメ居リシモ全部之ヲ金ニ換ヘテ支拂ハ資ニ充テタルモ何分ニモ細キ煙ヲ立テ居リタルコトトテ僅少ノ金ヲ得ラルルニ過キサリシ爲メ實兄ノ力モ借りテ漸クニシテ現金四百圓ヲ調ヘ早速ニ主人池本ニ對スル賠償金ノ内入トシテ支拂ヒ尙内入二百圓ハ本年十二月三十一日支拂フヘク實兄ト連帯シテ借用證書ヲ差入居リシカ尙且心ニ染マサリシヨリ日夜一人心慮セシモ何分ニモ未決囚トシテ勾禁セラレ居ル身ノ如何トモスルコトヲ得サリシカ今回保釋ノ恩典ニ浴シタルヲ以テ百方知己ヲ頼リテ其ノ衷情ヲ訴ヘタル所四圍皆之ニ同情シ遂ニ本年九月二十日金千六十餘圓ヲ調金スルコトヲ得タルヲ以テ直チニ之ヲ賠償金トシテ主人池本ニ提供シテ支拂ニ充テタリ之ニヨリテ主人池本カ被告人ハ爲ニ加ヘラレタル實害ハ完全ニ賠償シ得ラレタルコトトナレリ四、然リ而シテ主人池本ニ於テハ被告人ノ犯跡ニ對シテハ當

初ヨリ被告人ノ平素ノ勉強振リ忠實振トニ感心シ愛撫シ居リタルト被告人ノ業績日ニ舉リ居タル折柄トテ之ヲ内濟シ將來引續キ雇傭シテ業務ニ努メシメントスル心堅カリシ爲メ當初ヨリ刑事問題トナリテ被告人ニ刑責ヲ科スルコトヲ欲セス寧ロ寛大ナル處置ヲ希望シ居ルモノナリ五、以上要約スルニ被告人ハ前科ナク性溫良ニシテ勤勉能ク主人ニ仕ヘテ業務ニ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セス寧ロ寛大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ店務ニ從事セシメントシ現ニ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被害金額ハ全部完済ヲ了セル今日僅少金額横領ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年齡少壯ハ被告人ノ將來ヲ葬リ去ルコトハ不憐ノ至リナリトス依ツテ執行猶豫ハ恩典ニ浴セシメタカト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證添付致シ置候ト云フニ在リ(以下中略)

〔決定理由〕 仍テ記録ヲ精査シ諸般ノ情狀ヲ參酌スルニ原判決ノ刑ハ量定ハ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ム (大審院四刑九年(九)二〇九號、業務上横領被告事件、九年一月一三日決定、大審院裁判例八卷刑事七四頁)

●小商人店員ノ横領ニ對スル量刑不當及執行猶豫ノ事情 其二

被告人ハ和歌山縣那賀郡南野上村大字九品寺棕相商池本清助方ニ雇ハレ外交及賣掛代金取立ノ業務ニ從事中昭和八年六月頃ヨリ同九年六月頃迄ノ間得意先ナル東京市神田區岩井町鈴木彌吉外十數名ノ者ヨリ集金シタル賣掛代金合計金千四百六十二圓十六錢ヲ右主人池本清助ノ爲業務上保管中其ノ頃犯意繼續シテ數十回ニ亙リ東京市豊橋市和歌山縣下等ニ於テ擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消シテ横領シタルモノナリ、右ノ事實中犯意繼續ノ點ヲ除ク其ノ餘ノ事實ハ被告人ノ當



公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ犯意繼續ノ點ハ被告人カ短期間内ニ同種ノ行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ明白ナルヲ以テ判示犯罪事實ハ其ノ證明十分ナリトス、法律ニ照スニ被告人ノ判示所意ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處スヘキモノトシ尙右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アルモノト認ムルヲ以テ被告法第二十五條ニ依リ二年間右懲役刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス (大審院四刑、九年(れ)一二〇九號、業務上横領被告事件、九年一月一三日判決、大審院裁判例八卷刑事七六頁)

●窃盜ト量刑不當

〔上告趣意書〕 辯護人作間耕逸上告趣意書第五點ハ原判決認定ノ事實ハ被告人ノ全部自認スル所ニシテ争ヒナキモ被告人ノ本件行爲ヲ爲スニ至レルハ被告人ハ小學校ヲ卒業ノ上平安中學へ入學シ後父ニ從ヒテ京都ニ來リ大谷中學へ轉學シタルニ病氣ノ爲中學ヲ休ミ居ル際偶々協助會ニ於ケル夏期ノ夜學中年長ノ文一柱ヨリ誘惑セラレ遂ニ本件行爲ヲ爲スニ至レルモノニシテ其得タル金錢ノ如キモ活動寫眞ノ見物又ハ菓子ノ買喰等ニ費消スル等情狀頗ル單純ニシテ大ニ憫諒スヘキモノアリ被告人ハ年齢僅ニ十七歳ニシテ本件發生後ハ深ク之ヲ悔悟シ改悛ノ情顯著ナルモノアルコトハ被告人ノ原審公判廷ニ於テ「惡イ事ヲ致シマシタ、今後ハ改心シテ母ト共ニ國ニ歸リ一生懸命ニ働キマス今後ハ決シテ惡イ事ヲ致シマセヌカラ御寛大ニ願ヒマス」ト供述シ流涕シタルコト調書ニ其ノ旨ノ記載アルニ徴シ明ナリスル少年ニシテ改悛セル被告人ニ對シ實刑ヲ科スルハ之ヲ改悛セシムルヨリハ却テ惡風ニ感染シ一層自暴自棄ニ陥ラシムルノ虞レナシトセス寧ロ之ヲ慈愛深キ父母ノ保護ニ托シ其ノ前途ヲ戒飾スルヲ相當トス被告人ノ父權五變ハ大正十年ヨリ京都ニ居住シ鮮人救濟機關トシテ京都協助會ナルモノヲ設立シ二ケ年間ニ無料職

業紹介ヲ爲スコト二千餘人無料宿泊延人員二萬餘人ノ多キニ及ヒ内務省蒙福會ヨリ五千圓ヲ下賜セラレ遂ニ京都協助會館ヲ建設シ鮮人少年ノ教育等ニモ盡力シ來レル鮮人トシテ詢ニ稀有ノ有力ナル社會事業家ナルハ勿論自身ハ現ニ京都府廳(都市計劃委員會附)ニ奉職シ居リ被告人ノ長兄ハ京都市役所ニ奉職シ居リ次兄ハ彫刻家ニシテ武田商會ニ勤務シ其ノ次ノ兄ハ小間物新聞ヲ編輯シ乍ラ立命館大學ニ在學中ニシテ又二人ノ姉ハ家庭ニ在リテ「ミシン」ノ賃仕事ニ從事セル等孰レモ被告人ノ監督保護ヲ爲スノ資格アリ一家學ケテ被告人ヲ監督スヘキコトヲ習ヒ居ルハ勿論被告人ノ父權五變ハ第一審公判廷ニ於テ證人トシテ「問、今後被告人ヲ怎ウスル積リカ答、内地ニ住マセテ置ケハ附近ノ惡イ鮮人ノ感化ヲ受ケ今度ノ様ナコトヲ起スト困リマスカラ郷里ノ弟ノ許ニヤル積リテス問、證人ノ弟ト云フノハ何ヲシテ居ルノカ答、朝鮮テ巡查ヲシテ居リマス當年三十八歳テアリマスカ弟夫婦ニハ子供カナク以前ヨリ權赫文ヲ養子ニスルト申シテ來テ居ルノテアリマス」ト供述シアルニ徴スレハ被告人一家ニ於テハ被告人ノ今後ノ監督保護ノ方針ニ付テモ十分協議ヲナシ居ルコト明ナリトス、仍テ原判決ニ於テハ被告人ノ年齢犯罪ノ動機改悛ノ狀態家庭ノ事情父兄ノ職業等ヲ參酌ノ上被告人ニ對シ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノナルニ事茲ニ出テスシテ本件ノ主犯者タル文一柱ト全ク同様ニ一年以上三年以下ノ實刑ヲ科シタルハ科刑著シク重キニ失スルモノト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ(以下略)

〔決定理由〕 仍テ記録ヲ精査シ諸般ノ事情ヲ斟酌スルニ原審ノ被告人ニ對スル刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト認ム (大審院二刑、八年(れ)一三五四號、窃盜被告事件、八年一二月四日決定、大審院裁判例八卷刑事一頁)



●國民的自覺ニ依ル轉向者ニ對スル量刑不當

〔上告趣意書〕 被告人上告趣意書私者昭和四年所謂四・一六事件ノ際治安維持法違反事件ニ連座仕リ同年五月四日東京毎夕新聞社前ニテ逮捕サレ同年六月二十二日迄洲崎警察署ニ勾留サレ警視廳ノ木内警部殿ノ御調ヘテ受ケ豊多摩刑務所(後ニ市ヶ谷刑務所)小菅刑務所市ヶ谷刑務所ニ移サル)ニ收監サレ秋山豫審判事殿ノ手ヲ經テ東京地方裁判所宮城裁判長殿(平田、戸澤檢事殿御立會)御係リニテ公判ニ付サレ一昨年十月懲役十年未決勾留二百五十日通算ノ御判決ヲ受ケタルモ直チニコレヲ東京控訴院ニ控訴仕リ引續キ今春三月赤羽裁判長殿(森山檢事殿ノ御立會)ノ御係リニテ第二審ノ公判ニ付サレ懲役六年未決勾留二百五十日通算ノ御判決ヲ受ケタル者ニ有之候第一審ノ御判決ニ比シテ斯ク輕減セラレタル理由ハ昨年六月共同被告佐野學、鍋島貞親等ノ所謂「轉向」聲明ヲ率先支持シ爾來過去ノ誤謬ヲ確認シソノ清算ニ努メタルコトヲ控訴院ニ於テ認メラレタルカ故ニ御座候サレト此ノ御判決ハ組織的犯罪タル本事件ノ性質ニ鑑ミ共同被告中ノ或者等ニ比シテ刑ノ量定カ頗ル不均衡ニシテ不當ト信シ上告シタルモノニ有之候例ヘハ共同被告菊地克己ハ私ヨリモ先キニ日本共產黨ニ入黨仕リ極メテ重要ナ地位ト東京地方オルガナイザ一ヲ占メ廣汎ナル黨活動ヲ遂行セル者ニ御座候ヘ共事件後「轉向」仕リ懲役二年六ヶ月未決通算九百日ノ御判決ニ有之候即チ實刑ハ僅々十三日ニ過キスシカモ未決勾留期間ノ殆ト全部ヲ通算セラレ候若シ國法カ過去ノ犯罪ヲ罰スルモノナラハ入黨ノ時期ニ於テ後テアリ地位ニ於テ菊地ハ下テアリ黨活動ニ於テ輕微テアル私ヘハ刑罰ハ菊地以下テアルハカ至當デアル而シテ私自身ノ日本共產黨ニ於ケル過去ノ地位活動等ハ豫審訊問調書及ヒ公判或ハ公知ノ事實ニ依ツテ明確ニ有之候若シ又將來ニ對シテ刑罰ヲ課サルモノナラハ彼モ我モ「轉向」ト云

フ一點ニ於テ同様ト奉存候更ニ河合悦三、水野成夫、西雅雄、淡徳三郎、村尾某其他ニ就テ比較スルモ彼等ノ或者ハ第二次共產黨創立大會ト所謂「五色大會」ニ出席シ或ハ黨ノ中央委員其ノ他極メテ樞要ナル地位ヲ占メ或ハ入露セル等々到底私如キ驅ケ出シノベキノ違ク及ハヌニモ拘ラス彼等モ亦「轉向」セルカ故ニ何レモ極メテ寛大ナル御判決ヲ受ケ刑ノ執行ヲ猶豫サレ居ル次第ニ御座候加之聞ク處ニ依レハ彼等ノ或者ハ出獄以來或ハ共產黨ニ接近シ進ンテ黨ヘ復歸シ或ハセントシ今モ尙コミンタニ對スル過當ナル依頼心宗教的崇拜事大主義カラ一步モ清算セシ地下ニ潛入シテ居ル者サヘアリトノ事ニ御座候然ルニコレニ反シテ私ハ昨年夏佐野等ノ聲明ヲ率先支持スル決意ヲナシテ以來今年四月二十五日痼疾ノ治療並ニ家事ノ整理ノ爲ニ保釋ノ御許可ヲ得テ出獄セルモ今日實ニ何等ノ動搖ヲ感セサルノミナラス益々「轉向」ノ正シキヲ確信シ其ノ實ヲ擧クヘク過去ノ過謬ノ清算ニ努力仕リ居リ候次第ニ有之候目下滿五ヶ年間ノ拘禁生活ニ依ツテ得タル痼疾ヲ勞リツツ又失業十年ニ垂々トスル家族ノ生活ト戰ヒツツ東京電燈會社ヘノ復歸運動並ニ獄中ニテ考案セル數種ノ發明ノ特許權申請ノ準備ノ爲ニ折角努力仕リ居リ候次第ニ御座候現住所ニ於テハ十三歳十一歳九歳ノ女兒並ニ病弱ナル體軀ヲ多年ノ勞苦ニ疲勞シ切ツテ居ル而モ不幸ナ事ニハ妊娠中ノ妻(明年三月カ臨月)一氣ノ毒ヲ妻カアリ彼女カ産婆ヲ爲シツツ現在約千四百圓程ノ負債ト毎月二、三十圓位ノマイナスノ家計ヲ切り盛リ致シ居リ候様ナル状態ニ御座候郷里ニハ六十八歳ノ老母カ今ナホ藥仕事ナトヲナシツツ小作ヲ續ケテ居ル様ナ有様ニ御座候事情ハ斯クノ如ク家庭的ニモ痼疾ノ治療ノ必要ト云フ點カラモ是非共私自身カ何等カノ收入ノ途ヲ立テテ働ク必要ニ迫ラレテ居ル次第ニ御座候サレハ私ハ第二審ハ公判ニ於テ明白ニ陳述セル如ク以上ノ如キ事情ヲ無視シ加フルニ理論的ニモ實踐的ニモ明白ニ



誤謬テアル共產黨並ニ非法活動ハ今後絕對ニ仕ル間敷只管光榮アル日本人民ノ一人トシテ善良ナル一市民トシテ又家庭ニ於テハ溫和ナ主人ノ人ノ子トシテ日本民族ノ發展ト國民の利益ノ伸張ヲモツトトシテ一意専心努力在罷候次第ニ御座候謬ニモ罪ヲ惡ンテソノ人ヲ惡マストカヤ仰キ願ハクハ彼此御比較考慮ノ上刑ノ量定ニ關シテ御同情ト御寛大ナル御判決ヲ賜ハラシコトヲコレカ本上告趣意書ノ眼目ニ御座候ト云フニ在リ(以下略)

〔決定理由〕 記録ヲ調査スルニ原判決ニハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト認ム (大審院一刑、九年(れ)二二二號、治安維持法違反被告事件、九年二月六日決定、大審院裁判例八卷刑事八五頁)

●選舉運動報酬供與ト量刑不當 其一

〔上告趣意書〕 辯護人山口貞昌、赤井幸夫上告意書第四點ハ上告人ニ對シ假リニ判示犯罪ヲ認ムヘキモノナリトスルモ其額僅ニ一百二十圓ニシテ而モ所謂投票ノ買収ニアラスシテ選舉運動者ニ對シ一人前十五圓乃至二十圓ノ報酬ヲ供與セルモノナリ而シテ自己ノ選舉運動ハ爲骨折リ掛ケタル人ニ對シ多少ノ報酬ヲ提供スルカ如キハ縱令ソレカ法ノ禁スル處ナリトハ云ヒ人情上自然ニシテ大ニ恕スヘキモノナリ況ンヤ上告人ハ始メテ議員候補者トナレルモノニシテ選舉違反ノ常習的傾向ヲ有スルニアラス又其ノ運動者ハ孰レモ稼業ヲ有シ運動ノ爲ニハ夫々犠牲ヲ拂ハサルヘカラサルモノナルニ於テオヤ、然ルニ原判決カ上告人ニ對シ禁錮二月ノ實刑ヲ科シ且ツ選舉權被選舉權ヲ停止シタルハ其ノ科刑過重ナルコト顯著ナル事由アルモノニシテ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

〔決定理由〕 仍テ記録ニ徴シ諸般ノ狀況ヲ參照スルニ被告人ニ對スル原審ノ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ム (大審院二刑、九年(れ)二二二號、市會議員選舉罰則違反被告事件、九年二月八日決定、大審院裁判例八卷刑事七七頁)

●選舉運動報酬供與ト量刑不當 其二

被告人糸吉ハ昭和九年五月十五日施行セラレタル和歌山縣海南市會議員選舉ニ際シ其ノ候補ニ立チ同月八日午後其ノ届出ヲ爲シタルトコロ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉運動者ナル坂口政吉、堀野徳三郎ノ言ヲ容レ同人等ト共謀ノ上意思繼續シテ第一、同月七日頃同市船尾二百四十七番地ナル原審相被告人松谷甚三郎方ニ於テ選舉運動者ナル同人並ニ田中秀助、神野芳太郎田中安吉、内芝芳次郎、町田太一郎ニ對スル選舉運動ノ報酬ト爲ス趣旨ニテ金百圓ヲ甚三郎ニ交付シ甚三郎ヲシテ其ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ右六名ニ分割交付セシメテ之カ供與ヲ爲シ第二、同日頃選舉運動者ナル同市黒江六百二十番地高松新造方ニ於テ同人ニ對スル選舉運動ノ報酬ト爲ス趣旨ニテ同人ノ妻ヲ介シ金二十圓ヲ右新造ニ供與シタルモノナリ(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第六十條市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號刑法第五十五條ニ該當スルトコロ判示ノ如キ程度ノ金員ヲ選舉運動者ニ報酬トシテ選舉人ヲ買収シタルモノニ非サルカ故ニ罰金刑ヲ選擇スルヲ相當トシ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金金二百圓ニ處シ尙刑法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置日數ハ一日金四圓ノ割合ヲ以テ之ヲ定メ又同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ同様ノ割合ヲ以テ之ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス (大審院二刑、九年(れ)二二二號、市會議員選舉罰則違反被告事件、九年二月二〇日判決、大審院裁判例八卷刑事七八頁)

●縁戚關係候補者ノ爲メノ金錢供與及響應ト量刑不當



〔上告趣意書〕 辯護人志波清太郎上告趣意書第一點上告人ハ漆器生地職ニシテ而カモ年齡僅カニ三十二歳市會議員候補者山下条吉トハ右山下ノ母親ト被告人ノ妻ノ父トカ從兄弟ノ廻縁關係アル間柄ニシテ(第一審公判調書參照) 被告人ノ妻ハ山下候補ノ兄由三郎ノ媒酌ニヨレルモノ(昭和九年六月八日被告人檢事聽取書參照) ナリ本年二月頃被告人カ自動車ニテ轢カレ負傷ヲ親切ニ見舞ハレタルトキ山下ニ立候補ヲ勸告セル位ナリ而シテ海南地方ハ和歌山縣下ニ於テモ有名ナル不正ナル選舉カ行ハルル所ニシテ被告人カ檢事聽取書(日時前同様)ニモ「七、海南地方テハ俗ニクワト云ヒマシテ先ニ金ヲ渡ストカ先ニ御馳走スル様ナ例ニナツテ居リマス此様ナ言葉ヲ覺エタモノモ今度ノ選舉テ覺エタノテ風呂屋テ二、三日頃ニ聽イテ知ツタノテアリマス」ト云フカ如キ環境ニ於テ山下候補ノ當選ヲ期サンカ爲ニ原判決摘示第一(イ)ノ響應トナリタルモノナリ、右ノ如キ周圍環境ニ於テ被告人ハ廻縁ト人間ノ恩義ニテ縛ラレ負傷ノ見舞ヲ受ケシカ如キ清純ナル情義ニ立脚シテ山下カ厭フヲ被告人強ヒテ立候補セシメタル山下候補ニ對スル責任觀ヨリ腐敗セル周圍ノ有權者ニ對シ「正義ト道德」ニテハ何等ノ價値ナキ場合止ムヲ得スシテ心ナラスモ過誤セル被告人ニ對シ直チニ所謂「選舉ブローカー」ナリト認定シ永ク未決勾留ヲ爲シ加フルニ本件原判決摘示ノ事實アリトシテ禁錮四月(未決勾留二十日通算)ニ處シタルハ原判決ハ情狀其ノ他諸般ノ犯情ヲ參酌セサル刑ノ量定ヲ甚シク過當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト云フニ在リ(以下略)

〔決定理由〕 仍テ記錄ヲ查シ諸般ノ狀況ニ徴スルニ原審ノ被告ニ對スル刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ム (大審院一刑、九年(九)二二〇號、市會議員選舉罰則違反被告事件、九年一月二二日決定、大審院裁判例八卷刑事七六頁)

第四百十四條 重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

●請負工事斡旋手数料重大ナル事實誤認

〔上告趣意書〕 辯護人塚崎直義、飯島磯五郎、須々木平次、赤井幸夫上告趣意書原判決ハ其事實理由中「上告人カ池田孫七ヨリ交付ヲ受ケタル七千圓中ノ三千圓ハ豊田村本郷村及小坂玉繩組合村ノ三ヶ村ニ對シ各一千圓宛配當スヘキ趣旨ヲ以テ寄託ヲ受ケタルモノニ係リ從ツテ上告人カ右金員ヲ擅ニ處分シタル所爲ハ横領罪ヲ構成スルモノナリ」ト斷シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ右認定ハ左記ノ一點ヨリ見ルモ全ク事實ヲ誤認セルモノナルコト顯著ナリト信ス即チ池田孫七カ或事情ノ爲本件工事請負金約八萬圓ニ該當セル部分ヲ完成シ殘約六萬圓ニ該當スル部分ノ工事ヲ加藤豐藏ニ讓渡スルニ至ル昭和二年二、三月頃上告人カ池田孫七ニ對シ前ニ交付ヲ受ケタル七千圓中ノ幾分ヲ返還スヘキ旨申向ケタル處池田孫七ハ加藤豐藏ヨリ右工事ノ讓渡ニ際シ四千圓ヲ受領セシ事實アリ旁々其返還ヲ拒絶シ七千圓ハ全部上告人ノ自由處分ニ委シテ異存ナキコトヲ表明シ居リタル事實アルコトハ記錄上爭ナク而モ上告人カ本件金員ヲ所謂着服横領シタル其ノ後ナルコト判文上明ナル處ナルヲ以テ上告人カ右判示三千圓ヲ自由處分シタリトテ固ヨリ横領罪ヲ以テ論セラレヘキ謂ナキコト多言ヲ要セサル處ナリト信ス尤モ池田孫七ニ對スル豫審調書中ニハ右上告人ヨリ返還ヲ申出タル金員ハ七千圓中ノ三千圓ニ關スルモノニアラスシテ四千圓ノ部分ニ關スルモノナリト趣旨ニ歸スルカ如キ記載ナキニ非スト雖若シ其ノ言ノ如ク七千圓中ノ三千圓ハ判示三ヶ村ニ交付スヘキモノニシテ而モ其他ノ四千圓ハ上告人ヨリ池田孫七ニ返還シタリトセンカ池田孫七八萬圓餘ノ工事ヲ爲シ加藤豐七ヨリ四千圓ノ交



付ヲ受ケタルニ拘ラス此ノ工事ノ請負ニ關シ斡旋盡力シタル上告人ニ對シテハ何等ノ謝禮ヲ爲  
 ナササルニ歸スヘシ(請負金ノ五分乃至一割ノ報酬ヲ出スヘキ慣例ナルニ)ト雖斯ノ如キハ殆  
 ント絶無ノ事ナルヘク上告人ト池田孫七トノ間ニ斯ル不條理極マル談話ノ交換アルヘキ筈ナク  
 右ハ三千圓ヲ除外シタル四千圓ニ關スルモノニアラスシテ却テ四千圓ヲ除外シタル三千圓(返  
 還スヘキ金ヲ三千圓ナリトストハ上告人ノ手ニ殘サルルハ四千圓ニシテ池田孫七カ完成セル仕  
 事タル八萬圓餘ノ約五分ニ該當シヨク普通謝禮トシテ授受セララルル請負金ノ五分ニ相當ス)ニ  
 關スルモノナルコト誠ニ明ニシテ從テ判示三千圓ハ判示ノ如ク判示三ヶ村ニ交付スヘキ金員  
 トシテ上告人ニ於テ寄託ヲ受ケタルモノニアラサルコト一斷疑ノ存セサル處ナリト信ス、以上  
 ノ次第ナルニ拘ラス此等理路整然タル事實ヲ度外シ上告人カ判示ノ日時場所ニ於テ池田孫七ヨ  
 リ交付ヲ受ケタル金三千圓ハ上告人カ受クヘク報酬金中ノ一部ニアラスシテ豊田、本郷及小坂  
 玉繩組合村ノ三ヶ村ニ各一千圓ヲ交付スヘキ合計三千圓ニシテ上告人ノ自由處分ヲ許ササル金  
 員ナリト斷シ上告人ニ判示權領ノ事實アリトシテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ前陳ノ如キ事實ノ誤  
 認アルコト顯著ナル事由アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ  
 (決定理由) 依テ記錄ヲ調査スルニ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯  
 著ナル事由アリト認ム (大審院二刑、八年(九)一七九八號、橫領被告事件、九年二月一五日決定、大  
 審院裁判例八卷刑事二頁)

●候補者推薦行為ト重大ナル事實誤認

〔上告趣意書〕 辯護人市來彦吉上告趣意書ハ選舉ニ際シ適當ナル候補者ヲ選定センカ爲メニ多  
 數人ノ集合スル席ニ於テ自己ノ意思ヲ發表シ他モ亦之ニ意見ヲ吐露シテ互ニ論議ヲ盡シ其適當  
 ナル候補者ヲ選定發表スルハ所謂推薦行為ハ本體ニシテ選舉法ハ是認スル處ナリ若シ之ヲシモ  
 選舉法違反ナリトセハ殆ント推薦行為ナルモノ存在セサルニ至ルヘシ被告ハ部落事務協議ノ集  
 會ヲ終リタル際偶々多數カ村會議員候補者ノ選定ヲ爲スコトトナリ互ニ意見ヲ發表シタル末其  
 意思ノ一致シタル表カ選定シタル數氏ノ氏名ヲ發表シタルハトテ是レ選舉法ノ許容セル適當ナ  
 ル行為ニシテ毫モ選舉法ノ違反トナルヘキモノニアラサルニ不拘原審ニ於テ之ヲ處罰シタルハ  
 選舉法ヲ不法ニ適用シタル違法ノ裁判ナリトスト云フニ在リ  
 (決定理由) 記錄ヲ精査スルニ原判決ノ事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコト疑フニ足ルヘキ顯  
 著ナル事由アリト認ム (大審院二刑、八年(九)一九四二號、村會議員選舉則違反被告事件、九年二  
 月二六日決定、大審院裁判例八卷刑事二頁)

●不更中學生ノ放火ト事實誤認及犯罪無證明 其一

〔上告趣意書〕 辯護人大橋茹上告趣意書第一點一、原判決ハ「被告人カ判示ノ日時判示決意ノ  
 下ニ福井中學校々舎ニ判示ノ手段方法ヲ以テ放火シ因ツテ判示建造物ヲ燒燬シタル點ハ(一)  
 被告人ニ對スル第一回豫審調書(二)同第三回豫審調書(三)證人本保次作ニ對スル豫審調書  
 (四)強制處分ニ於ケル豫審判事ノ檢證調書ヲ綜合考覈シテ之ヲ認定スルニ足ルヲ以テ判示事  
 實ハ其ノ證明アルモノトスト」ト犯罪事實ヲ認定セリ二、右認定ノ資料ヲ檢スルニ(一)ニヨリテ  
 前示犯罪執行ノ跡ヲ(二)ニヨリテ放火スル際ニ校舎ニ宿直ノ先生ノ現在セルコト並武道師範室  
 ニ放火スレハ全校舎ニ火カ移リ燃ルコトノ認識(三)ニヨリテ出火ノ時間及場所(四)ニヨリテ校  
 舎ノ燒失シタル部分ヲ夫々認定セルコト其ノ摘示援用セル部分ニヨリテ明白ナル處依是看之  
 (イ)本犯罪ヲ被告人カ決意シタル時期及場所(ロ)放火ノ場所及方法ニ關スル認定ノ直接資料ハ



右(一)ノミニ依レルコトヲ窺フニ足ル三、右(一)ハ前掲ノ如ク被告人ニ對スル第一回ノ豫審調書ナル處被告人ハ豫審廷ニ於テ放火ノ事實ヲ自白シ其ノ自白セル處極メテ詳細ニシテ聊モ漏ス處ナシ然レトモ豫審廷ニ於ケル自白カ公判廷(第一審並第二審共)ニ於ケル陳述即チ放火ヲナシタル事實ナシトノ供述ニ反スル場合猶其ノ效力ヲ有スルハ右自白カ他ノ證據ト吻合スル場合ニ限ラルヘク自白カ他ノ公判廷又ハ豫審廷ニ表ハレタル證據ト全ク齟齬スル場合ニ其ノ效力ヲ有セサルヤ言フ俟タサル處ナリ然ルニ本件豫審第一回調書ノ自白ニハ左ノ如キ重大ナル諸點ニ於テ他ノ證據ト齟齬セリ四、即チ(イ)其ノ前段ニ於テ「私ハ昭和八年六月十八日午後十時半頃自轉車ニ乗りたるまや前ヨリ城町ニ在ル福井中學校ノ正門ト福井圖書館トノ間ノ道路ヲ寶永下町ノ自宅ニ歸ル爲メ縣廳前濠端ノ同中學校ノ裏門ニ差蒐リタル際裏門ノ扉カ五寸位開キ居レルヲ自轉車ノ明ニテ見付ケタルカ當日ハ私カ元在學シタル金澤一中カ敦賀商業トノ對抗野球試合ニ負ケ自分ノ好キナ高桑常子ト一緒ニ歩カウト誘ヒタルモ應セス夏梅靜子ヲ訪ネタルモ留守テアリ面白カラサル事許リアリタル處當時私ハ福中ノ藤枝先生磯崎先生等ニ反感ヲ有シ居リタル爲裏門ノ開キ居ルヲ見テ不圖同中學校舎ニ火ヲ放チ燒キ拂フトイフ氣ニナリ裏門ノ濠端ノ櫻ノ木ニ自轉車ヲ立掛ケトアリ之ヲ要約スレハ被告ハ平素學校ノ先生ニ對シ不平ヲ抱キヨリタル處偶六月十八日氣分ヲ害スル面白カラサルコトノミアリ中學裏門ヲ通過セル際裏門カ偶然五寸許開キアルヲ看テ突然放火スル決心ヲナシタリト云フニ歸ス然ルニ(二)六月十八日ハ當夜裏門ノ締リアリシ事實ハ記錄上疑ヲ容ルル餘地ナキ處ナリ詳述スレハ當夜ノ宿直教諭本保次作ノ昭和八年七月二十四日ノ豫審調書第十五問答十五問、火災當夜火ノ出ル前裏門ハ閉メテアリマシタカ答、私ニ理化室ノ方カラ裏門ノ開イテ居ルコトヲ知ツテキマシタカラ夕方校内ニ居タ生徒等カ歸ツタ後態々閉メニ行ツテ其ノ扉ヲ閉メテ左即チ西ノ方ノ扉ヲ先ニ閉メ東方ノ扉ヲ後ニ閉メ東ノ扉カラ西ノ扉ニ設ケテアル鐵輪ニ鐵棒ヲ差シ西方ノ初メノ鐵輪ニハ差シタ様ニ思ヒマスカ二ツ目ノ鐵輪ニハ鐵棒ヲ差入ラナカッタテ其ノ儘大丈夫ト思ツテ歸ツタ様ニ思ヒマスカ昭和八年十月十二日第一審福井地方裁判所第二回公判ニ於ケル右本保次作ノ證人調書中間、裏門ハ其ノ日閉メタカ答、閉メマシタ問、何時頃答、裏門ハ晝開イテ居タ事ヲ知ツテ居タノテ皆歸ツタ後夕方八時前後頃私ハ閉メニ行ツテ閉メマシタ其ノ裏門ハ兩方ニ開ク様ニナツテ居ルノテ先ツ左ノ方ノ扉ト右ノ方ノ扉ニ付イテ居ル鐵棒ヲ左方ノ扉ニ設ケアル鐵輪ニ差ス様ニナツテ居ルハテアリマスカ其ノ時私ハ第一ノ鐵輪ニハ確カニ差シタハテ二ツ目ノ鐵輪ニハ鐵棒ヲ差入ラナカッタカ之テ大丈夫ト思フテ歸ツタハテアリマス問、其ノ門ハ外カラ押スト開クカ答、二ツ目ノ鐵輪ニ鐵棒ヲ差入ツテ居ラナクモ第一ノ鐵輪ニ鐵棒カ十分差入ツテ居ラ外カラ押シテモ容易ニ開クモノテハアリマセヌトノ證言ニヨリテ之ヲ窺知スルニ足ル(二)假ニ裏門カ五寸許リ開キ居リタルトシ之ヲ被告人ノ自白スル如ク「自轉車ノ明ニテ見付ケ」得ルヤヲ檢スルニ自轉車ノ明トハ自轉車用ノ電池ノ明ニシテ押收ニカカル證第五號同様ノモノナリ而シテ裏門ニ面スル道路ハ原審(控訴審)昭和九年四月十一日附檢證調書添附第四圖ノ如キ狀況ニ在リ又同調書記載ノ如ク其ノ廣サハ三十四尺ナリ從ツテ其ノ直線道路ヲ走リツツアル自轉車ニ跨ル被告入カ良ク右五寸ノ開ヲ發見シ得タルヤ疑問ナルノミナラス之ヲ看ルヤ直チニ放火ノ決意ヲナシ得ルヤ換言スレハ本件被告人ハ放火スヘキ機會ヲ待チ居リタルニ非スシテ平素學校教師ニ反感ヲ抱キヨリ偶當日面白カラサル事アリシ爲メ偶然放火ノ決意ヲナスニ至レルヲ認定セルコト前陳ノ如キ次第ナルヲ以テ放火ノ決意ヲ爲スニ付テハ相當ノ準備考想ハ猶豫ヲ要スルハ吾人ハ實

徒等カ歸ツタ後態々閉メニ行ツテ其ノ扉ヲ閉メテ左即チ西ノ方ノ扉ヲ先ニ閉メ東方ノ扉ヲ後ニ閉メ東ノ扉カラ西ノ扉ニ設ケテアル鐵輪ニ鐵棒ヲ差シ西方ノ初メノ鐵輪ニハ差シタ様ニ思ヒマスカ二ツ目ノ鐵輪ニハ鐵棒ヲ差入ラナカッタテ其ノ儘大丈夫ト思ツテ歸ツタ様ニ思ヒマスカ昭和八年十月十二日第一審福井地方裁判所第二回公判ニ於ケル右本保次作ノ證人調書中間、裏門ハ其ノ日閉メタカ答、閉メマシタ問、何時頃答、裏門ハ晝開イテ居タ事ヲ知ツテ居タノテ皆歸ツタ後夕方八時前後頃私ハ閉メニ行ツテ閉メマシタ其ノ裏門ハ兩方ニ開ク様ニナツテ居ルノテ先ツ左ノ方ノ扉ト右ノ方ノ扉ニ付イテ居ル鐵棒ヲ左方ノ扉ニ設ケアル鐵輪ニ差ス様ニナツテ居ルハテアリマスカ其ノ時私ハ第一ノ鐵輪ニハ確カニ差シタハテ二ツ目ノ鐵輪ニハ鐵棒ヲ差入ラナカッタカ之テ大丈夫ト思フテ歸ツタハテアリマス問、其ノ門ハ外カラ押スト開クカ答、二ツ目ノ鐵輪ニ鐵棒ヲ差入ツテ居ラナクモ第一ノ鐵輪ニ鐵棒カ十分差入ツテ居ラ外カラ押シテモ容易ニ開クモノテハアリマセヌトノ證言ニヨリテ之ヲ窺知スルニ足ル(二)假ニ裏門カ五寸許リ開キ居リタルトシ之ヲ被告人ノ自白スル如ク「自轉車ノ明ニテ見付ケ」得ルヤヲ檢スルニ自轉車ノ明トハ自轉車用ノ電池ノ明ニシテ押收ニカカル證第五號同様ノモノナリ而シテ裏門ニ面スル道路ハ原審(控訴審)昭和九年四月十一日附檢證調書添附第四圖ノ如キ狀況ニ在リ又同調書記載ノ如ク其ノ廣サハ三十四尺ナリ從ツテ其ノ直線道路ヲ走リツツアル自轉車ニ跨ル被告入カ良ク右五寸ノ開ヲ發見シ得タルヤ疑問ナルノミナラス之ヲ看ルヤ直チニ放火ノ決意ヲナシ得ルヤ換言スレハ本件被告人ハ放火スヘキ機會ヲ待チ居リタルニ非スシテ平素學校教師ニ反感ヲ抱キヨリ偶當日面白カラサル事アリシ爲メ偶然放火ノ決意ヲナスニ至レルヲ認定セルコト前陳ノ如キ次第ナルヲ以テ放火ノ決意ヲ爲スニ付テハ相當ノ準備考想ハ猶豫ヲ要スルハ吾人ハ實



驗則ニ照シ明ナリ從ツテ自轉車ニ跨ル被告人カ果シテ十分看取シ得タルヤ否ヤスラ疑問ナル裏門五寸ノ開ヲ看テ不圖放火ノ決意ヲナシ自轉車ヲ櫻ノ木ニ立掛ケテ校庭ニ入りタリトハ供述ハ何等ノ疑問ヲ挿マス肯定スルヲ得サルモノナリ(ロ)其ノ中段ニ於テ「武道師範室ノ北方廊下ノ硝子窓ヲ引開ケ兩手ヲ延ハシ其ノ窓ノ敷居ニ掛ケテ飛上リ窓ヲ越ヘテ廊下ニ這入り武道師範室ノ廊下側ニ建テアル板ノ引戸ヲ開ケ其ノ室内ニ入りタリ室内ハ暗キ故私ハ持チ居リタル電燈ノ火ヲ點ケシカ武道師範室ノ廊下側ノ方ハ板敷ニナリヨリ奥ノ南ノ方ハ疊ヲ敷キアリ奥行ハ四間位ノ部屋ナリ廊下側ヨリ奥ノ南ノ方ニ向ヒテ右手ノ西側ハ上方ハ白壁ニテ下方ハ二尺位ノ腰板張リニナリ居リ板張リノ方ニ近キ所ノ疊ノ上ニアル壁ノ稽古着掛ニ七、八着以上カト思ハルル柔道着劍道着カ掛ケアリタリ」トノ供述アリテ武道師範室ニ入りタル際ノ模様及其ノ内部ノ模様ヲ明ニセリ然レト(二)被告人ハ供述スル如ク武道師範室ハ暗キニ非ス即チ第一審昭和八年十月十二日福井地方裁判所公判調書中證人本保次作ノ調書ノ直前證人磨井和平ノ調書ノ終ニ接シテ次ノ如キ記載アリ「檢事ハ裁判長ノ許可ヲ得テ在廷セル證人竹内靜ニ對シ問、證人カ先刻申立テテ訓育部ノ電燈ノ高サ板仕切ノ高サハ間違ナイカ答、電燈ニハ手ヲ延セハ届キマシタ板仕切ノ高サハ私ノ思ヒ違ヒテシタ其ノ板仕切ハ六尺ノ高サノ板カアツタ其ノ上ニマタ若干板カ張ツテアツタト思ヒマス問、スルト電燈ト板仕切ノ高サハトウナツテ居タカ答、同シ高サト思ツテ居リマス訓育室ノ電燈ノ明テ武道師範室カ明レト云フコトハ現ニ私カ中ニ這入ツテ見タコトカアルノテ之ハ間違ヒアリマセヌ」右調書並豫審廷ニ於ケル昭和八年七月二十四日證人五十嵐鐵藏ニ對スル調書「三問、六月十八日夜福中火災當日學校ニ居マシタカ答、當日私ハ午後六時頃學校ニ行キ宿直ヲ致シマシタ四問、火災ノアツタ前後ノ模様ヲ述ヘテミナサイ答、私

ハ午後八時頃小使室ヲ出テ控場ノ西側ヲ通り訓育部ノ南東隅ノ入口カラ訓育部ニ這入り訓育部ト武道師範室ノ間ニ在ル板仕切リノ北方廊下ニ接スル方ノ出入口カラ武道師範室内ヲ覗イテ見マシタ處師範室ノ南方硝子戸カ凡ソ中央邊カト思ヒマス一枚開イテアルノカ見エマシタ(以下中略)一一問、證人カ訓育室ニ這入ツタ時電燈ハ點イテ居リマシタカ答、電燈カ點イテ居マシタ八燭カ十燭ノ電燈カ武道師範室トノ板仕切リノ東方二尺許リノ南北カラ云ヘハ中央邊リノ床上四尺位ノ個所ニ點イテ居マシタ一二問、武道師範室ノ明ルサハ答、私カ武道師範室ヲ覗イタ時ニハ薄暗クアリマシタノ兩證言ヲ對照スレハ十八日夜ノ武道師範室ノ明暗ノ程度ヲ推測スルニ難カラス「室内ハ暗キ故私ハ持チ居リタル電燈ノ火ヲ點ケシカ」ト被告人供述スレトモ右電燈トハ自轉車用ノ蓄電池ニヨリ押收ニカカル證第五號類似ノモノナルヲ以テ此ノ電燈ヲ點クルモ十分ノ光ヲ得ルコト困難ニシテ却ツテ武道師範室自體カ訓育部ノ電燈ノ明ニヨリ右電燈ヲ使用スルヲ要セサル程度ニ明カリシコト前陳ノ如クナレハ此ノ點被告人ノ自供ニ矛盾アルモノナリ尙此ノ點ニ付五十嵐小使カ巡回セルハ八時前後ナル處其ノ後十分頃ニテモ電燈ニ異狀ナカリシコトニ付原審昭和九年四月十一日檢證現場ニ於ケル證人松村政次郎ノ證言調書中左記問答ニヨリ明ナリ「問、同日證人ハ會社ノ宿直テアツタノテ一番先ニ其ノ火災現場ナル福井中學校ニ駈付ケタトノコトニナルカ左様カ答、左様テアリマス問、夫シテ證人ハ何處ノ電燈ヲ消シタカ答、私カ中學校ニ駈付ケタラ學校ノ正門ノ入口ノ電燈カ付イテ居リマシタノテ之ハ危険テアルト思ヒオ濠ノ所ニアル中學校入ノ配電線ヲ切ツタノテアリマス問、其ノ證人カ切ツタ電線ハ何ボルトノモノカ答、夫レハ百ボルトノ夜間線テアリマス(二)假ニ被告人ノ供述ノ如ク暗カリシトセハ被告ノ持チ居リタル電燈ニテ果シテ其ノ供述スル如ク詳細ニ武道師範室内ノ模



様ヲ點檢シ得ルヤ一應調査セリトスルモ前掲ノ如ク詳細ニ手ニセル電燈ノミニヨリ調査シ得ルヤ而モ被告人ハ同室ニ入りタルハ放火前二回放火ノ時カ三度目ニテ内部ノ模様十分知リヲラサリシコトハ被告人ニ對スル昭和八年八月二日豫審第四回訊問調書第四ノ問答「四問、武道師範室内部ノ構造ハ能ク判ツテ居タカ答、私ハ能ク覺カアリマセヌカ藤枝先生ニ叱ラレタ時ノ前ニモ一回這入ツタ様ナ氣カ致シマス火ヲ放ケル時ニ這入ツタノハ三回目ニナル様テスカ内部ノ模様ハ能ク判ツテ居リマセヌテシタ」ニヨツテ明ナル處前掲陳述ノ内部ノ模様ハ凡テ放火ノ際ハ觀察トシテハ餘リニ詳細ニ過キ却ツテ吾人ノ日常經驗スル處ト全ク相反スル觀察ナル感アリ

(三) 原判決ノ前掲引用スル被告人ニ對スル豫審調書ニハ引用以外ニ詳細ノ陳述錄取セラレアリ殊ニ前掲「其ノ戸ハ元通り閉メマシタ」ノ次ニ「室内ハ近クニ電燈其ノ他ノ火ノ氣カ無ク暗イノテ私ハ持ツテ居タ電燈ノ火ヲ點ケマシタ」トノ記載アリ前掲「室内ハ暗イ故」ノ記載ヨリ更ニ暗キ意味ヲ強調シヨルモノナリ被告人カ事實武道師範室ニ入りタルナラハ前陳ノ竹内五十嵐ノ各證人ノ證言ノ如ク火ノ氣ハ十分アリシモノナレハ無之旨ノ供述ハ有之筈ナキ筋合ナリ換言スレハ右武道師範室カ十分明ルカリシヤ否ヤハ別個ノ問題トシ或ハ程度ノ明カアリシコトハ爭ナキ處ナリ然ラハ火ノ氣ナク暗カリシノ被告人ノ供述ニ徵スレハ果シテ同人カ同室ニ這入りタルヤ單ニ想像ニ過キササルヤ疑ハシキ處ナリ五、如右諸點ヲ約言スレハ(一)裏門ハ果シテ開キタリタルヤ否ヤ(二)裏門ノ五寸ノ開キハ被告人カ自轉車上ヨリ同電燈ニテ發見シ得タルヤ(三)放火ノ如キ重大事件ノ決意ヲ右發見ノ刹那ニ直チニナシ得ルヤ(四)放火場所タル武道師範室ハ果シテ明カリシヤ(五)放火場所ヲ被告人ノ自供ノ如ク十分詳細ニ看取シ得タルヤニ歸スル處右ハ何レモ被告人ノ放火ノ決意及其ノ時及場所並ニ放火實行ノ場所ニ關スル重要ナル部分ヲ

構成スルモノナリ前掲自白ト各證據トヲ綜合シ自白カ動カシ得サル各證據ト其ノ犯罪敢行上ノ重要ナル部分ニ於テ全ク齟齬スル本件原判決ハ引用スル自白ハ直チニ被告人カ處斷スル唯一ハ證據トナシ難キコト前陳ノ如シ(六)要之原判決ハ種々證據ヲ引用スレトモ被告人カ放火シタリトノ認定ニ對シテハ前掲豫審第一回調書ノミヲ基礎トセルモノニテ他ニ證據ヲ示サス而モ該調書ハ前項ニ陳述セル通り重要ナル部分ニ矛盾アリテ證據力ニ乏シ然ラハ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ依ツテ原判決ハ破毀セララルヘキモノナリト云フニ在リ(中略)

〔決定理由〕 原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ム(大審院四刑、九年(れ)一〇九八號、放火被告事件、九年一〇月二三日決定、大審院裁判例八卷刑事七八頁)

●不良中學生ノ放火ト事實誤認及犯罪無證明 (其二)

本件公訴事實ハ被告人ハ五歳ノ頃家庭ノ都合ニテ母方ノ祖父ニ當ル金澤市宮野音次郎方ニ預ケラレテ養育セラレシカ父母ノ膝下ニ暮ス友人ヲ見テ子供心ニ我身ノ不遇ヲ悲ミ漸次惡戯ヲ爲シ祖父ヨリ叱責セララルコト多キヲ加フルモ却テ其ノ責ヲ兩親ニ歸シ果ハ之ヲ怨ムニ至リ素行不良ナルヨリ遂ニ祖父ノ嫌忌スルトコトナリ福井ニ歸レト申渡サレ昭和六年中福井縣立福井中學校ニ轉校シタルモ同年十一月初頃血櫻團ト稱スル不良少年ト喧嘩ヲ爲シタル爲父母近隣ノ者ヨリ不良視セラレタルヨリ兩親ニ對シ失望ヲ感シ家庭ヲ喜ハス「カフエー」喫茶店等ニ出入シ同年第二學期ノ頃學校ヲ休ミテ足羽山公園ニ散策ヲ試ミタルコト露見シ不良生徒トシテ注意ヲ惹クニ至ルヤ自暴自棄ニ陥ルヲ自ラ制スルニ由ナク爾來煙草ヲ用キ酒ヲ嗜ミ異性ニ好感ヲ懷イテ言寄ル等生徒ノ本分ヲ守ラサルコト尠カラサリシトコト昭和七年六月上旬九州四國方面ノ修學旅行ノ途次生徒監タル同校ノ引率教諭磯崎荒太ノ指揮命令ニ違背シ同人ヨリ痛烈ナル懲戒ヲ



受ケ又歸校後間モナキ同月中旬頃氣分悪キ爲學校ヲ缺席シ午後同校ニ野球ノ見物ニ赴キ而モ白ノ「ワイシヤツ」ニ霜降ノズボント云フ校規外ノ服装ヲ爲シ居ルヲ發見セラレ同校教諭藤枝宏磨井和平等ヨリ嚴重ナル訓戒ヲ與ヘラルルヤ爾後痛ク右教諭等ヲ恨ミ且關係教師及同僚ノ自己ニ對スル態度餘リニ冷淡ナリト爲シ元在校シタル金澤第一中學校ヲ慕ヒテ現ニ五年生トシテ教育ヲ受クル福井中學校ニ對シ快カラサル感情ヲ懷キ居タル折柄昭和八年六月十八日ノ敦賀商業學校ニ於ケル同校野球部ト金澤第一中學校野球部トノ野球試合ニ元母校ノ應援ニ赴キタルモ同野球部敗北シタルヨリ尠カラス落膽シタ刻歸宅シタル上同日午後十時半頃愛人ト嬖曳セムト欲シ自轉車ヲ駈テ自宅ヲ立出テタルモ一ハ拒マレバ不在ニシテ其ノ目的ヲ果シ得ス滿タサレサル胸ヲ懷イテ歸途ニ就キ福井中學校裏手ニ差掛ルヤ偶々同校裏門ノ五寸許リ開キ居ルヲ發見シ恰モ附近ニ人影ナキニ乘シ此ノ機ヲ逸セス教諭等ノ現在セル同校校舍ヲ燒燬シ前示教諭等ニ對スル怨恨ト日頃ノ鬱憤トヲ霽サムト決意シ同夜午後十時五十分頃自轉車ヲ裏門外ニ乗捨テ裏門ヨリ校内ニ入り博物室ノ西側ヲ通り北校舍劍道師範室北西廊下ノ硝子窓ヲ押開ケ武道稽古着付刀等燃焼シ易キ物ノ數多存在セル同室内ニ侵入シ所携ノ燐寸ヲ以テ其ノ壁ニ掛ケアリタル稽古着ノ裾ニ火ヲ放ケ翌十九日午前一時過頃ニ同校宿直員小使等ノ現在セル校舍五棟及附屬建物十棟ヲ全部燒燬シタルモノナリト云フニ在レトモ之ヲ認ムヘキ證明ナシ (大審院四刑、九年(九)一〇九八號、放火被告事件、九年一〇月二三日判決、大審院裁判例八卷刑事八二頁)

●放火罪擬律ノ基礎トナルヘキ事實ニ對スル重大ナル事實誤認 (其一)

〔上告趣意書〕 辯護人秋山高三郎、横田隼雄、菅野勘助上告趣意書第一點原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存ス(以下省略)ト云ヒ、同第二點原審判決ニ

ハ擬律ノ錯誤存ス原審判決ハ其ノ事實認定中同日午後八時頃自宅ヨリ石油ヲ携ヘテ同役場ニ至リ同役場ノ建物ノ一部ヲ爲セル便所ノ格子窓ニ石油ヲ注キ所携ノ燐寸ヲ以テ之ニ點火シテ放火シタルモ云々ト判示シ之ニ刑法第八條ヲ適用シタリ、然レトモ本條ト他ノ目的物ニ對スル放火ノ場合トニ依リ各其ノ適條ヲ異ニスル所以ハ公共的危險アリトノ共通ナル理由ノ外右目的物カ現ニ起臥寢食ニ使用シツツアル人若クハ之等ノ目的物ニ現在スル人ノ特定セル人ノ生命身體財產等生活ニ關スル法益ヲ保護セントスル他ノ理由存スルモノナルコト明ナリ、然ルニ原審判決判示ノ野之瀬村役場ハ執務終了後各吏員悉ク歸宅シ何人モ宿直スル者ナシ即チ此ノ點ニ關シ上田猛太郎ノ豫審調書中同人ノ證言トシテ問、村役場建物内ニ宿直ハ居ナイノカ答、居リマセヌ直ク北手ノ小使室ノ建物ニ役場學校兼用ノ小使小松長重郎ト云フ者カ寢テ居ルノテアリマス(第二十二問答)ト供述記載アリ小松長重郎ハ原審證人トシテ問、其ノ日戸締ハトウシタノカ答、消防ノ人達カ集マル前ニ全部雨戸ヲ締メテ外カラ私カ鍵ヲカケマシタ(第十二問答)ト記載アリテ右役場建物内ニハ執務後吏員カ宿直トシテ起臥寢食スル事ナク犯行時ニ於テモ亦何人モ現在シ居ラサリシコト明白ナリ、然レトモ村役場ハ本條謂フトコロノ現ニ人ノ住居スル建造物ナリトノ御院判例存ス即チ村役場ハ役場吏員カ其ノ職務執行ノ爲現ニ住居スル用ニ供セララル建造物ナリトス(明治四十二年刑判決錄四〇二頁)ト謂フニアレトモ苟モ人ノ住居ニ使用セララト云ハハ現ニ人ノ起臥寢食ノ場所トシテ之等ノ設備ヲ爲シ居リ日夜間斷ナク使用セララル場合ノコトヲ云ヒ民法ニ所謂住所ト云ヘルト其ノ性質ヲ同ウスルモノニ外ナラスト思料ス此ノ點ニ關シ大場茂馬氏ハ住居トシテ使用スルトハ一定ノ人カ多少永續的ノ意味ヲ以テ正則ニ寢食スルノ用ニ供スルコトヲ指稱ス(大場氏刑法各論下卷七三頁)トアリテ即チ住居トハ生活



ハ場所トシ多少永続的ニ起臥寢食シ居ルコトヲ必要トス判示役場ハ宿直室ハ東ニ接續スル土蔵ヲ距テ別棟ニ存スルモノニシテ假リニ宿直スルコトアリトスルモ夜間ハ何人モ同建物内ニ居住スルコトナシ加之右ト背反スル判例存ス即チ刑法第八條ニ於テ規定スル放火罪ノ物體ノ一ナル所謂現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物トハ放火行爲當時現ニ犯人以外ノ人ノ住居ノ用ニ供スルモノ即チ起臥寢食ノ場所トシテ日常使用セル建造物ニシテ云々(大正十四年刑判決録六一頁)トアリテ全ク前掲判例ト其ノ趣旨ヲ異ニスルモノニシテ從テ右判例ハ改メラルヘキモノナリト思料ス要スルニ原審判決ハ本件ニ付刑法第八條ヲ適用シタルハ失當ナリト云フニ在リ

〔決定理由〕 仍テ記録ヲ調査スルニ原判決ニハ擬律ノ基礎トナルヘキ事實ニ關シ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ム (大審院、九年(れ)七四一號、放火未遂被告事件、九年八月六日決定、大審院裁判例八卷刑事事六四頁)

●放火罪擬律ノ基礎トナルヘキ事實ニ對スル重大ナル事實誤認 (其二)

被告人ハ會テ其ノ居村山梨縣中巨摩郡野之瀬村ノ助役トシテ在職シタル外同村々會議員學務委員等ノ公職ニ就キタル者ナルトコロ同村長櫻田禎三カ其ノ出處進退ニ關シ甚タ狡猾ナルモノアリタルヲ憎惡シ且自己カ助役在任中同村長ヨリ受ケタル不親切ナル待遇ニ付テモ快カラス思惟シ居リタルト共ニ現在同村助役上田猛太郎ノ自己ニ對スル忘恩ノ態度ニ付テモ痛ク不快ヲ感シ居リ自然平素右兩名ニ對シ密ニ含ムトコロアリシカ昭和七年十二月縣稅地租附加稅等金額二十一圓餘ヲ滯納スルニ至ルヤ突如動産ノ差押ニ會ヒ次テ昭和八年四月二十一日右差押物件ニ付同月二十六日公賣處分ニ付スル旨ノ通告ヲ受クルニ及ヒ村當局者ノ措置ニ對スル憤懣ノ情更ニ深キヲ加フルニ至リタル折柄其ノ翌二十二日所用ノ爲同郡明穗村小笠原方面ニ赴キ偶飲酒ヲ累ネ

テ銘釘シ歸途右役場附近ニ差蒐ルヤ叙上ノ鬱憤勃發シ茲ニ既ニ退廳時間後ニシテ吏員等ノ現在スルコトナク且内部宿直室ノ設ナク唯別個獨立ノ小使室ノ設備アルニ過キサル建造物タル同村役場ニ放火シ以テ村長等ヲ驚倒困惑セシメンコトヲ決意シ同日午後自宅ニ在リタル石油ヲ携ヘテ同役場ニ到リ其ノ建造物ノ一部タル便所ノ格子窓ニ該石油ヲ注キ蒐ケ所携ハ燐寸ヲ以テ之ニ點火シテ放火シタルモ其ノ火力ハ漸ク右窓ノ敷居鴨居等ノ一部ヲ炭化燻焦セシメタルニ止マリ未タ獨立燃焼ノ程度ニ至ラサルニ先チ秋山一郎等ノ發見消止ムルトコロトナリ該建造物燒燬ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ(證據略)

法律ニ照スル被告人ノ判示所爲ハ刑法第九條第一項第一百十二條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年六月ニ處スヘシ (大審院一刑、九年(れ)七四一號、放火未遂被告事件、九年一月二二日判決、大審院裁判例八卷刑事事六五頁)

●放火罪ニ於ケル重大ナル事實誤認 (大審院三刑、八年(れ)一〇八七號、放火被告事件、八年一月八日決定、法律新聞大審院裁判例八卷刑事事一一頁)

●放火事實ニ對スル重大ナル事實誤認ト犯罪無證明 (其一) (大審院三刑、九年(れ)三五〇號、放火未遂同教唆被告事件、九年五月一九日決定、大審院裁判例八卷刑事事六五頁)

●放火事實ニ對スル重大ナル事實誤認ト犯罪無證明 (其二) (大審院三刑、九年(れ)三五〇號、放火未遂同教唆被告事件、九年一月二四日判決、大審院裁判例八卷刑事事六九頁)

●放火ノ認定ト重大ナル事實誤認 (大審院四刑、八年(れ)一八六八號、放火未遂被告事件、九年三月二日決定、大審院裁判例八卷刑事事四一頁)

●業務上横領ト重大ナル事實誤認



〔上告趣意書〕 原判決ハ被告人ハ網走郡津別村津別市街地所在津別郵便局ニ通信事務員トシテ該郵便局郵便並ニ電信係事務ニ從事シ居リタル者ナルトコロ第一、昭和八年四月七日午後六時十分頃右郵便局郵便物發着室ニ於テ其ノ業務上保管ニ係ル美幌郵便局宛遞送ニ付スヘキ郵便物中國所有ニ係ル金七百四十圓在中ノ價格表記一通及書留通常郵便物合計十一通其ノ他ノ郵便物ヲ美幌郵便局宛遞送ニ付スルニ當リ右價格表記一通ヲ領得スルノ意思ノ下ニ之ヲ遞送ニ付スルコトナクシテ擅ニ着服横領シ尙其ノ際右價格表記一通ノミノ横領カ容易ニ郵便局員タル自己ノ犯行ナルコトノ推定ヲ受クルヲ慮リ之カ推定ヲ避ケンカ爲同時ニ右價格表記ト共ニ前示書留通常郵便物合計十一通ヲモ遞送ニ付スル第二、右横領郵便物力遞送中何人カニ拔取リ窃取セラレタルカ如ク裝ヒ以テ右犯行ヲ蔽ハンカ爲前記日時場所ニ於テ前示郵便物發着室ニ在リタル封印切ニテ前示横領物件ヲ除外シタル殘餘郵便物封入ノ右郵便局備付郵便物遞送用物件麻裝大行囊ヲ長サ約四寸切破リ損傷ヲ爲シタルモノナリト認定シタリ然ルニ被告人ハ第一審以來之ヲ否認シ居リテ被告人ノ警察檢事強制處分ニ於ケル豫審判事ニ對スル自白ヲ除キテハ被告人カ本犯行ヲ爲シタリト認ムヘキ何等ノ證據アルコトナシ、而シテ被告人ハ右自白ハ警察官ノ強要ニ係ルモノナル旨供述シアルト原審檢證現物ニ於ケル證人古川豊吉訊問調書ニ同證人ノ供述トシテ「問、西藤孝カ證人ニ對シ本件犯罪ヲ自白シタコトカアルカ若シ自白シタトセハ其ノ經過如何答、四月十一日夜調ヘマシタカ自白セス翌十二日ノ正午過私カ理窟詰メニ問責シタ處遂ニ自白スルニ至ツタノテアリマス問、其ノ後西藤ハ其ノ自白ヲ翻シタコトカアルカ答、私ノ留守中ニ其ノ自白ヲ翻シタト云フ事ヲ聞イテ居リマス問、證人ハ西藤ヲ何處テ取調ヘタカ答、最初ノ日ハ宿直室テ其ノ次ノ日ニ演武場テ調ヘ其處テ自白シマシタ」

ト供述シアルト同調書中被告人ノ供述トシテ(對質訊問)「問、被告人ヲ取調ヘタル石川巡查部長ハ美幌警察署ニ於テ暴行又ハ脅迫シタ事實ハナイト云フテ居ルカ怎ウカ答、公判廷ニ於テ供述シタ通り四月十一日夜私ノ伸シテ居タ髪ノ毛ヲ引張り耳ノ邊及頬ヲ平手テ叩キ手錠ヲ掛ケラレタコトモアリ十三日ノ晚演武場テ肩カラ水ヲ掛ケラレマシタ」ト供述シアルニ徴スレハ被告人ノ自白ハ警察ノ強要ニ係ルモノナルコトヲ推知スヘク之ト(一)原審檢證調書ニ「立會人大石近之進ハ其ノ時(ロ)點ノ椅子ニ腰掛ケ(イ)點ノ卓子ニ執務中ナリシカ佐々木ヨリ前記行囊ヲ交付セラレタルニ依リ之カ重量計算ヲ爲シ又背後ニ在リタル臺秤ニ載セ在リシ中手荷物ノ行李及石炭箱ノ傍ニ在リタル「トランク」ヲ戸外北方十五米ヲ距テタル一時荷物ヲ置ク爲設ケラレタル荷物臺ノ上ニ置キ事務室ニ引返シ來リ前記行囊ノ破損個所ノ有無ヲ檢査シタルカ其ノ側部及底部ニハ何等異狀ヲ認メス上部四十五纏程二個所堅ク縛リアリタルヲ以テ臺秤ニテ其ノ重量ヲ計算シタルニ十三冠アリ夫レヨリ自席ニ於テ小荷物引受書及乗務車掌ニ交付スヘキ授受書ヲ作成シタルカ其ノ時右六時四十七分着ノ列車ヲ着シタルヲ以テ小荷物引受書ヲ佐々木ニ交付シテプラツトホームニ出テタリト指示供述ス」ト記載アリ(二)原審證人三浦喜代助訊問調書ニ「私ハ直チニ緩急車内ニ入り一應投ケ入レラレタ行囊ヲ調ヘル爲其ノ外裝ヲ側部底部ヲ調ヘマシタカ異狀カナカツタノテプラツトホームニ出テドアヲ閉メマシタ」(三)原審證人大石近之進訊問調書ニ「問、其ノ當時ノ模様ヲ詳述セヨ答、同日午後六時四十分頃津別郵便局ノ集配手ナル佐々木佑カ郵便行囊ヲ私ノ居ル處即チ先ニ御檢證ノ場所ニ渡サレマシタ其ノ臺秤ノ上ニハ柳行李ト石炭箱ノ傍ニ「トランク」カ置イテアリマシタカ私ハ柳行李ヲホームノ荷物臺ノ上ニ運ヒ夫レカラ佐々木カラ渡サレタ郵便行李ヲ臺秤テ量リマシタ處目方カ十三冠



アリマシタノテ差立書ニ記入シ右行囊ノ底部及側部ヲ檢シテ見マシタカ別ニ異狀ハアリマセヌ  
 テシタ廳ヲ定刻六時四十七分ニ列車カ這入テ來マシタノテ私ハ右行囊ヲ小手荷物専用緩急車ノ  
 前ニ行キ其ノドアヲ佐々木カ開ケテ右行囊ヲ貨車ノ中ニ投入レ本岐驛ヨリ津別行ノ行囊參個ヲ  
 下シマシタト供述シアルヲ綜合スレハ判示大行囊ニハ列車積込ノ際迄毀損個所ナカリシコト  
 フ認メ得ヘク之ニ原審證人中澤勇介訊問調書ニ「問、然ラハ證人ハ怎ウシテ右郵便物カナクナ  
 ヲタモノト思フカ答、私ハ郵便局ノミナラス停車場ヘモ局長代理ト共ニ參リ右郵便物發送當時  
 ハ事ヲ取調ヘテ見マシタカ異狀カナクツタトノ話デアリマシタカラ郵便物カ汽車ニ積込マレタ  
 後ニ間違カ出來タモノテハナイカト思フテ居リマス」供述記載アルヲ綜合スレハ判示郵便物ハ  
 被告人ノ横領シタルモノニアラサルコト茲ニ被告人ハ判示自白モ信用スルニ足ラサルコトヲ認  
 ムルニ十分ナリトス況ンヤ被告人ハ判示價格表記郵便物在中ノ紙幣ヲ燒却シタリト自白シアル  
 モ鑑定人大久保忠夫ノ鑑定書ニ依レハ被告人カ紙幣ヲ燒却シタリト云フ灰中ニハ紙幣ヲ燒却シ  
 タリト認ムヘキモノヲ發見セスト鑑定スルニ於テオヤ要之結局本件犯行ハ被告人ノ行爲ナリト  
 認ムヘキ確證ナキヲ以テ原判決ニ於テハ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ事茲ニ  
 出テサリシ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破  
 毀スヘキモノト信スト云フニ在リ

〔決定理由〕 仍テ記録ヲ査スルニ原判決ノ認定シタル事實ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足  
 ルヘキ顯著ナル事由アルコトヲ認ム論旨ハ其ノ理由アリ (大審院四刑、八年(れ)一五六〇號、業  
 務上横領郵便法違反被告事件、九年二月九日決定、大審院裁判例八卷刑事四〇頁)

●保險取扱手数料歩合ノ變更ト重大ナル事實誤認

〔上告趣意書〕 被告人上告趣意書第二點ハ保險取扱手数料ノ契約ヲ二割ニ變更シタル事實ヲ無  
 視シ一割五分ニテ算出シ上告人カ告訴人會社ニ支拂フヘキ金額ヨリ控除シタルノミニテ殘五分  
 ニ相當スル金額ヲ控除セスシテ未タ上告人カ告訴人會社ニ支拂フヘキ殘額アリトシテ有罪ノ判  
 決ヲ言渡シタルハ重大ナル事實ヲ誤認シタル違法アルモノトスト云フニ在リ

〔決定理由〕 仍テ記録ヲ調査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ  
 顯著ナル事由アルモノト認ム (九年(れ)一三〇號、業務上横領被告事件、九年四月二日決定、大審  
 院裁判例八卷刑事二五頁)

●傷害罪ニ對スル重大ナル事實ノ誤認ト告訴取下アリタル單純暴行罪ニ對スル公訴棄却ノ判決

(其一)

〔上告趣意書〕 辯護人工藤日出男上告趣意書第一點上告人ハ第一審當初ヨリ本件犯行ヲ否認シ  
 居ルモノニシテ被害者タル無智ナル原審證人末綱タミハ億藏ノ死亡ニヨリ其ノ全部ノ財産カ上  
 告人ノ所有ト爲ルコトヲ以テ上告人カ資産ヲ横領スルモノナリト誤信シ居タル所近隣ノ一族タ  
 ル原審證人マサ子、勉、テツ、永吉等ハタミト相計リテ上告人ヲ陥レンコトヲ企テ以テ本件事犯  
 ノ如キ虚構ノ事實ヲ捏造シタルモノニシテ上告人ハ全クノ冤ヲ被リ居ルモノナリ原審力其ノ證  
 據トスル所ノ各證人ノ證言ハ各々一致セス又訊問ノ度ニ相違セリ之ヲ例ヘハ毆打シタル回数ニ  
 於テ各證人各様ニ相違セル陳述ヲ爲シ(被告人タミハ一度ト云フニ他ノ證人ハ二度ト云ヒ或ハ  
 三度打ツテ見タリト云フ等)尙證人永吉カ見タリト云フ現場ヨリハ檢證ノ結果見エ得ヘキ場所  
 ニ非ス且原審證人片山明ノ證言ニ依ル時ハ傷害ノ程度殆ト取ルニ足ラサル程度ナリト云ヒ其ノ  
 供述誠ニ曖昧ニシテ記録添綴ノ診斷書ハ果シテ事實診察ヲ爲シタル結果作成セラレタルモノナ



リ、否、ヤ、疑、フ、充、分、ナ、リ、(最近關東地方ニ保險金詐取ノ事犯發覺シ公判開廷セラレタルニ其ノ殆ト全部ノ醫師ハ無診査ノママ報狀ヲ作成シ居ル事實アリ此ノ地方ニ於テハ斯ル慣習トモ云フヘキ事實アルヨリ推測シテ)右ノ次第ニシテ犯罪ノ證明充分ナラサルニ拘ラス原審カ證據充分ナリトシテ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ甚シク事實ヲ誤認シタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

〔決定理由〕 因テ記錄ヲ精査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ノ事由アリト認ム (大審院四刑、九年(レ)四九九號、傷害被告事件、九年六月一二日決定、大審院裁判例八卷刑事七〇頁)

●傷害罪ニ對スル重大ナル事實ノ誤認ト告訴取下アリタル單純暴行罪ニ對スル公訴棄却ノ判決 (其二)

被告人ハ昭和五年三月大分縣東郡中武藏村大字吉廣末綱億造ノ養子トナリ其ノ娘マサコト婚姻シ同年一月七日億造死亡スルヤ其ノ家督ヲ相續シタルカ億造ノ死後同人ノ遺産ノ處分等ニ關シ兎角養母タミトノ間圓滿ヲ缺キ妻マサコトモ不和ヲ醸スニ至リ遂ニ同年八月頃一旦實家ニ歸リタルカ同年十月二十六日午前十時頃右養家ニ到リ同家收納小屋ノ在中品ヲ實家ニ持歸ラントシタルニタミニ於テ之ヲ拒ミシ爲手拳ヲ以テ同人ノ胸部ヲ突キ其ノ右胸側部邊ニ疼痛ノ爲數日間ノ靜養ヲ要スル傷害ヲ被ラシメタルモノナリト云フニ在リ因テ證據ヲ案スルニ被告人カタミニ對シ右傷害ヲ被ラシメタル點ニ付テハ證明ナキモ其ノ胸部ヲ突キタルコト即チ單純暴行ヲ加ヘタル事實ハ第一二審公判調書中證人末綱タミノ要ノ爲判示ノ如ク胸部ヲ突カレタル趣旨ハ供述記載アルニ徴シ洵ニ明ナリ而シテ右事實ハ刑法第二百八條ニ該當スル親告罪ナルトコ

口第一審判決言渡後末綱タミヨリ仲裁者ト連署シ陳述書ト題スル書面ノ提出アリ該書面ハ本院ノ囑託ニ係ル證人臺宜鳳ノ訊問調書ノ供述記載ニ依レハ本件ニ付和解ヲ爲シ本件告訴ノ取消ヲ爲スヘキコトヲ認メタル趣旨ト解スルヲ妥當トスヘキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十四條第五號ニ依リ本件公訴ハ之ヲ棄却スヘキモノトス、檢事ニ於テハ本件ハ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條ヲ適用スヘキモノナリト主張スト雖被告人カ弟惇司ト共同シテタミノ胸部ヲ突キタルコトハ之ヲ認メサルヲ以テ數人共同シテ暴行ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキ右法條ニ當ラサルモノトス (大審院四刑、九年(レ)四九九號、傷害被告事件、九年一月二〇日判決、大審院裁判例八卷刑事七〇頁)

●正當防衛行爲ニ對スル重大ナル事實誤認

〔上告趣意書〕 辯護人大浦千代見上告趣意書原判決ニ依レハ「田近榮太郎ニ喧嘩ヲ挑マルヤ同人ヲ組伏セ手拳ニテ數回同人ノ頭部ヲ毆打シ因テ同人ニ傷害ヲ與ヘタリ」トシテ上告人ヲ傷害罪ニ問擬シタルモ右ハ重大ナル事實ノ誤認アルモノト思料ス、何者上告人ハ田近榮太郎ト取組合トナリタルハ喧嘩ニアラスシテ田近榮太郎ヨリ仕掛ケラレタル暴行ヲ極力避ケ居リタルニ最後ニ兇器ヲ以テ迫害ヲ加ヘントシタルニヨリ之ヲ防衛スルタメ不得已取組合ヲ爲ササルヲ得サルニ至リタルモノニシテ其ノ間ニ田近榮太郎ニ傷害ヲ生シタリトスルモ开ハ上告人カ正當防衛ノ結果ニシテ上告人ニ責任ナシ是ヲ證據ニ付テ觀ルニ長谷部銀助聽取書ノ(二)ニヨレハ「處カ田近カ黙ツテ通行止ノ所砂利ヲ毀シテ通ルトハ生意氣タト嘔鳴リ付ケタ處鈴木ハ自轉車カラ下リテ御免シテ吳レト謝リマシタカ田近ハ尙貴様日頃カラ生意氣タナトト言ツテ居リマシタ其ノ時二人ノ間ハ二、三間離レテ居リマシタカ鈴木ハ自轉車ヲ下リテ二、三步田近ニ近ツキ何カ云ツ



テ居ル様テシタカ何ト言ツタカ覺エテ居リマセヌトアリテ上告人カ道路通行ノ際田近ノ爲強  
 ヒテ文句ヲ附ケラレタルモ上告人ハ「御免」シテ吳レト謝リタル事實ハ何等抵抗ノ意思ナク又  
 其ノ態度トシテモ頗ル從順ナリシコトヲモ想像スルニ餘リアリ然ルニ田近ハ之ニ飽キ足ラスシ  
 テ尙モ暴言ヲ吐キナカラ上告人ニ追及シ來リタル關係モ亦明瞭ナリ而シテ佐々木重吉ノ同職取  
 書ノ(二)ニヨレハ「昨年十一月末頃ト記憶シマスカ私ハ縣道修繕工事ニ働イテ居リマシタ丁度  
 晝前ニナツタノテ名古屋徳治ト二人テ各々スコップ(シヤベル)唐鍬等ヲ持ツテ大都會務所カラ  
 二、三町上ノ下諸井ノ仕事場ニ引上ケテ大都會務所ニ行ク途中向カラ一人ハ道路一人ハ自轉車  
 ヲ押シテ田ノ中ヲ此方へ歩イテ來ルノカ見エマシタ何カ話シ乍ラ來テ居ル様テシタカ六、七十  
 間程ニ近付イタ時ニハ初メテ二人カ口論シテ居ル事カ判リマシタ尙後テ側マテ行ツタ時ニ判ツ  
 タノテスカ縣道ニ來タクハ田近田ノ中ヲ來タノハ鈴木テシタ田近ハ其ノ歩ミ振りカラ見テ酒  
 ニ酔フテ居ル様テシタ我々カ十五、六間カ二十間位ニ近付イタ時鈴木モ縣道ニ上リマシタカ其  
 ハ時田近ハ自轉車ヲ持ツテ居ル鈴木ノ後ロカラ飛ヒ付イタ様テシタ尙田近ハ其ノ前カラ何カ金  
 物ヲ持ツテ振リ上ケテ居タノヲ見マシタカ夫レテ鈴木ヲ打ツタ處ハ一度モ見ナイ様テス二人カ  
 接着シタ處鈴木ハ自轉車ヲ投ケテ後カラ駈付イタ田近ヲ投ケ飛ハシタ様ニ見エマシタカ二人ハ  
 離レスニ其ノ儘田ノ中ニ轉ツテ揉ミ合ツテ居リマシタカ大體鈴木カ上ニナツテ居タ様テス我々  
 ハ二人カ接着シタノヲ見タノテ急キ足テ現場ニ行キ先ツ田近ハ持ツテ居ル金具ヲモキ取り二人  
 ヲ引離シテ鈴木ヲ先ニ逃ケロト逃カシマシタカ田近ハ立上ツテカラ尙モ我々ノ持ツテ來タスコ  
 ヲツバ唐鍬ヲ代ルノ取ツテ鈴木ニ持掛ラウトスルノテ二人テ止メ鈴木カ走逃ケタ上名古屋サ  
 ンハ白轉車ヲ長谷部茂助ニ預ケニ行キ私ハ二人分ノ道具ヲ持ツテ事務所ノ方ニ引上ケマシタ田

近ハ其ノ後什ウシタカ知りマセヌカ暫ク其處ニ立ツテ居タ様テス田近ノ頭カラハ血カ出テ居リ  
 マシタ田近ノ持ツテ居タ金具ト言フノハ幅二寸長サ七、八寸テ穴カ一ツ開イテ居タ様ニ思ヒマ  
 ス場所ハ長谷部茂助方カラ三、四十間離レテ居タ様ニ思ヒマス尙鈴木カ田近カラ後カラ組付カ  
 レタ様ニ見エタ際來テクレト言フ意味ノ事ヲ叫ヒマシタ側ニ行ツテカラモ田近カ離サナイノテ  
 逃ケラレナイト云フ意味ノ事ヲ言ツテ居ツタ様ニ思ヒマス鈴木カ上ニナツテ居マシタカ田近ヲ  
 毆ツタ處ヲ見タ記憶ハアリマセヌトアリ上告人カ田近ノ近寄ルヲ避ケ自轉車ヨリ下リ田浦ヲ  
 自轉車ヲ押シナカラ通行シ來リタルヲ田近ハ道路ヲ通テ文句ヲ云ヒナカラ追ヒ駈ケ來リ田浦ヨ  
 リ道路ニ上ラサレハ通行出來サル處ニ到リ道路ニ上ラントシタルニ田近ハ後方ヨリ上告人ニ飛  
 蒐リ上告人ヲ毆打シタルモ上告人ハ之ニサヘ抵抗セサリシカ振返テ田近ヲ見レハ同人ハ手ニ兇  
 器(當時上告人ハ之ヲ山刀ト見タリ)ヲ振リ上ケ居リタルヲ見テ驚キノ餘リ之ヲ挽取ラントシテ  
 遂ニ取組合トナリタルモノニシテ其ノ事情ハ右供述ニヨリ寔ニ明瞭ナリ然モ其ノ際上告人ノ心  
 情ヲ語ルモノトシテ誰カ來テ吳レト叫ヒシ事實モアリ又佐々木重吉等カ駈ケ付ケ來リタル後ニ  
 於テモ田近カ離サナイテ逃ケラレナイト云ヒタル事實モアリ原審判決ノ如ク上告人カ田近ニ挑  
 マラレタル喧嘩ニ對シ之ヲ買ツテ出テタル行動ト見得ルヤ否ヤハ常識アルモノノ輒ク判斷シ得  
 ヘキ事項ナリト思料ス、然ルニ原審ハ斯ル機微ノ觀察ヲ爲スコトナク漫然田近ニ傷害アリシ一  
 事ヲ以テ上告人カ行使シタル正當防衛ノ權利ヲ犯罪視シタル不法アルモノナリ一般人カ上告人  
 ト同一ノ立場ニ於テ右田近ノ如キ不法進撃ニ對シ之ニ忍從スヘキ義務アリトハ法則アラサル限  
 リハ之ヲ防衛スル爲ニ必要ナル行爲ヲ爲シ得ヘキハ當然ナリ、然ルニ原審ハ前叙ノ如キ經過ニ  
 於テ上告人カ田近ノ暴行ニ忍從セサルヘカラサル如キ立場ニ於テ上告人ノ責任ヲ認メタルモノ



ト云フモ過言ニアラサル事案ニ對シ上告人ヲ有罪ト認メタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノトシテ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ

〔決定理由〕 仍テ記録ヲ調査スルニ原判決ニハ所論ノ如ク事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ム本論旨ハ理由アリ (大審院三刑、九年(レ)五九七號、傷害被告事件、九年七月七日決定、大審院裁判例八卷刑事八五頁)

●正當防衛行為ニ對スル重大ナル事實誤認ト犯罪不成立 (其一) (大審院三刑、九年(レ)八四六號、傷害被告事件、九年九月二十九日決定、大審院裁判例八卷刑事七〇頁)

●正當防衛行為ニ對スル重大ナル事實誤認ト犯罪不成立 (其二) (大審院三刑、九年(レ)八四六號、傷害被告事件、九年二月二日判決、大審院裁判例八卷刑事七二頁)

●購金横領數額ニ對スル重大ナル事實誤認及酌量減刑事由 (刑法第二五三條同項其一、其二參照)

●無免許ノ按摩術營業行為ト重大ナル事實誤認及犯罪ノ無證明 (其一)

〔上告趣意書〕 被告上告趣意書昭和九年四月五日高松地方裁判所ニ於テ按摩術營業取締規則違反トシテ有罪ノ判決ヲ受ケマシタ然シ乍ラ私儀ハ左記事實並事由ニ依リ無罪ナリト信シマスノテ上告致シマシタ次第テアリマス一、事實昭和九年二月十日頃按摩術營業者徒弟タル師ノ證明書ヲ携帶シ香川縣香川郡淺野村十河ルイ方ニ於テ同人ノ需ニ依リ按摩術實地練習ノ爲同人上半身ニ按摩術ヲ施術シ同人ヨリ謝禮トシテ任意ニ金十錢也ヲ戴キタリ (高松警察署認可營業者規定料金ハ上半身按摩術一回ニ付金三十錢以内ニシテ普通金二十五錢也) 右事實ヲ以テ香川縣佛生山警察署ニ於テ按摩術營業取締規則違反者トシテ御取調ヘテ受ケ高松區裁判所檢事局ニ一件

書類ヲ送局サレ第一審第二審共ニ有罪ノ判決ヲ受ケタリ二、理由(一)按摩術營業者ノ徒弟ナルコト自分儀ハ昭和四年四月一日以來現在ニ至ル間香川縣高松市今新町二十八番地甲種按摩術營業者大熊久次郎ニ就キ乙種按摩術ヲ修業中ナリ(二)師ノ監督ノ下ニ在ルコト師ノ直接監督ノ下ニ在ル時ハ格別ナルモ其ノ他ハ常ニ師ヨリ戴キタル按摩術修業證明書トテ按摩術營業者ノ徒弟タルコトヲ證明シタル師ノ證明書ヲ携帶シ居リ現ニ本件ノ取調ヲ受ケタル際モ所持シ居リタリ(右ハ内務省衛生局長ヨリ大正五年二月三日警視總監宛回答ニ依リ師ノ監督ノ下ニ在ルモノトシテ認容相成可キハ明白ナリ)(三)實地練習ナルコト自分儀ハ現在迄ニ二度大阪府ニ於テ乙種按摩術檢定試験ヲ受験ナシタルモ不幸ニ同共學說ハ合格シ實地ニ於テ不合格ト爲リタリ右ニ依リ極力ノ力實習ヲ爲スノ要ニ迫ラレタルヲ以テ師ヨリ健康者又ハ罹病者ノ慰安的按摩ニ限り實地練習ヲ爲ス事ヲ許可セラレ居ルモノニシテ本件ノ如キモ右實地練習ヲ爲シ居リタルモノナリ(四)營利行為ニアラサルコト自分儀ハ按摩術實地練習ヲ爲スモノニシテ營業者ニアラサルヲ以テ被施術者ニ對シ施術料金幾何ナリトシテ施術ヲ爲シタルコトナシ故ニ現在迄ノ報酬ハ上半身一回金十五錢也ヲ戴キシ事モアリ又ハ五錢或ハ十錢又或時ハ「バツト」一個等ノ事モアリタリ要スルニ常ニ被施術者ニ於テ御厚志ノアル場合ハ任意ニ任意額ノ謝禮又ハ報酬ヲ受クルノミナリ(東京地方ニ於テハ俗ニ流シト稱シ值段觸レシテ例ヘハ二百文、四百文、六百文、八百文一貫)一貫五百文等ト道路ヲ徘徊スルモノサヘアリ又岡山縣立盲啞學校ニ於テハ教諭監督ノ下ニ生徒ニ按摩術實地練習證明書ヲ交付シ縣警察部ノ認可ヲ得テ普通料金全身一回ニ付金五十錢也ト料金ヲ定メ客ノ需ニ應シ居レリ之ヲ考フル時自分等ノ如ク被施術者ヨリ任意ニ任意額ノ謝禮又ハ報酬ヲ受クルハ之營利行為ニアラサルモノト思料サル)故ニ營利行為ニハ非ス右事實並



理由ニ據リ考フルニ右行爲ハ按摩術營業ニアラスト思料致サレマス即チ大正二年九月九日付衛  
 第四七一八號大阪府知事照會内務省衛生局長回答ニ明記ノ通り按摩術營業取締規則第一條ノ範  
 圍外トシテ取扱ハルヘキモノナリト信スルノテアリマス若シ右事實並理由ニ據ルモ尙違反トナ  
 ランカ自分等如キ盲人ニシテ學校ニ入ル資力サヘ無キ者ハ盲人ノ唯一ノ天職タル按摩術營業者  
 タラントスルモ實地練習ノ機會少ク試験合格迄ニハ長日月ヲ要シ其ノ日ノ糊口ニモ苦シム事ハ  
 火ヲ見ルヨリモ明ナリ要スルニ自分等徒弟ノ實地練習ハ必要上不止得モノト思料致サレマス、  
 以上述ヘマシタ様テ次第テ自分儀ハ本件ハ絕對ニ無罪ナリト信シ又無罪ノ判決ヲ下サルモノト  
 思料シ刑事訴訟法第四百十二條ニ依リ上告致シマシタ次第テアリマス云フニ在リ

〔決定理由〕 因テ記録ヲ査スルニ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著  
 ナル事由アルモノト認ム (大審院四刑、九年(レ)五二八號、按摩術營業取締規則違反被告事件、九  
 年六月一九日決定、大審院裁判例八卷刑事五九頁)

●無免許ノ按摩術營業行爲ト重大ナル事實誤認及犯罪ノ無證明 (其二)

本件公訴事實ハ被告人ハ按摩術營業ノ免許鑑札ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス昭和八年十月中旬頃ヨ  
 リ昭和九年二月上旬頃ニ至ル迄ノ間前後數十回ニ亙リ香川縣香川郡淺野村字伽羅土十河ルイ方  
 外數箇所ニ於テ同人外十數名ニ對シ一回ニ付料金十錢位宛ヲ徵シテ按摩術ヲ施シ以テ按摩術營  
 業ヲ爲シタルモノナリト云フニ在レトモ被告人ニ對スル犯罪事實ハ之ヲ認ムヘキ證明ナシ

(大審院四刑、九年(レ)五二八號、按摩術營業取締規則違反被告事件、九年一〇月二三日判決、大審院裁判  
 例八卷刑事六〇頁)

●贓物牙保罪ニ於ケル重大ナル事實ノ誤認

〔上告趣意書〕 辯護人星島二郎、深谷茂、前田梅次、深町良平上告趣意書第四點原判決ハ被告人  
 ヲ贓物牙保罪ニ問擬シタリ然レトモ同罪ハ贓物タル情ヲ知リテ之ヲ賣買ノ周旋ヲ爲スニ因リテ  
 成立スルモノナルカ本件記録ヲ調査スルニ(一)本件小麥ハ被告人カ賣買ノ周旋ヲ爲シタル際ハ  
 未タ贓物トナリタルモノニアラス本件ハ木口喜三郎カ判示小麥ヲ窃取賣却セントシテ被告人ニ  
 其ハ賣先ノ周旋ヲ依頼シ被告人ニ於テ之ヲ承諾シ電話ニテ片山方ニ賣却ハ申込ヲ爲シ片山方ト  
 商談整ヒタル爲木口喜三郎ニ於テ判示小麥ヲ倉庫等ヨリ持出シ鐵道ニ委託シテ片山方ニ送付シ  
 タルコトハ被告人ノ供述第一審公判調書中被告人木口喜三郎ノ供述ニ徴シ明カニシテ被告人ノ  
 賣買ノ周旋ヲ爲シタル際ハ判示小麥ハ未タ贓物トナリタルモノニアラスナリ(二)假ニ判示  
 小麥ハ贓物ナリトスルモ被告人ハ其ノ當時盜賊タル情ヲ知ラサルモノナリ被告人ハ木口喜三  
 郎ヨリ判示小麥ノ賣却周旋方ノ依頼ヲ受ケタルヤ被告人ハ木口ニ對シ判示小麥ノ出所ヲ確メタル  
 ニ木口喜三郎ハ判示小麥カ木口菊三ヨリ借り受ケタルモノナリト答ヘタル爲被告人ハ之ヲ信シ  
 賣先ノ周旋ヲ爲シタルモノニシテ被告人ハ贓物タルノ情ヲ知ラサリシコトハ第一、二審公判廷  
 ニ於ケル被告人ノ供述ニ照シ明白ナリトス、既ニ然リトセハ被告人ノ行爲ハ贓物牙保罪ヲ構成  
 スヘキモノニアラス原判決ハ此ノ事實ヲ看過シ被告人ヲ同罪ニ問擬シタルハ重大ナ  
 ル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フ  
 ニ在リ

〔決定理由〕 記録ヲ精査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由  
 アルヲ認ム (大審院三刑、九年(レ)五五四號、贓物牙保被告事件、九年六月二七日決定、大審院裁判  
 例八卷刑事五三頁)



●姑殺シト重大ナル事實誤認(無期カラ無罪へ)(刑法第二〇〇條同項参照)

第四百二十二條 上告裁判所ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日チ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

●上告審ノ訴訟手續違反ノ主張ト上告理由 (刑訴第四〇九條同項参照)

第四百四十條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

●事實ノ確定ニ影響アル法令違反ト破毀理由カ上告シタル共同被告人ニ共通ナル場合

原判決ニハ證據トシテ所論檢事ノ聽取書ヲ援用シアルモ原審公判調書ノ記載ニ依レハ原審ハ本件ノ基本タル昭和九年十二月六日ノ第二回公判期日ニ於テ判事ニ更迭アリタル爲審理ヲ更新シタルニ拘ラス刑事訴訟法第三百四十七條所定ノ手續ヲ履踐シタル事跡ナキヲ以テ結局原判決ハ證據調手續ヲ經サル證據ヲ以テ斷罪ノ資料ト爲シタル違法アリ而シテ右ノ違法ハ本件事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキコト明白ナルカ故ニ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノトス論旨ハ其ノ理由アリ、然リ而シテ右論旨ハ被告人佐藤忠治ノ辯護人ノミノ提出ニ係ルモ原判決ハ相被告人高橋金太郎ニ關シテモ亦右被告人忠治ニ關スルト同様ノ採證ノ違法アリ而モ被告人忠治ハ昭和九年七月三十一日施行ノ岩手縣稗貫郡花卷町町會議員補缺選舉ニ際シ右議員候補者タル松岡守一ノ爲其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ金員ヲ供與シタル選舉違反事件ニ付右相被告人金太郎ト共ニ前記原審第二回公判ニ於テ審理セラレ之ニ基ク判決ニ對シ被告人等兩

名執レモ適法ニ上告ヲ爲シタルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十一條ニ所謂破毀ノ理由カ上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキトアルニ該當スルモノト云フコトヲ妨ケサルカ故ニ相被告人金太郎ノ爲ニモ亦其ノ原判決ヲ破毀スヘキモノトス (大審院四刑、一〇年(九)六四號町會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年三月二日判決、法律新聞三八四八號一六頁)

第四百五十一條 被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

●事實ノ確定ニ影響アル法令違反ト破毀理由カ上告シタル共同被告人ニ共通ナル場合 (刑訴四四〇條同項参照)

第四百五十五條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尙本編第二章ノ規定ヲ準用ス

●上告審ニ於ケル被告人ノ死亡ト私訴ノ裁判 (刑訴第五九〇條第二項同項参照)

### 第四章 抗 告

第四百五十六條 抗告ハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

●大審院ノ決定ニ對スル抗告ノ能否

本件ハ申立人ニ對スル詐欺私文書偽造行使被告事件ニ付本院ニ於テ昭和九年十一月二十二日言



渡シタル上告棄却ノ判決ニ對シ申立人ヨリ疑義ノ申立ヲ爲シ同年十二月二十日同院ニ於テ申立棄却ノ決定ヲ爲シタルトコロ更ニ申立人ヨリ本院ニ即時抗告ヲ申立タルモノナルヲ以テ案スルニ裁判所ノ爲シタル決定ニ對スル抗告ハ其ノ裁判所ニ於テ上級審ヲ有スル場合ニ限ルモノナルヲ以テ大審院カ爲シタル決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ許スヘキモノニ非サルコト言ヲ俟タス故ニ本件抗告ハ之ヲ棄却スヘキモノトス (大審院四刑、九年(フ)三八號、詐欺私文書偽造行使被告事件、一〇年一月二十五日決定、法律新聞三八三二號一一頁)

### 第五編 再 審

#### 第四百八十五條

再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得 (抄)

六 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

#### ●所謂原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ノ意義

再審ニ關スル所論刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキトキトハ原判決カ認定シタル犯罪ヨリ其ノ法定刑ノ輕キ他ノ犯罪ヲ認ムヘキトキノ意義ニシテ同一犯罪ニ付原判決カ科シタル刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ處斷スヘキ情狀アル場合ヲ謂フニ在ラス、本件ニ於テ被告人ノ横領シタル金額カ十八圓ニ非スシテ所論ノ如ク十圓六十六錢ト

ルコトヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタリトスルモ夫ハ單ニ輕キ刑ヲ以テ處斷スヘキ情狀アリト云フニ過キスシテ原判決ノ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ主張スルモノニ非ス (大審院一刑、一〇年(レ)五四一號、業務上横領物盜被告事件、一〇年六月二三日判決、法律新聞三八八三號七頁)

#### 第四百九十三條

檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得 前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

#### ●辯護人ニ因ル再審請求ノ當否

因テ案スルニ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ者ハ刑事訴訟法第四百九十二條ニ依レハ同條ニ列舉セル者ニ限ルノ觀アルニ似タリト雖同法第四百九十三條ヲ同第四百九十七條ト對照スレハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ選任サレタル辯護人ニ於テモ亦其ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノト解セサルヘカラサルコト疑ヲ容レズ蓋上告ニ於テハ上告申立書ヲ提出シタル後一定ノ期間ヲ經テ上告趣意書ヲ提出スルニ反シ再審ニ於テハ當初ヨリ再審請求趣意書ヲ提出シテ原審ノ決定ニ付法律上及事實上ノ點ニ關シ其ノ取消又ハ變更ヲ求ムルモノナレハ法律ニ素養アル辯護士ヲシテ之ヲ爲サシムルヲ便宜トスレハナリ (大審院四刑、一〇年(フ)一一號、窃盜贖物故買被告事件、一〇年五月三日決定、法律新聞三八六四號一四頁)

#### 第四百九十七條

再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

#### ●辯護人ニ因ル再審請求ノ當否 (刑訴第四九三條同項參照)



### 第七編 略式手續

第五百二十三條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ原本ヲ送達シテ之ヲ爲ス

裁判所書記本人ニ原本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

●略式命令ヨリ重キ科刑ト不利益變更 (刑訴第四〇三條同項参照)

第五百二十四條 略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

●略式命令請求書記ノ事實ヲ證據ニ採用スル場合

原判決ニ引用シタル第一審第五回公判調書中ノ被告人ノ供述記載ニ依レハ被告人ハ第一審公廷ニ於テ昭和五年(は)第七〇五六號被告事件記録中昭和五年十月十三日附略式命令請求書記ノ記事ハ實際編輯ハ被告人之ヲ擔當シタル旨供述シタルコト明白ナリ而シテ原判決ハ右供述記載ヲ罪證ニ供シタルモ該供述ハ略式命令請求書中ノ記載ト相俟ツニ非サレハ其ノ内容ヲ知ルヘカラサルカ故ニ原判決ハ之ヲ明ニスルカ爲ニ右略式命令請求書中ノ記載ヲモ引用シタルモノニシテ(原審裁判長ハ右略式命令請求書ニ付證據調ヲ爲シタルコト原審公判調書ニ依リ明白ナリ)略式命令請求書中ノ公訴事實ハ檢事ノ意見ヲ記載シタルニ過キスシテ普通ノ場合ニハ罪證ニ供シ得ヘキモノニ非サレトモ右ノ如ク略式命令請求書中ノ記載ヲ供述中ニ引用シタル公判調書中

ニ於ケル被告人ノ供述記載ヲ罪證ニ供スル場合ニハ其ノ供述ノ内容ニ屬スル同請求書中ノ記載ヲ明ニスルカ爲同請求書中ノ記載ヲ證據トシテ引用スルコトハ固ヨリ正當ニシテ違法ニ非ス(大審院二刑、九年(れ)一六二〇號、新聞紙法違反被告事件、一〇年二月一八日判決、法律新聞三八三七號一四頁)

### 第八編 裁判ノ執行

第五百四十六條

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ掲ケル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得(抄)

七 其ノ他重大ナル事由アルトキ

●第二審中親告罪ニ對スル告訴取消後ノ控訴取下ト第一審判決ノ效力及執行停止 (刑訴第三八二條同項参照)

第五百五十六條

上訴申立ノ後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一 檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部

二 檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

●保釋、責付ニ依ル釋放日ト未決勾留日數通算

刑事訴訟法 裁判ノ執行 (五四六條、五五六條)



保釋、責付其ノ他勾留停止ノ事由ニ因リ釋放シタル日ハ之ヲ未決勾留日數ニ算入スヘク、未決勾留日數算入ノ場合ニ於ケル勾留期間ノ起算日ニ付テハ被告人又ハ被疑者ヲ刑務所ニ引渡シタル時ヨリ勾留期間ヲ起算スヘキモノト解スルヲ相當トス蓋シ勾留ハ訴訟遂行ヲ全クスル爲被告人又ハ被疑者ノ自由ヲ拘束スルモノナルヲ以テ之カ起算日ニ付テハ此ノ訴訟手續上ノ必要ヲ考慮スヘク單ニ被告人ノミノ利益ニ着眼スヘキモノニ非サルニ反シ未決勾留ノ算入ヲ認メタルハ專ラ被告人ノ利益ヲ考慮シ其ノ自由ヲ拘束スルノ點ニ於テ事實上自由刑ノ執行ト同様ナル未決勾留ノ全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトニ因リ本刑其ノモノノ全部又ハ一部ノ執行ヲ輕減セシメントスルニ出テタルモノナレハナリ (和歌山區檢事局照會、法曹會一〇年九月二七日決議、雜誌一三卷一二號八一頁)

第五百六十條 公告ヲ爲シタル時ヨリ六ヶ月内ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス(第二項抄)

●公示又ハ公告ヲ爲スヘキ期間ト刑訴第七九條第四項及同第五六〇條第二項ノ解釋(刑訴第七九條第四項同項參照)

### 第九編 私 訴

## 第一章 通 則

第五百六十七條 犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財産ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

●雇人ノ業務上過失傷害ト附帶私訴ノ當事者

自動車ニ依ル運輸營業者ニ自動車運轉手トシテ傭ハレタル者カ雇傭主ノ自動車ヲ運轉シテ旅客運送中過失ニヨリ他人ニ該自動車ヲ衝突シ負傷セシメタルトキハ運轉手ニ業務上過失傷害ノ刑事上ノ責任アルモ雇傭主ニハ何等刑事上ノ責任ナシ  
單ニ雇傭關係ノ存スル理由ノミニテ過失傷害ニ付斯ル責任ノ生スヘキ理由存セサレハナリ  
雇傭主ニ於テ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合アリトスルモ之ヲ附帶私訴ノ被告ト爲スコトヲ得ス  
雇傭主カ被雇傭者ノ第三者ニ加ヘタル損害ニ付其ノ賠償ノ責ニ任スル場合アルコト民法第七百十五條ノ規定スル處ナルモ公訴ニ附帶スル私訴ハ公訴ノ被告人ニ限定スルコト刑事訴訟法第七百六十七條ノ規定スル處ナルヲ以テ雇傭主ニ損害賠償ノ責任アル場合ニ於テハ之ニ對シ獨立ノ民事訴訟ヲ提起スヘク附帶私訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス舊刑事訴訟法ニ此ノ私訴ヲ許シ現行法カ之ヲ除外シタル所以ハ公訴事實ノ審理以外雇傭者ノ民事上ノ責任ヲ審理スルカ如キハ附帶私訴ノ性質ニ反スルカ故ナリ (法曹會、九年一月一四日決議、雜誌一三卷二號七九頁)

第五百七十二條 民事訴訟法中左ニ掲ケル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ即時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス(抄)

### 十三 強制執行

●私訴判決ト假執行ノ宣言

刑事訴訟法中私訴ノ判決ヲ爲スニ當リ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ認メタル規定ナク



又之ニ關シ民事訴訟法ヲ準用スヘキ旨ノ定ナシ而シテ假執行宣言ノ如キハ民事訴訟法ノ明文ヲ俟テ始メテ之ヲ爲シ得ヘキモノナレハ私訴判決ニ付テハ之ヲ許ササルモノト解セサルヘカラス  
刑事訴訟法第五百七十二條第十三號ハ既ニ確定シタル私訴判決ノ強制執行ニ關スル規定ニシテ  
強制執行ヲ爲スニ必要ナル債務名義ニ關スル規定ニ非サルヲ以テ該規定アルカ爲ニ私訴判決ニ  
假執行ノ宣言ヲ付シ得ルモノト爲スヘキニ非ス (和歌山地方裁判所照會、法曹會、一〇年九月二  
七日決議、雜誌一三卷一二號八二頁)

第五百九十條 公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ(第二項抄)

●上告審ニ於ケル被告人ノ死亡ト私訴ノ裁判

右被告人竹下喜之助ニ對スル傷害致死被告事件並之ニ附帶スル右當事者間ノ損害賠償請求私訴  
事件ニ付昭和九年九月二十六日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人並私訴被告ハ上  
告ヲ爲シタリ然ルニ事件本院ニ繫屬中被告人竹下喜之助ハ昭和十年一月十九日死亡シタルニ因  
リ公訴事件ニ付テハ公訴權消滅シタルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十五條第二號  
ニ從ヒ決定ヲ以テ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ私訴事件ニ付テハ其ノ附帶性ヲ喪ヒタルノミナラ  
ス公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ場合ナルヲ以テ同法第六百十三條第五百九十條第二項ニ則リ決定  
ヲ以テ私訴却下ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス (大審院三刑、九年(九)一三四七號、傷害致死被告事  
件及損害賠償請求私訴事件、一〇年一月三〇日決定、法律新聞三八三七號一五頁)

### 第三章 上 訴

第六百十三條 本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス  
●上告審ニ於ケル被告人ノ死亡ト私訴ノ裁判 (刑訴第五九〇條第二項同項參照)

### 舊刑事訴訟法

第二百二十九條 故障申立ノ期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判決及ヒ訴訟ノ判決  
ニ付テハ開席判決ノ送達ヲ以テ始マリ禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ  
又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル  
●舊刑訴ノ缺席判決ト免除 (復權令第一條同項參照)

### 違警罪即決例

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ  
又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住  
所ニ送達スルコトヲ得

●違警罪即決言渡手續ノ違背ト上告理由

糸生増太郎ニ對スル昭和九年十二月二日附警察官聽取書即決言渡書原審第二回公判調書ニ於ケ  
ル證人谷内嘉造ノ供述記載部分ニ依レハ福井警察署ニ於ケル當該係官ハ昭和九年十二月十二日  
被告人ヲ始メ糸生増太郎ノ陳述ヲ聽取シタル上同月十三日ニ至リ被告人ニ對シ所論即決言渡ヲ

刑事訴訟法

私訴 上訴 (六一三條)

舊刑事訴訟法 (二一九條)

一一五



爲シタルコト明白ナルカ故ニ本件即決言渡ノ手續ハ適法ニシテ毫モ違法ノ點アルコトナシ假ニ右即決言渡カ所論ノ如ク違警罪即決例第二條第一項所定ノ手續ニ違背シテ爲サレタルモノトスルモ之カ爲右即決言渡ノ存在ヲ喪ハシムルモノニ非サルヲ以テ該即決言渡ニ對シテハ有效ニ正式裁判ノ請求ヲ爲シ得ヘク之ニ依リ即決處分ハ直ニ其ノ效力ヲ失ヒ同時ニ事案ハ檢事ノ公訴提起ヲ俟タス當然公訴事件トシテ第一審ノ福井區裁判所ニ繫屬シタルモノト云ハサルヘカラス然ラハ記録ニ徵シ明白ナルカ如ク福井地方裁判所カ本件ニ付第二審トシテ被告人證人ノ訊問ヲ爲シ證據調其ノ他ノ手續ヲ適法ニ履踐シタル上被告人ニ對シ有罪判決ヲ言渡シタルハ正當ニシテ本件即決言渡手續ニ於ケル所論ノ如キ違法ハ原判決ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス

(大審院三刑、一〇年(れ)八三八號、警察犯處罰令違反被告事件、一〇年九月一八日判決法律新聞三九一六號一〇頁)

第十三條 留置ノ日數ハ(一日チ一圓)ニ折シテ料科ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

●留置解除ノ日ト拘留日數通算

違警罪即決例ニ依リ保證金ヲ差出シタル日即留置解除ノ日ハ拘留一日ニ算入スヘキモノトス

(法曹會雜誌二三卷一一號一三二頁訓令)

陪審法

第二條 死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

●殺人ノ起訴ニ對シ傷害致死トセル豫審終結決定書ト法定陪審事件

我カ陪審制度ハ所謂公判陪審ニシテ刑事訴訟ニ於ケル普通手續ニ對シ特別手續タリ而シテ陪審法ハ公判ヲ基礎トシタル刑事裁判ニ關スル法規ナレハ同法ニ依ルヘキ所謂法定陪審事件(陪審法第二條ノ事件)ハ一ニ公判ノ起頭ニ至リ決セラレ豫審ノ階梯ニ於テ未タ定マラス從テ假令檢事カ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ナリトシ豫審ヲ請求シタル場合ニ在リテモ事件ヲ公判ニ付スル豫審終結決定書記載ノ犯罪事實ニシテ陪審法第二條ノ事件ニ該ラサルトキハ固ヨリ法定陪審事件ニ非サルナリ加之斯ル事件ノ公判開始後檢事カ公判裁判所ニ對シ法定陪審事件ニ該ル犯罪トシテ審理セラレ度旨ノ希望ヲ表示シタルハトテ之カ爲普通事件ハ變シテ陪審事件ト化スルノ謂ナシ記録ニ徵スルニ本件ニ付檢事ハ殺人事件トシテ豫審ヲ請求シ豫審終結決定ハ傷害致死罪トシテ公判ニ付シタルトコ第一審公判ニ於テ檢事ハ被告事件ノ陳述トシテ豫審終結決定書記載ノ被告事件ノ要旨ヲ告ケ尙本件ハ被告人ニ殺意アリタルモノトシテ審理アリ度ト附加陳述シタルモノトス、然ラハ豫審終結決定書記載ノ犯罪事實ハ法定陪審事件ニ該ラサルヲ以テ前叙ノ理由ニ依リ本件ハ陪審事件トシテ審判スヘキニ非サルナリ、尙傷害致死事件ハ被告人ノ請求アル場合ニ於テハ陪審法第三條ニ規定スル所謂請求陪審事件タリ得ヘシト雖本件ニ於テ被告人カ之ヲ請求シタル事跡ナク又法律ハ檢事豫審判事若ハ裁判長ノ孰レモ被告人ニ對シ陪審請求ノ權利アルコトヲ諭告シ又ハ其ノ權利ヲ拋棄セシムヘキモノナルコトヲ規定セサルヲ以テ被告人ニ對シ斯ル告示ナクモ第一審並原審カ普通手續ニ依リ本件ヲ審理判決シタルハ毫モ違法ニ非ス

(大審院三刑、一〇年(れ)八三五號、傷害致死被告事件、一〇年九月一八日判決、法律新聞三九一六號八頁)



第六條 被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

●未成年者ノ爲ス陪審法第六條ノ行爲ト法定代理人ノ同意ノ要否

未成年者カ陪審法第六條所定ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ノ取下ケ爲ス場合ハ法定代理人ノ同意ヲ必要トスヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ單獨ニ爲シ得ルモノトス (熊谷區裁判所照會、法曹會一〇年九月二七日決議、雜誌二三卷一二號八二頁)

第七十七條

前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ説示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

●陪審廷ニ於ケル證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關スル裁判長ノ意見ノ表示ト法令違反

〔上告趣意書〕 辯護人小林梅茂上告趣意書第四點原審裁判長ハ陪審法第七十七條但書「證據ノ信否罪責ノ有無ニ關シ」意見ヲ表示シタル違法アリ(1)裁判長ハ其ノ説示中「本件判斷ヲ爲ス資料ト爲ルヘキ證據ハ云々(九一〇丁)ト顯シ證據ノ説明ヲ爲スニ當リ「松岡ハルノ證言ヲ信シ得ルモノトシ且ツ出火ノ場所カ天井裏テ天井裏ヨリ上方丈燒ケタモノナル事ハ被告人モ認め又豫審及當審ノ檢證調書ニヨルモ明カテアルトコロヨリ見レハ本件ハ人ノ過失ニ因ル火災ナリト認ムル根據ハ乏シイ様デアリマス」トノ説示ヲ爲シ居ルモ(イ)松岡ハルノ證言ヲ信シ得ルコトヲ前提トシテ説示シタルコトノ違法ナルハ勿論(ロ)「豫審及當審ノ檢證調書ニヨルモ明カテアルトコロヨリ見レハ」ト前提ヲ陳述シ延イテ(ハ)「本件ハ人ノ過失ニヨル火災ナリト

認ムル根據ハ乏シイ様デアリマス」ト論斷シタルカ如キハ是明カニ證據ノ信否ニ付キ意見ヲ表示シ結局被告人ノ罪責ノ有無ニ關シ放火責任ヲ暗示誘導シタルモノニ歸スヘク違法ノ甚敷モノナリト思料ス(2)更ニ「若シ此火災ノ原因カ不可抗力テモ過失ニヨルモノテモナイトスルナラ放火シタルモノテアロウト考ヘナケレハナラヌ」トデアリマス」ト説示セルハ裁判長カ本件事案ニ對シ放火タルコトヲ斷定シタルモノニシテ放火タルコトハ斷定ハ結局被告人ノ罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示シタルコトニ歸シ其ノ違法ナルコト前項所論ト同一ナリト思料ス(3)續イテ「又其ノ附近ハ家込ミテアツテ晝間其ノ空家又ハ留守宅ニ這入ルトスレハ附近ノ人ニ容易ニ發見セラルヘキ管テアルカラ家主タル被告人テモナケレハ自由ニ出入スルコトカ不可能テナカツタウカ如何カヲ考ヘ」ト言ヒ恰モ出火場所ニ出入シタルハ被告人ナルカ如キ説示ヲ爲シ其ノ前提トシテ「空家又ハ留守宅ニ這入ルトスレハ容易ニ發見セラルヘキ管テアルカラ」ト言フカ如キハ明カニ裁判所カ或ル事實ニ對シ判斷ヲ下シ以テ被告人ノ罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示ヲ爲シタルモノニ外ナラサルモノニシテ前斷同様ノ違法アリト思料ス(4)説示中「被告人ノ供述ニ依レハ競賣申立ヲ受ケタ此四棟ノ最低競賣價格ハ(一)カ七百五十圓(二)カ四百圓(三)カ二百五十圓(四)カ三百五十圓合計千七百五十圓デアリマスカラ之ハ一緒ニ競賣ノ申立ヲ受ケテ居ル黃金町及南太田町ノ各一棟ヲ競賣セラルル事ニナレハ此六棟ハ全部信用組合ニ取ラレル恐レカアツタモノト認メ



ル事カ出來マス」ト説示シタルモ亦違法ナリ蓋シ被告人カ(一)(二)(三)(四)ノ四棟ノ建物カ千七百五十圓ノ最低競賣價格ニテ競賣ノ申立ヲ受ケ居ル事實ヲ供述シタルヲ採ツテ以テ「他ノ二棟ヲ合セタル六棟ハ全部信用組合ニ取ラレル恐レカアツタモノト認メル事カ出來ル」旨ノ事實ヲ斷定シタルハ是亦陪審法第七十七條但書ノ規定ニ反シ結局一面證據ノ信否ニ關シ他面罪責ノ有無ニ付キ意見ハ表示ヲ爲シタルモノト思料ス(5)右ノ部分ニ引續キ「然ルニ被告人ハ(一)ノ建物即チ二階ニ白牛有カ居住スル一戸建二階家ニ對シ昭和七年五月八日日本動産火災保險會社トノ間ニ千圓ノ火災保險契約ヲ新ニ締結シタ事ハ證人秋生田丹三ノ證言及押收ノ保險證券ニヨリ明白ノ事實テアリマス」ト説示ヲ爲シタルモ斯ノ如キハ證人秋生田丹三ノ證言及押收ノ保險證券ヲ無條件ニ信憑シ昭和七年五月八日二千圓ノ火災保險契約ヲ爲シタル事ヲ「明白ノ事實」ト斷定説示シタルモノニシテ其ノ陪審法第七十七條但書ノ規定ニ違反シタル不當ノ説示ナルコト明白ナリト思料ス(6)又説示中「放火シタ事カ確實トナレハ何人カカ這入ツタ管テアツテ何人カカ這入レルモノナラ被告人ニモ這入ラレヌコトハナイノテアリマシテ何レニモ見方カアリマスカラ如何様ニ見ルノカ妥當カラ充分考ヘテ見ル必要カアリマス」トノ部分アリ此説示中「何人カカ這入レルモノナラ被告人ニモ這入ラレヌコトハナイノテアリマシテ」トテ被告人カ本件家屋ノ天井裏ニ這入り得ルコトヲ論斷シ以テ罪責ノ有無ニ關シ重要ナル關係ヲ有スル事實ニ對スル意見ヲ表示シタルハ後ニ「コレモ何レニモ見方カアリマスカラ如何様ニ見ルノカ妥當カラ充分考ヘテ見ル必要カアリマス」ト述ヘタルコトニ因リ違法ヲ阻却シ適法ナル説示ニ還元スルニ由ナク又破毀ヲ免レサル一點ナリト思料スト云フニ在リ

〔判決理由〕 仍テ原審公判調書ニ付裁判長ノ説示ヲ查スルニ該説示中ニハ洵ニ所論ノ如ク證據

ハ信否及罪責ノ有無ニ關スル意見ヲ表示シタリト認ムヘキ廉アリ從テ裁判長ノ説示ハ陪審法第七十七條但書ニ違反シ原判決ハ到底破毀ヲ免レス (大審院四刑、九年(れ)一二號、放火被告事件九年三月二三日判決、大審院裁判例八卷刑事二〇頁)

第九十七條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ  
無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

●陪審法第九十七條ノ法意

陪審法第九十七條ハ刑事訴訟法第三百六十條ノ特別規定ニシテ陪審事件ニ付有罪ノ判決ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實並法律ノ適用ヲ示シ且陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示セハ足り證據説明ヲ要セサルコトヲ定メタルモノト解スルヲ正當ナリトス (大審院一刑、九年(れ)一七五九號、放火被告事件、一〇年三月二一日判決、法律新聞三八四八號七頁)

刑事補償法

第四條(抄) 本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲カ起訴、勾留、公判ニ付スル處分又ハ再審請求

陪審法 (九七條)

刑事補償法 (四條)



ノ原由ト爲リタルトキハ第一條第一項ノ補償ヲ爲サス

●檢事ニ對スル虚偽ノ自白ト自白前ノ勾留ニ對スル刑事補償

被告人ハ業務上横領等被疑事件ニ付勾留セラレ其ノ勾留中昭和八年七月二十四日小倉支部檢事  
廷ニ於テ檢事ノ取調ヲ受ケタル際被疑者カ小倉市役所ニ納付スヘキ特別消費稅金横領事實ヲ自  
認シ而モ其自認タルヤ當該檢事ノ強制威迫誘導等ノ不法非道ノ取調ニ基因スルモノニ非ス又當  
時被疑者ニ於テ勾留ノ繼續ヲ免レンカ爲檢事ニ對シ迎合的ノ供述ヲ爲シタルモノニモ非サルカ  
故ニ斯ノ如キハ同法第四條第二項ニ所謂本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲カ起訴勾留公  
判ニ對スル處分ノ原由ト爲リタルトキトアルニ該當シ勾留ニ因ル補償ハ之ヲ爲シ得ヘキモノニ  
非ス、然レトモ此ノ勾留ニ因ル補償不成立ノ事由ハ被疑者カ檢事ノ取調ニ對シテ自白ヲ爲シタ  
ル以前ニ遡及スヘキ理由ナク又無罪ト爲リタル公訴事實ノ性質ニ照スモ同法第四條所定ノ執  
ノ場合ニモ該當セサルカ故ニ抗告人カ勾留セラレタル昭和八年七月十七日ヨリ檢事ノ取調ニ對  
シテ自白ヲ爲シタル同月二十日ニ至ル迄ノ四日間ニ付テハ同法第一條第一項ニ依リ勾留ニ因ル  
補償ヲ爲スヘキモノトス、本院ハ本件ノ罪質其ノ他抗告人ノ勾留ニ因ル精神上ノ苦痛ニ稽ヘ之  
ニ對スル慰藉ヲ一日四圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ補償スルヲ相當ナリトシ金十六圓ヲ抗  
告人ニ交付スヘキモノト判定ス (大審院三刑、一〇年(フ)三一號、刑事補償請求事件、一〇年一〇  
月九日決定、法律新聞三八九號一五頁)

●放火罪ニ於ケル虚偽自白カ刑補第四條第二項ニ該當セサル場合

請求人ハ放火被告事件ノ爲昭和八年十一月十八日秋田地方裁判所大曲支部豫審判事ノ勾留狀ニ

依リ勾留セラレ第一、二審共有罪ノ判決ヲ受ケタルモ上告ノ結果昭和十年五月二日當院ニ於テ  
犯罪事實ノ證明ナシトノ理由ニヨリ無罪ノ判決ヲ受ケ即日釋放セラレタル事實ヲ認メ得ヘシ而  
シテ記録ニ徵セハ請求人ハ右被告事件ニ付初警察官ノ取調ニ對シ佐々木佐五郎ノ柴鳩小松松太  
郎ノ堀立小屋ニ對スル放火事實ヲ否認シ後之ヲ認メ續イテ檢事ノ取調ニ對シ之ヲ否認シ次テ警  
察官ノ取調ニ對シ右事實並小松熊吉ノ長木小屋ニ對スル放火ノ事實ヲ認メ續イテ同警察署ニ於  
テ檢事ノ取調ニ對シ以上ノ事實全部ヲ認メ先ツ該柴鳩及堀立小屋ニ對スル放火ノ事實ニ付起訴  
セラレ次テ同警察署ニ於テ爲サレタル豫審第一回ノ訊問ノ際ニモ以上ノ事實全部ヲ認メ次テ勾  
留狀ヲ發セラレ其ノ後長木小屋ニ對スル放火事實ニ付追起訴アリ豫審終結決定ヲ以テ以上ノ事  
實全部ニ付公判ニ付セララルニ至リタルモノナルコトヲ認メ得ヘシト雖而モ右ノ如ク放火ノ事  
實ヲ認ムルニ至リタルコトカ請求人ハ故意又ハ重大ナル過失ニ因ルモノト認ムルヲ得サレハ  
本件請求ハ理由アルヲ以テ請求人ニ對シテハ補償ヲ爲スヘキモノトス、而シテ其ノ額ハ記録ニ  
依リ明カナル請求人ノ身分職業財産狀態等ヲ參照シ一日金一圓五十錢ノ割合ヲ以テ相當ト認メ  
勾留日數五百三十一日ニ對シ其ノ合算額金七百九十六圓五十錢ヲ交付スヘキモノトス (大審院  
二刑、一〇年(ラ)五號、刑事補償法ニ依ル請求事件、一〇年七月一五日決定、法律新聞三八六七號四頁)

●檢事ニ對スル自白ト刑事補償 (刑補法第四條同項參照)

●刑補第四條第二項ニ該當スル場合 (本法第五條「勾引狀執行前ノ留置拘禁及執行後ノ勾留  
ト刑事補償」參照)

●正當防衛行爲ト刑事補償



審按スルニ請求人カ前記水利害被告事件ニ付昭和十年九月十一日大審院ニ於テ請求人ノ爲セル行爲ハ所謂正當防衛ニシテ罪ト爲ラストシ無罪ノ判決ヲ言渡サレ該判決確定シタルコト並ニ請求人カ同被告事件ニ付高松地方裁判所丸龜支部豫審判事代理判事ノ拘引狀ニ因リ昭和九年十月五日拘引セラレ次テ同豫審判事ノ勾留狀ニ因リ同月六日以降勾留セラレ同豫審判事ノ保釋決定ニ因リ同年十一月十九日(請求ニ二十日トアルハ誤ナルヘシ)釋放セララルニ至ル迄四十六日間拘禁セラレタルコトハ昭和十年(九)第八一八號本院第三刑事部判決謄本及取寄ニ係ル刑事記録ニ徴シ極メテ明白ナリ然リ而シテ本件ノ事案タルヤ公訴事實カ刑法第三十六條第一項ノ急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲己ムコトヲ得サルニ出テタル正當防衛行爲ニシテ毫モ違法性ヲ有スルモノハニ非ス從テ刑事補償法第四條ハ補償不成立ノ事由存在スルコトナキカ故ニ同法第一條第一項ニ依リ請求人ニ對シテ勾留ニ因ル補償ヲ爲スヘキモノトス本院ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル請求人ノ勾留ニ因ル精神上ノ苦痛ニ稽ヘ諸般ノ事情ヲ斟酌シ拘禁日數一日ニ付金五圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ補償スルヲ相當ナリトシ同法第五條第一項第十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス (大審院三刑、一〇年(五)八號、勾留ニ因ル刑事補償請求事件、一〇年一月二日決定、法律新聞三九二一號一七頁)

第五條(抄) 勾留ニ因ル補償ニ於テハ勾引狀又ハ勾留狀執行後ノ拘禁日數ニ對シテ一日五圓以内ノ補償金ヲ交付ス

●勾引狀執行前ノ留置拘禁及執行後ノ勾留ト刑事補償

抗告人ニ對スル放火被告事件ハ記錄ニ徵スレハ抗告人ハ昭和七年四月九日夜保險金ヲ取得スルノ目的ヲ以テ岐阜縣稻葉郡鏡島村大字江崎字榎畑二百八十六番所有ノ抗告人所有建物ニ放火シ

之ヲ全燒セシメタリトノ事實ニ付同年五月十四日岐阜地方裁判所ニ豫審ヲ請求セラレ同日拘引狀ヲ同月十六日勾留狀ヲ各執行セラレタルコト同八年七月十九日保釋決定ニ依リ保釋セラレタルコト並抗告人カ右放火事件ニ付同九年七月二十四日名古屋控訴院ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ同月三十一日該判決確定シタルコト明瞭ナリ仍テ本件請求ノ當否ヲ審究スルニ勾留ニ因ル刑事補償ハ拘引狀執行後ノ拘禁日數ニ對シテ爲サルヘキモノナルコトハ刑事補償法第五條第一項ノ明定スル所ニシテ右拘引狀執行前警察署ニ於ケル留置拘禁ニ對シテハ之カ補償ヲ許容シタル何等ハ法規ヲキテ抗告人カ昭和七年四月十日ヨリ拘引狀ハ執行ヲ受クル迄ハ間岐阜警察署ニ留置拘禁セラレタリトスルモノニ對シテハ其事由ノ如何ニ拘ラス補償ヲ爲スニ由ナキモノトス而シテ右拘引狀執行後ノ拘禁ニ依ル補償請求ニ付テハ前記放火事件ノ記錄ニ依レハ抗告人ハ昭和七年四月十三日及同月十五日岐阜警察署ニ於テ司法警察官ノ取調ヲ受ケタル際前顯建物ノ燒失ハ抗告人ノ放火ニ因ルモノナルコトヲ自白シ居リテ抗告人ノ右自白ト他ノ證據ト相俟テ右放火事件ノ豫審請求ヲ見ルニ至リタルモノナルコトヲ推認シ得ヘク抗告人ノ右自白カ他ノ強制威迫ニ基因スルモノナルコトヲ認ムルニ足ルヘキ證據ナキヲ以テ右抗告人ニ對スル放火事件ハ抗告人ノ重大ナル過失ニ依ル行爲カ起訴ノ原因トナリタルモノト認メサルヲ得ス從テ刑事補償法第四條第二項ニ依リ勾留ニ因ル補償ヲ爲スヘキモノニ非サルヲ以テ本件請求ハ其ノ理由ナキモノトシテ同法第十條第二項ニ從ヒ之ヲ棄却スヘキモノトス (大審院四刑、九年(フ)三四號、刑事補償請求事件、九年二月二十四日決定、法律新聞三八一七號一六頁)

第十九條 裁判所補償ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定ヲ受ケタル者ノ申立ニ因リ速ニ無罪又ハ免訴ノ裁判ノ主文及要旨並ニ補償ヲ爲シタル旨ヲ官報ニ掲載スヘシ



●刑事補償ト公告ノ時期

刑事補償法第十九條ニハ「裁判所補償ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定ヲ受ケタル者ノ申立ニ因リ速ニ無罪又ハ免訴ノ裁判ノ主文及要旨並ニ補償ヲ爲シタル旨ヲ官報ニ掲載スヘシ」ト規定セルヲ以テ其ノ文理解釋上ハ補償金ノ拂渡後ニ於テ右所定ノ公告ヲ爲スヘキ趣旨ナルカ如シト雖補償金ノ拂渡ヲ受ケタルト否トハ權利者ノ自由ナルヲ以テ同條ハ補償ノ決定ヲ受ケタル權利者カ未タ補償金ノ拂渡ヲ受ケサル以前ニ於テ無罪又ハ免訴ノ裁判ノ主文及要旨並ニ補償ノ決定アリタル旨ノ公示ヲ要求スルコトヲ禁シタルモノトハ解シ難ク從テ權利者ヨリ右趣旨ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ速ニ右趣旨ノ公示ヲ爲スヘク又權利者ノ申立カ補償ヲ爲シタル旨ノ公示ヲ要求スルニ在ルトキハ補償ノ拂渡後速ニ其ノ趣旨ノ公示ヲ爲スヘキモノト解スルヲ相當トス  
(熊谷區裁判所照會、法曹會一〇年九月二七日決議、雜誌二三卷一二號八三頁)

少年法

第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期五年ニ短縮ス(第一項抄)

●犯行後十八歳トナリタル者ニ對スル少年法適用ノ當否

原判決擧示ノ證據ニ依リ判示犯罪事實ヲ認メ得ヘク記録ヲ精査スルモ原判決ノ事實ノ認定ニ重

大ナル誤認ナク犯行當時被告人カ心神耗弱者ナリシコトハ之ヲ認ムルコト能ハス又少年法第八條第一項ノ規定ヲ適用スヘキ少年タルニハ犯時十八歳ニ滿タサルノミナラス處分ノ時モ尙十八歳ニ滿タサルコトヲ要ス本件被告人ハ大正五年七月二十一日生ニシテ本件犯行當時タル昭和八年十二月七日ハ十八歳未滿ナリシモ同九年十一月二十二日原判決言渡ノ時ハ既ニ滿十八歳ヲ超エタルヲ以テ同法條ヲ適用スヘキニ非スシテ單純ナル判示事實ニ付刑法第八條ヲ適用シ酌量減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四年ニ處シタルハ正當ナリ (大審院一刑、一〇年(レ)一一二號、放火被告事件、一〇年四月四日判決、法律新聞三八五七號九頁)

陸軍々法會議法

第八條 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ取調ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ  
調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對スル訊問及其ノ供述
  - 二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由
- 調書ハ録事ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ  
供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ  
調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

陸軍々法會議法 (一〇八條)



陸軍々法會議法 (一〇八條)

●法令ニ依リ作成セラレタル訊問調書ノ原本ノ意義 (刑訴第三四三條同項参照)

一三八

刑事訴訟法



諸

法



## 諸法目次

### ●憲法

- 第五十九條  
○公開停止決定ト公判手續更新後ノ效力……………一
- 裁判書ト公開ノ原則及引用證據ノ種類及  
内容判決ノ要否……………一

### ●衆議院議員選舉法

- 第十二條  
○衆議院議員選舉法ニ所謂住居ヲ有スル者  
ノ意義……………二
- 第十三條  
○一般休日等ニ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供シタ  
ル場合ト期間ノ計算……………二
- 第九十八條  
○投票依頼ノ爲連續シタル個々面接ノ選舉  
運動……………三
- 選舉運動ヲ依頼スル爲メノ個々面接行爲  
ト擬律錯誤……………三

諸法目次

### 第一百十二條

- 獎勵ノ意義……………四
- 金錢供與及獎勵ト適用法條……………四
- 將來選舉運動ヲ爲サシムル爲ノ報酬ト適  
用法條……………五
- 法定選舉運動者ニ非サル者ノ金錢供與申  
込ノ承諾ト適用法條……………五
- 所謂選舉運動者ノ意義……………六
- 選舉人誘導罪ノ成立要件……………六
- 子弟ノ失職ニ備ヘ就職斡旋ノ承諾ト特殊  
ノ直接利害關係……………七
- 第一百十四條  
○選舉ニ關シ數人共同シテ利益ヲ受ケタル  
場合ノ追徵……………七
- 選舉運動費並ニ報酬ノ不可分の供與ト全  
額追徵ノ當否……………七
- 第一百十五條  
○偽計詐術ニ依ル選舉自由ノ妨害ト目的ノ  
要否……………八
- 第一百二十七條……………八



○町會議員選舉ニ於ケル投票ノ減少及偽造  
行爲ト包括罪……………九  
○連綴シタル個々面接及戸別訪問ト罰條……………二〇

●會計法

○會計法規違反ノ法律行爲ノ效力……………二  
○會計法三二條「他ノ法律」ニハ公法及私法  
ヲ包括ス……………二

●會計規則

○健康保險出張所長ト不動産登記法ニ所謂  
官廳……………二

●議院法

○代議士ノ歳費ニ對スル差押……………三

ニ對スル再審棄却ノ決定ハ二審裁判ナリ……………二七  
○執達吏ノ職務義務違背ト行政監督權服從  
義務(執達吏ノ事務分配ト其ノ效力)其一……………一八

○執達吏ノ職務義務違背ト行政監督權服從  
義務其二……………二〇  
○補充判事ノ審問關與ト公判手續更新原因……………三

●辯護士法 (明治二六年三月四日  
法律第七號)

第十四條

○強制執行ヲ爲シタル辯護士ト第三者ノ該  
執行停止申請事件受任ノ當否……………三  
○相手方ヨリ協議ヲ受ケタル事件ノ復代理  
人選任ト辯護士法十四條……………二四

第二十六條

○辯護士報酬額決定ノ標準……………二四  
○訴訟委任契約ニ於ケル「取下ヲ成功ト看做」  
ノ解釋……………二五  
○特約ナキ場合ニ於ケル辯護士ノ報酬……………二六  
○辯護士ノ中途解任ト報酬手数料……………二六

●法例

○所謂公布ノ日ノ意義……………二三  
○所謂公布ノ日ヨリノ意義……………二三  
○英國人ノ離婚訴訟ト準據法……………二三  
○英國人ノ離婚訴訟ト準據法……………二五

●裁判所構成法

○耕地整理組合費等ニ基ク相殺抗辯ト司法  
裁判……………一六  
○水先人組合ノ性質……………一六  
○區裁判所出張所ノ登記官吏ト官廳……………一六  
○區裁判所出張所ノ登記官吏ト官廳……………一七  
○地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決……………一七

●法律事務取扱ノ取締ニ  
關スル法律

○司法代書人ノ職務範圍外ノ行爲……………二七

●司法代書人法

○登記原因證明書ノ作成ト司法代書人ノ職  
務……………二七

●代書人規則

○司法書士ニ非サル代書人ノ登記申請ト違  
反行爲……………二六

●行政裁判法

第二十七條



○町税附加税賦課ニ對スル異議ト訴ノ却下……二六

●府縣制

第十三條ノ二

○公民權ヲ有セサル間ニ爲シタル縣會議員立候補届出ノ效力……二六

第六條

○法人ノ土地並家屋賃貸收益ト府縣税……二六

●市制

第三十二條

○官吏タル市會議員ノ臨時又ハ常設ノ委員應諾ト所屬長官ノ許可……二六

第三十五條

○市會議員選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アル場合ノ意義……二六

第六條

○東京市編入町村吏員ノ退職料及遺族扶助料ノ性質ト管轄……二六

第一百九條

○法人ノ土地家屋賃貸收益ト市税……三二

第三十一條

○救護費ノ償還請求ト國稅滯納處分……三二

●町村制

第十七條

○訴訟裁決前ニ於ケル繰上當選手續ノ當否……三三

第十八條ノ二

○法定期間ニ遅レテ縦覽ニ供シタル選舉人名簿ノ效力ト異議ノ申立(一部期間代用シタル調査個票ト選舉人名簿)……三三

第十八條ノ三

○選舉人名簿ニ關スル異議ニ對スル町村長ノ決定權ト現任議員ニ付テノ資格審査……三三

○法定期間ニ遅レテ縦覽ニ供シタル選舉人名簿ノ效力ト異議ノ申立……三三

○訴訟裁決前ニ於ケル繰上當選手續ノ當否……三三

第三十五條

○訴訟裁決前ニ於ケル繰上當選手續ノ當否……三三

○戸數割ノ賦課ト町村税……三六

第十條

○町村税附加税賦課ニ對スル異議ト訴ノ却下……三六

第十四條

○町村長ノ專決權ト豫備費ニ關スル不當支出……四〇

第十六條

○町村豫備費ノ性質……四〇

第二十四條

○町村ノ一部ノ意義……四〇

○町村ノ一部力有スル財産ノ管理者ト違法處分……四一

●北海道一級町村制

第四條

○北海道一級町村ノ選舉ノ效力ニ關シ依據法條ニ誤アル異議申立ト職權調査……四三

第三十七條

○町會議員選舉ニ於ケル投票ノ減少及偽造行為ト包括一罪……三六

第四十條

○町村ノ一部力有スル財産ノ管理者ト違法處分……三六

○町村ニ提供預金セラレタル身許保證金ト利息ノ歸屬者……三六

第六十三條

○町村助役推薦ノ爲豫メ爲シタル非公式議決ト町村長及町村會議員ノ職務……三七

第七十一條

○雇員ト町村吏員……三七

七十二條

○村會ノ決議ナクシテ爲サレタル村長ノ行為ノ效力……三七

○村有財産管理者ノ意義……三七

第七十六條

○町村長ノ專決權ト豫備費ニ關スル不當支出……三六

第八十條

○町村收入役ノ行為ト町村ノ責任……三六

第九十八條



●特許法

- 第一條 ○公知ナル雜誌記載ノ原理ヲ應用セル蒸溜塔ト特許ノ價值……………三
- 構造ノ相似點ノミノ觀察ト原理ノ詮索及應用ニ依ル工業的效果ノ究明……………四
- 鐵鋼ノ縱緯筋熔接原理應用ト新製品特許價值……………四
- 鐵筋組成方法ノ新規發明ト審理不盡又ハ理由不備……………四
- 第二〇條 ○非辨理士ノ行爲ト特許法第二〇條ノ解釋……………四
- 第四七條 ○共有セル特許權ニ基キ改良シタル新特許實施ノ當否……………四
- 第三三條 ○特許法第一〇三條ニ所謂理由ノ意義……………四

●特許法施行規則

- 第十一條 ○實用新案出願ノ圖面訂正ト要旨ノ變更……………五

●實用新案法

- 第一條 ○形態ノ類似セル考案工程ノ新規性ト實用新案ノ目的……………五
- 第七條 ○實用新案法ニ所謂先用者ノ實施權……………五

●實用新案法施行規則

- 第七條 ○實用新案出願ノ圖面訂正ト要旨ノ變更……………五
- 商標權侵害排除請求權保全ノ假處分ト取消……………五

●商標法

- 第二條 ○商標稱呼ノ異同ト判定ノ誤謬……………五
- 商標稱呼異同ノ判定標準……………五
- 類似商標ノ甄別方法……………五

○一部分ヲ除キ全體の構圖ニ於ケル類似商標……………五

- 新聞紙ノ題號ト商標法ノ適用……………五
- 第九條 ○所謂周知標章ノ繼續使用權……………五
- 商標法第九條ノ解釋……………五
- 他人ノ登録商標ノ使用ヲ繼續シ得ル者……………五
- 第十二條 ○聯合商標ノ指定商品中一部分割讓渡ノ效力……………五
- 第十五條 ○商標法一五條一項ノ趣旨……………六
- 第十六條 ○商標權消滅後ノ無斷審判ノ效力……………六
- 第三四條 ○商標法三四條第一號ト轉賣者及第三轉賣者……………六
- 第四十條 ○舊法ニ依リ登録セラレタル商標權ノ效力……………六

●著作權法

第三十七條

- 債務者ノ著作物ニ對スル債權者ノ偽作……………三
- 偽作ノ意義……………三
- 第三十九條 ○複製ノ意義……………三

●新聞紙法

- 第四十一條 ○新聞紙法ニ所謂安寧秩序ヲ紊スノ事項(愛國心ノ發露ト其ノ手段)……………四
- 第四十五條 ○新聞紙法第四十五條ノ事實證明ヲ得サル名譽毀損ト侮辱罪……………四
- 私行ナリヤ否ヤノ標準……………四
- 出版物ニ依ル市長ノ職務行爲ニ對スル名譽毀損ト事實證明ノ要否……………六

●出版法

- 第三十一條 ○出版物ニ依ル市長ノ職務行爲ニ對スル名譽毀損ト事實證明ノ要否……………六



●醫師法

- 第六條ノ二
- 巡查ノ診療簿檢閲ト之カ提示ヲ爲シタル
- 醫師ノ秘密漏泄罪
- 第十一條
- トラホーム患者ニ對スル外科手術行爲ト
- 醫師法違反
- 營業ノ意義
- 營利ノ目的ナキ行爲ト醫師法違反
- 賣藥ノ使用ト投藥行爲

●獸醫師法

- 醫業ト契約自由
- 醫師法施行規則第九條第二項ノ律意

●公證人手數料規則

- 第二條
- 使用貸借又ハ無償寄託ニ關スル公證人手數料
- 第二十條
- 金錢債務ノ辨濟事實ヲ錄取スル公證人手數料

●醫師法施行規則

- 第五條
- 醫師會ノ過怠金ト委任狀ニヨル決議(八王子市南多摩郡醫師會事件)

●執達吏規則

- 邊僻ノ地域ニアル訴訟書類送達
- 第二十一條
- 執達吏ト恩給

●麻藥取締規則

- 第九條
- 麻藥密輸入行爲ト關稅逋脫行爲
- 麻藥取締規則施行前後ニ亘ル連續犯
- 第二十一條
- 麻藥密輸入行爲ト關稅逋脫行爲
- 麻藥取締規則施行前後ニ亘ル連續犯

●請願令

- 第十六條
- 直願ノ豫備ト請願令違反

●土地收用法

- 第一條

●耕地整理法

- 第十七條
- 區劃整理換地豫定地ノ賣買ハ無効ニ非ス
- 第二十五條
- 耕地整理法二五條ニ依リ供託シタル清算金及補償金ニ對スル抵當權ノ行使
- 耕地整理法二五條一項ノ補償金若ハ清算金ノ請求ヲ目的トスル抵當權ノ保全



第二十七條

○都市計画法ニ依ル土地區劃整理ト建物ニ對スル直接強制……………六九

第三十條

○精算金ニ對スル耕地整理組合ノ履行遲滯ト組合員ノ履行請求……………八〇

○耕地整理換地處分前ノ土地使用權……………八一

第三十一條

○精算金ニ對スル耕地整理組合ノ履行遲滯ト組合員ノ履行請求……………八二

第七十九條

○耕地整理組合ノ爲ス廢罷訴權ト司法裁判所ノ管轄權……………八三

○耕地整理組合ノ登記義務者……………八三

○耕地整理組合費ト司法裁判所ニ對スル訴求不許……………八三

○耕地整理組合費等ニ基ク相殺抗辯ト司法裁判……………八四

第八十條

○地方長官ノ認可ヲ經サル耕地整理組合起債ノ效力……………八四

●産業組合法

第二條

○無限責任産業組合員ノ出資金……………八五

第五條

○産業組合支配人ノ設置……………八五

第九條

○公告方法ヲ定メタル産業組合定款ノ效力……………八六

○全國購買組合聯合會定款ノ事務所ノ表示……………八六

第十六條ノ四

○從タル事務所ノ組織變更登記囑託書ニ屆書添附ノ要否……………八七

第二十八條

○産業組合役員辭任ノ自由……………八七

第四十二條

○保證責任組合員ノ持分讓渡ト産業組合法第四十二條……………八八

第五十五條

○脫退産業組合員ノ持分拂戻請求權ノ消滅時效……………八八

第五十七條

○脫退産業組合員ノ持分拂戻請求權ノ消滅時效……………八九

第六十條ノ二

○地方長官ノ選任シタル産業組合常任理事ノ地位……………八九

第九十三條

○産業組合ト組合員外ノ者トノ代位辨濟契約ノ效力……………八九

●産業組合中央金庫法

第七條

○産業組合中央金庫支配人ノ設置……………九〇

●重要物産同業組合法

○重要物産同業組合ハ私法人ナリ……………九〇

第四條

○重要物産同業組合加入義務(藥屋さん大恐慌)……………九一

○砂糖商ト重要物産同業組合加入義務……………九二

第十條

○重要物産同業組合ニ於ケル違約金ニ關スル約款ノ效力……………九三

●商業組合法

第十六條

○保證責任商業組合ノ組合員タル理事除名ノ登記手續……………九三

●輸出組合、工業組合及商業組合登記取扱手續

第六條

○商業組合ニ於ケル印鑑ノ取扱ト商業登記……………九三

●工業組合法

第三十五條

○工業組合ニ於ケル理事長ノ登記懈怠ト他ノ理事者ニ對スル制裁……………九四



●森林法

- 第八十三條 ○森林窃盜ト親族相盜……………九四
- 第八十四條 ○森林窃盜ト罰金算定ノ標準ヲ誤リタル違法及理由不備……………九五
- 上級審ニ於ケル罰金ノ輕減及之ニ對スル勞役場留置ノ言渡ノ當否……………九六

●漁業組合令

- 第二十七條 ○漁業組合令二七條ノ通知ト到達主義……………九七
- 第三十九條 ○漁業組合ノ理事等ノ不法行爲ト被害者ニ對スル直接ノ賠償責任……………九七
- 第七十九條 ○登記申請資格者數人アル場合ノ漁業組合ト一人ノ爲ス登記申請ノ當否……………九八

●漁業組合登記取扱手續

- 第二十五條 ○郵便ニ依ル漁業組合登記申請ノ適否……………九八

●鑛業法

- 第十五條 ○試掘權ノ妨害ト探掘權ニヨル排除……………九八
- 第二十條 ○債權ノ辨濟ト抵當權ノ目的タル鑛業權ノ消滅……………一〇〇

●船舶法

- 第三條 ○不開港場ニ寄港シタル外國船舶(新湖南事件)一審判決……………一〇〇
- 不開港場ニ寄港シタル外國船舶(新湖南事件)二審判決……………一〇三
- 第二十三條

- 不開港場ニ寄港シタル外國船舶(新湖南事件)……………一〇三

●水先法

- 水先人組合ノ性質……………一〇三

●農村負債整理組合法

- 第二十四條 ○負債整理組合設立登記申請人ノ意義……………一〇五

●畜産組合法

- 公法人ノ役員資格ニ關スル裁判管轄……………一〇六

●郵便法

第二條

諸法目次

- 郵便法ニ所謂信書ノ意義……………一〇七

第十六條ノ二

- 郵便法ニ所謂取扱中ノ意義……………一〇七
- 開示ヲ求ムルコト能ハサルノ意義……………一〇七
- 開披權ノ濫用ト郵便法第五十二條……………一〇八
- 第二十三條 ○郵便法第二十三條一項違反行爲ノ判示……………一〇八
- 第四十三條 ○郵便法第二十三條一項違反行爲ノ判示……………一〇八
- 第五十二條 ○開披權ノ濫用ト郵便法第五十二條……………一〇九

●郵便貯金法

- 第五條 ○制限超過郵便貯金通帳ノ虚偽記入ト虚偽公文書作成行使罪……………一〇九

●貯蓄銀行法

第一條



○定期積金ヲ定期預金ト表示セル差押命令  
ハ後日更正決定アルモ無効ナリ……………二〇

### ●電氣事業法

#### 第七條

○電氣事業法ノ工事着手ノ通知ト地方長官  
ノ許可ノ效力……………二〇

○地方長官ノ許可ニ因ル電線路ノ變更ト主  
務大臣ノ認可ヲ求ムルノ要否……………二二

#### 第十條

○電氣事業法ノ工事着手ノ通知ト地方長官  
ノ許可ノ效力……………二二

#### 第十二條

○小作地上ニ不法ナル高壓線架設ノ爲メ脅  
威ヲ受クヘキ者ト慰藉料請求權者……………二三

#### 第十五條

○需要ノ供給申込ト電氣事業者ノ承諾義  
務……………二三

#### 第三十四條

○電氣事業者ノ承諾ヲ得サル電氣工作物ノ  
施設變更……………二四

### ●電氣事業法施行規則

#### 第十八條

○地方長官ノ許可ニ因ル電線路ノ變更ト主  
務大臣ノ認可ヲ求ムルノ要否……………二五

#### 第六十條

○電氣事業者ノ電力供給ノ限度……………二六

### ●自動車交通事業法

#### 第四十條

○自動車交通事業抵當目的物ノ意義……………二七

### ●自動車取締令

○自動車取締令潜脱ノ契約ト公序良俗……………二七

### ●煙草專賣法

#### 第四十一條

○密輸入煙草ノ價格算定方法……………二八

### ●銀行法

#### 第二十五條

○主務大臣ノ認可ヲ經サル銀行解散ノ決議  
及清算人選任行爲ノ效力……………二八

### ●取引所法

○總解合ハ委託者ノ承諾ヲ必要トセス……………二九

#### 第三十二條ノ五

○取引所法ニ所謂差金ノ授受ヲ目的トスル  
行爲ノ意義……………三〇

○取引所外ニ於テ爲ス差金取引ニ依ル常習  
賭博……………三〇

#### 第三十二條ノ七

○取引所外ニ於テ爲ス差金取引ニ依ル常習  
賭博ト法人ノ理事ノ處罰……………三〇

### ●度量衡法

#### 第八條

諸法目次

○修履桿使用罪ト計量影響ノ要否……………三〇

#### 第八條ノ二

○修履桿使用罪ト計量影響ノ要否……………三三

### ●阿片法

#### 第三條

○阿片法三條ノ阿片ト生阿片……………三三

### ●共通法

#### 第一條

○即決處分ノ共助……………三三

#### 第九條

○臺灣ニ支店ヲ有セサル會社ニ對スル訴ト  
臺灣ニ於ケル裁判管轄……………三三

#### 第十八條

○即決處分ノ共助……………三三

### ●信託業法

#### 第二十條

○信託業法二〇條違反ト犯意……………三四



●救護法

第二十七條 ○救護費ノ償還請求ト國稅滯納處分……………二二四

●傳染病豫防法

第三十條 ○傳染病患者ヲ診斷シタルトキノ醫師ノ處置……………二二五

●紹介營業取締規則

(昭和元年警視廳令第四號)

第一條 ○紹介營業取締規則ニ依リ警察官署ノ認可ヲ受ケタル者ノ醜酒屋雇女紹介行爲ノ適否……………二二六  
○紹介營業取締規則ニ所謂「之ニ類スル者」ノ意義(ノキニ榮光あれ)……………二二七

○藝娼妓酌婦ノ紹介營業許可ヲ受ケタル者ノ醜酒屋雇女紹介行爲ノ適否……………二二七

●鑛業警察規則

第十四條 ○坑内保安係ノ過失犯ト豫見ノ程度……………二二九  
○坑内保安係ノ過失ト其責任……………二三〇

●小學校令

第四十四條 ○市視學ノ職務行爲ト府縣知事ノ職權……………二三一  
第四十八條 ○市視學ノ職務行爲ト府縣知事ノ職權……………二三三

●無盡業法

第八條 ○無盡會社ノ増資……………二三三

○無盡契約ト掛金前拂ノ效力……………二三三

第十一條 ○無盡會社取締役ノ責任ノ範圍……………二三三

○破産宣告ト所謂會社財産ヲ以テ債務ヲ完済シ得サル場合……………二三三

○就任前ノ無盡債務ニ關スル取締役ノ責任……………二三三

○和議ト無盡會社取締役ノ責任……………二三三

第十二條 ○舊無盡業法ニ所謂社員及使用人ト現行ノ代理店主……………二三三

第十三條 ○無盡給付金ノ一部ヲ掛込債務ノ擔保トスル寄託契約ノ無効……………二三三

○業務執行者ノ一人ニ對スル無盡金請求……………二三三

●海上衝突豫防法

第十五條 ○信號及減速ノ懈怠其ノ他過失ニ基ク雨中船舶衝突ノ責任分擔(橫濱丸印度丸衝突上告事件)……………二二六

第十六條 ○橫濱丸印度丸衝突事件(二審判決)……………二四〇

○信號及減速ノ懈怠其ノ他過失ニ基ク雨中船舶衝突ノ責任分擔……………二四二

○突如近距離ニ他船ヲ發見セル場合ノ處置……………二四二

第十八條 ○東京港附近ニ於ケル海上衝突ト臨機ノ處置ヲ爲シ得ヘキ場合……………二四二

第十九條 ○他船燈火再認ノ際ニ於ケル鉞路及速力ノ保持……………二四二

○突如近距離ニ他船ヲ發見セル場合ノ處置……………二四二

第二十條 ○驟風雨中ヲ航行スル船舶ト前面展望……………二四二

第二十一條 ○他船燈火再認ノ際ニ於ケル鉞路及速力ノ保持……………二四二

第二十五條 ○業務上過失船舶破壞罪ト入港船ノ注意義務……………二四四

第二十七條 ○東京港附近ニ於ケル海上衝突ト臨機ノ處置……………二四四



置ヲ爲シ得ヘキ場合……………一四

●東京港取締規則

○東京港附近ニ於ケル海上衝突ト臨機ノ處置ヲ爲シ得ヘキ場合……………一四

●機船底曳網漁業取締規則

第十八條 ○船舶讓渡ト機船底曳網漁業權ノ失效……………一四

●舊機船底曳網漁業取締規則

第十八條 ○追徴スヘキ漁獲物ノ價額……………一四

●開港々則施行規則

第十條 ○業務上過失船舶破壊罪ト入港船ノ注意義務……………一五

●道路法

第十七條

第二十條

第三十二條

○府縣道橋梁ノ瑕疵ニヨル損害ト責任者……………一五

第三十三條

○府縣道保存ノ瑕疵ニ因ル損害ト責任者……………一五

●道路取締令

第二十五條

○幼兒ノ保護ト過失致死……………一五

第二十七條

○幼兒ノ保護ト過失致死……………一五

●蠶絲業法施行規則

第三十二條

○蠶種賣買ヲ業トセサル者ト蠶絲業法施行規則第三十二條……………一五

●東京府市部府稅賦課規則

第十七條

○東京府稅家屋稅ノ賦課ト公益ノ用ニ供スル家屋……………一五

●保管金規則 (明治二十三年一月七日法律第一號)

第四條

○府縣道工事請負契約ニ於ケル入札保證金ト保管金規則……………一五

●牧野組合登記取扱手續

第四十四條

○牧野組合清算結了ト登記用紙閉鎖ノ當否……………一五

●外國旅券規則

第一條

○外國旅券不實記載罪ト申告ノ相手方……………一五

●復權令 (勅令昭和九年第二〇號)

第一條

○舊刑訴ノ缺席判決ト免除……………一五

○刑ノ言渡確定前公訴時効ノ完成シタル者ニ對スル復權令適用ノ當否……………一五

●狩獵法

第十一條

○狩獵法ニ所謂捕獲ノ意義……………一五

●競馬法

第十四條

○競馬法ニ於ケル「業」トシテ爲シタル者ト犯罪ノ態樣及業トシテ爲ササル競馬賭博ト身分的共犯……………一七



● 關稅法

- 第七十五條 ○關稅法ニ所謂犯罪者ト沒收ノ言渡……………一五六
- 虛偽仕入書ニ依ル關稅通脫行爲……………一五六
- 麻藥密輸入行爲ト關稅通脫行爲……………一五九
- 第八十三條 ○關稅法違反ニ關スル通徵價額ト共犯者ノ連帶責任……………一六九
- 沒收スヘキ貨物ノ價額算定ノ標準……………一六〇
- 關稅法ニ所謂犯罪者ト沒收ノ言渡……………一六〇

● 恩給法

- 恩給支給權停止後ノ恩給受領委任契約……………一六〇
- 第十一條 ○恩給受領ニ關スル委任契約ノ效力……………一六一
- 死亡者ノ生存中受クヘキ恩給ト遺族債權者ノ差押……………一六一

● 舊軍人恩給法

第九條

- 公務ニ依ル疾病ノ意義(哀れ西伯利亞出兵の勇士)……………一六二

● 國稅徵收法

- 第十八條 ○國稅徵收法ニヨル差押物件ノ讓渡……………一六四
- 第二十四條 ○著シク廉價ナル公賣ト權利侵害……………一六五

● 印紙稅法

- 第一條 ○請負業者ノ入札保證金ト印紙貼用……………一六六
- 登記申請ニ添付スヘキ印紙ノ貼付……………一六六
- 第五條 ○産業獎勵貸金辨濟受領證ト印紙不用……………一六七
- 縣道工事請負入札保證金還付領收證ト印紙ノ貼用……………一六七
- 土木請負業者ノ入札保證金還付行爲ト營業ニ關セサル受取書……………一六七

● 登録稅法

- 第二條 ○持分ニ應セサル共有土地ノ協議分割ト登録稅……………一六九
- 會社ノ合併ト數個ノ抵當權移轉ノ附記登記……………一七〇
- 信託中ノ抵當權消滅ノ場合ニ於ケル登記抹消ト登録稅……………一七〇
- 第三條ノ七 ○登録稅報告表作成方法……………一七〇
- 第六條 ○登録稅報告表作成方法……………一七〇
- 第十九條 ○行政廳ノ取得シタル抵當權登記ト登録稅……………一七二
- 町村ノ爲ス細羊種畜敷地買收ノ登録ノ要否……………一七二
- 町村ノ一部ノ既存財産收益タル金錢ヲ以テスル不動産購入ト免稅……………一七二
- 負債整理事業資金貸付ノ爲メニスル登記ト登録稅免除……………一七二

● 地方稅ニ關スル法律

- 第二十三條 ○戶數割ノ賦課ト町村稅……………一七三
- 第二十五條 ○資産狀況ニヨル資力算定ヲ爲ササル違法ト過重課稅……………一七三
- 同族會社代表者ト代表者ニ非サル者ニ對スル戶數割資力算定方法トヲ異ニスル規定ノ適否……………一七四
- 恩給ト戶數割賦課……………一七四
- 戶數割ニ關スル漫然タル資力算定方法ノ不當……………一七五

● 地方稅ニ關スル法律

施行規則

- 第四條 ○船舶ノ主タル碇繫場ト地方稅……………一七五
- 船舶ノ主タル碇繫場所在地ニ付關係府縣ニ異議アル場合管掌大臣ノ決定前船稅ヲ……………一七五



賦課スル失當 ..... 一七六

**第二十條**  
 ○營業ニ非サル貸金利子ノ前年中ノ收入金額ノ意義 ..... 一七七

○非營業貸金利子ノ前年中ノ收入金額ニ戶數割ヲ賦課スル場合 ..... 一七七

○出資額ニ組入ルル爲現實ニ收受セサル配當金ト地方税ニ所謂所得 ..... 一七九

●所得税法

**第四條**  
 ○株式買入消却ニヨル超過拂戻金ヲ所得税法ノ總損金トスルノ當否 ..... 一七九

**第二十一條ノ二**  
 ○同族會社ノ留保金ト加算税額決定ノ當否 ..... 一八二

●有價證券割賦販賣業法

第一條

○一時又ハ數回ニ分割納入セシムル約款ト有價證券割賦販賣業法ノ適用 ..... 一八二

●開墾助成法施行規則

第三條

○開墾助成金請求權發生時期及差押ノ效力 ..... 一八四

●地方鐵道法

第三十七條

○鐵道敷設免許區間ノ廢止變更ト主務官廳ノ許可 ..... 一八九

●地方鐵道補助法

第一條

○地鐵道補助金交付請求權ノ性質及差押ノ許可 ..... 一九一

●大正九年法律第五十二號

○朝鮮臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル件

第一條

○大正九年法律第五二號違反ノ罪ト沒收 ..... 一九三

●明治二十三年法律第八

十四號 (命令ノ條項違反ニ關スル罰則ノ件)

○法律ト勅令

一九三

●明治二十三年勅令第二

百八號 (閣令省令廳令及警察令ニ關スル罰則ノ件)

第一條

法律ト勅令 ..... 一九四

●公有水面埋立法

第十三條

諸法目次

○公有水面埋立法ニ所謂工事着手ノ意義 ..... 一九五

●社寺保管林規則

第一條

○社寺ノ森林保管ト上地 ..... 一九五

●明治十七年十月四日

太政官達第八十二號

○太政官達ト縣令

一九六

●家祿賞典祿處分法施行法

第一條

○舊祿原藩ニ於テ前後ニ定メタル祿高制度 ..... 一九七

●北海道農產物検査所規程

第五條

○北海道農林技手ノ澱粉實査權存在ノ根據 ..... 一九九



●農産物検査執行員服務心得

第三十條

○北海道農林技手ノ澱粉實査權存在ノ根據……………二〇〇

●軌道法

第五條

○軌道布設ノ特許ヲ得タル會社發起人ト工事施行認可申請權者……………二〇〇

●軌道法施行規則

第七條

○軌道敷設ノ特許ヲ得タル會社發起人ト工事施行認可申請權者……………二〇二

●地方鐵道建設規程

第二十一條

○地方鐵道ノ踏切道ト保安設備……………二〇二

●佐賀縣令(穀物検査規則)

第三十二條

○未完成公務所ノ記録用紙使用ト記號不正使用罪及擬律錯誤……………二〇六

●高知縣令漁業取締規則

第十八條

○專用漁業區域ト海岸線ノ變更ニ依ル影響……………二〇七

●鹿兒島縣令

第四條

○鹿兒島縣ニ於ケル家屋稅ト賃賃價格算定方法……………二〇八

●島根縣令木炭検査規則

第一條

○自家用木炭製造ト島根縣令木炭検査規則

●酌人及酌人置屋營業取締規則(滋賀縣令)

規則(滋賀縣令)

○滋賀縣令昭和二年第二七號違反ト時効起算點……………二〇三

●原動機規則(滋賀縣令)

第二條

○滋賀縣令原動機規則違反ト時効起算點……………二〇四

●牛乳營業取締規則施行細則(滋賀縣令)

第三條

○滋賀縣令昭和九年第三〇號違反ト時効起算點……………二〇五

●奈良縣稅條例

第十六條

○縣稅遊興稅徵收ト被徵收者ノ横領罪成否……………二〇五

違反……………二〇〇

●兵庫縣令鑛泉地區取締規則

第三條

○兵庫縣令鑛泉地區取締規則第三條第二項ノ法意……………二二二

○鑛泉地區取締規則施行前ヨリ存スル鑛泉ト同附則第八條第二項ノ法意……………二二四

●兵庫縣令鑛泉地區取締規則附則

第八條

○鑛泉地區取締規則施行前ヨリ存スル鑛泉ト同附則第八條第二項ノ法意……………二二四

●富山縣令募集金品取締規則

第一條

○富山縣令募集金品取締規則ニ所謂家宅ノ意義……………二二七



●石油試掘獎勵金交付規則

第八條

○石油試掘獎勵金交付請求權ハ讓渡、差押ヲ許サス……………三二八

●日蓮宗則第十二號附則

第三十一條

○檀家總代ノ寺有財産橫領行爲……………三三二

●樺太國有未開地特別處分令

○未開地貸付許可指定書ト財物騙取……………三三二

●保險業法

第五條

○普通保險約款ニ依ル意思ノ推定……………三二九  
○普通保險約款ト形式的例文又ハ公序良俗ニ反スル無効ノ條項……………三三〇  
○普通保險約款ニ反スル慣習ニ從フ特約……………三三〇

●地租法

第十六條

○土地臺帳ノ登録抹消ト實體法上ノ權利……………三三三

●對獨平和條約及附屬議定書

○平和條約二九八條附屬議定書ニ所謂「戰時非常措置」(アンガウル島燐礦事件)……………三三二  
○日獨繫争事件平和解決ニ關スル協約ノ效力……………三三三

●山東懸案解決ニ關スル條約

○山東ニ於ケル鹽業財産買取ニ關スル法律關係ノ内容並ニ其ノ法的性質……………三三三

諸法目次終

諸法

憲法

第五十九條

裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

●公開停止決定ト公判手續更新後ノ效力

裁判所カ對審ノ公開ヲ停止シタル決定ヘ裁判所カ該決定ヲ解キ再ヒ其ノ審理ヲ公開スルニ至ルマテ其ノ效力ヲ有スルモノニシテ縱令其ノ後公開停止ノ儘數回開廷スル場合ト雖各其ノ公判ニ於テ更ニ公開停止ノ決定ヲ言渡スノ要ナク又縱令引續キ十五日以上開廷セザリシカ爲審理ヲ更新スル場合ト雖之カ爲右決定ハ當然消滅スヘキモノニ非ス從テ一旦公開停止ノ決定アリタル以上ハ其ノ後ノ公判ニ於テ該決定ヲ解ク旨ノ決定ノ言渡ナキ限り該公判ハ公開停止ノ儘開廷セラレタルモノナルコト自ラ明ナリ (大審院三刑、一〇年(れ)一八〇號、業務上過失致死被告事件、一〇年四月一五日決定、法律新聞三八六二號一三頁)

●裁判書ト公開ノ原則及引用證據ノ種類及内容判示ノ要否 (刑訴第三六〇條同項參照)



### 衆議院議員選舉法

第十二條 市町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ一年以上其ノ市町村内ニ住居ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ(第一項抄)

#### ●衆議院議員選舉法ニ所謂住居ヲ有スル者ノ意義

抑衆議院議員選舉法第十二條ニ所謂住居ハ一人ノ生活ノ本據ト認メ得ヘキ客觀的事實ノ存否ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニシテ本人ノ意思如何ヲ標準トスヘキモノニ非ス固ヨリ寄留届ノ如キ形式上ノ手續ノ有無ニ依リテ之ヲ決スヘキモノニ非スト解スヘキモノトス (神地姫支、八年(ア)一六三號、選舉人名簿異議申立決定ニ對スル不服ノ訴、九年五月二二日判決、法律新聞三八八九號五頁)

第十三條 市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ(第一項抄)

#### ●一般休日等ニ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供シタル場合ト期間ノ計算

選舉人名簿縦覽期間中ニ祭日其ノ他一般ノ休日タル場合ハ勿論其ノ滿了カ一般ノ休日ニ該ル場合ト雖モ名簿ハ之ヲ縦覽ニ供シ期間延長セラルルコトナシ (法曹會 九年一月一六日決議、雜誌一三卷一號一二九頁)

第九十八條 何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス(第二項抄)

#### ●投票依頼ノ爲連續シタル個々面接ノ選舉運動

個別的ニ應接スル意圖ヲ以テ各個ニ認識シタル特定多數ノ選舉人ヲ集合セシメ其ノ席上ニ於テ一同ニ對シ投票ノ依頼ヲ爲ス行爲ハ衆議院議員選舉法第九十八條第二項所定ノ連續シタル個々面接ノ選舉運動ニ該當スルモノト解スヘキコト既ニ本院判例(昭和九年(レ)第六八二號同年十月八日第一刑事部判決參照)ノ示ストコロナリ (大審院三刑、一〇年(レ)九一二號、市會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年一〇月五日判決、法律新聞三八九九號七頁)

#### ●選舉運動ヲ依頼スル爲メノ個々面接行爲ト擬律錯誤

選舉人ニ個々面接スルモ其ノ者ヨリ投票ヲ得ルノ目的ニ出テス單ニ選舉運動ヲ依頼シタルニ止ルトキハ衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂個々面接ニ該當セサルコトニ付テ既ニ本院判例ハ存スルモノナルコト洵ニ所論ノ如クナリ、而シテ原判決力證據ニ依リテ認定シタル判示第二ノ二事實ハ被告人留吉ハ議員候補者竹次郎ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和八年六月二十五日右竹次郎方ニ於テ渡邊庄之助外數名ノ選舉人ニ對シ右候補者ノ爲宜シク御盡力ヲ願フ旨申向ケテ投票獲得方ヲ依頼シテ個々面接ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ右被告人留吉ノ行爲ハ犯罪ヲ構成セサルモノト謂ハサルヘカラス、然ルニ原判決力之ヲ町村制第三十六條ノ二衆議院議員選舉法第九十八條第二項町村制第三十七條衆議院議員選舉法第二百二十九條ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノナリ (大審院三刑、九年(レ)六三〇號、町會議員選舉罰則違反被告事件、九年七月一四日判決、大審院裁判例八卷刑事事五一頁)

第一百十二條 左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(抄)



- 一 當選ヲ得若ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ饗應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

●饗應ノ意義

衆議院議員選舉法第百十二條ニ所謂饗應トハ同條所定ノ目的ヲ以テ報酬謝禮ノ趣旨ニテ選舉人又ハ選舉運動者ニ酒食ヲ供與シ之カ歡心ヲ博セントスルコトヲ指稱スルモノニシテ膳羞ノ豊菲價格ノ多寡ノ如キハ固ヨリ問フ所ニ非ス、蓋輕少ナル價格ノ酒食ト雖之カ供與ヲ受クル者ニ在リテハ人情ノ弱點ニ魅セラレ選舉ニ關シ自由公平ノ判斷ヲ誤ルコトナシトセス又之ヲ供與スル者ニ在リテモ叙上ノ機微ヲ捕捉シテ選舉人又ハ選舉運動者ヲ誘惑スル虞ナシトセス選舉法カ右兩所爲ヲ處罰スルハ畢竟其ノ趣旨ニ外ナラス (大審院四刑、九年(れ)一四八一號、村會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年二月一日判決、法律新聞三八三三號一六頁)

●金錢供與及饗應ト適用法條

被告ハ昭和九年五月十五日施行セラレタル海南市々會議員選舉ニ際シ立候補シタル山下条吉ノ爲選舉運動ヲ爲シ居リタルモノナル處其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ第一(一)清水房吉ト共謀シテ同年四月十七日海南市船尾立谷德松方ニ於テ選舉人岸正次外十數名ニ對シ条吉ニ投票セラ

レ度キ旨ヲ依頼シ一人約一圓二十錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ(二)宮本仙助ト共謀シテ同年五月七日同市船尾宮本仙助方ニ於テ選舉人野上福松外九名ニ對シ条吉ニ投票セラレ度キ旨ヲ依頼シ一人約金一圓ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ第二、山下条吉及岨野德三郎ト共謀ノ上同年五月六日頃選舉運動者ナル同市船尾松谷甚三郎方ニ於テ同人外五名ニ對スル選舉運動報酬トシテ金百圓ヲ右甚三郎ニ供與シタルモノニシテ被告ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

(證據略) 法律ニ照スニ被告ノ判示所爲ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一號刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ罰金刑ヲ選擇シ罰金二百圓ニ處シ同第十八條ニ依リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ百日間勞役場ニ留置スヘキモノトス(大審院一刑、九年(れ)一一二〇號、市會議員選舉罰則違反被告事件、九年一二二〇日判決、大審院裁判例八卷刑事七七頁)

●將來選舉運動ヲ爲サシムル爲ノ報酬ト適用法條

原判示第一ノ一ノ甲ノ犯罪事實ハ自己ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テ將來選舉運動ヲ爲サシムル爲豫メ報酬タルヘキ金員ヲ與ヘタル場合ナリ而シテ既ニ選舉運動ヲ爲シタルコトニ對シ報酬ヲ與フル場合ハ衆議院議員選舉法第百十二條第三號ニ該當スルモ右判示事實ノ如キ場合ハ同第一號ノミニ當リ同第三號ニ該當スルモノニ非サルコト勿論ナルカ故ニ此ノ事實ニ對シ同第一號ノミヲ適用セル原判決ノ擬律ハ正當ナリ (大審院一刑、九年(れ)一六五〇號、市會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年三月一八日判決、法律新聞三八四八號一二頁)

●法定選舉運動者ニ非サル者ノ金錢供與申込ノ承諾ト適用法條

法定ノ選舉運動者ニ非サル者ト雖衆議院議員選舉法第百十二條第一號所定ノ目的ヲ以テスル金錢供與ノ申込ヲ受ケ之ヲ承諾シタルニ於テハ同條第四號ノ罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ同條第



一號ニ所謂選舉運動者中ニハ選舉ヲ有セサルカ爲法定ノ選舉運動者ニ非サル者若ハ選舉運動ヲ爲サンコトノ請託ヲ受ケテ而モ未タ現實ニ選舉運動ヲ爲サル者ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トスルノミナラス右供與申込承諾ノ結果選舉ノ實際運動ニ從事スルト否トハ右犯罪ノ成立ニ何等ノ消長ヲ來スモノニ非ス (大審院四刑、一〇年(れ)七二六號、縣會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年七月三〇日判決、法律新聞三八八四號一三頁)

●所謂選舉運動者ノ意義

衆議院議員選舉法第十二條第一條ノ罪ノ成立スルカ爲ニハ其ノ相手方カ選舉人又ハ選舉運動者タルコトヲ必要トスト雖法ニ所謂選舉運動者トハ法定ノ合法ナル運動者ニ限定スヘキニ非サルハ勿論行爲當時現ニ選舉運動ニ從事セルモノタルコトヲ必要トセサルノミナラス選舉運動ヲ爲スヘキコトノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シタルコトヲ必要トセサルモノト解スヘキカ故ニ何人ト雖苟モ選舉ニ關シ特定ノ議員候補者ノ爲其ノ當選ヲ得又ハ得シメ若ハ得シメサルノ目的ヲ以テ他人ニ對シ選舉人ノ投票ノ買収方ヲ依頼スルニ於テハ其ノ相手方ハ不法ナル選舉運動ヲ爲スヘキコトノ依頼ヲ受ケタル者ニシテ即チ法ニ所謂選舉運動者ナリト云ハサルヘカラス (大審院三刑、一〇年(れ)八二二號、業務上橫領被告事件、一〇年九月一四日判決、法律新聞三八九六號九頁)

●選舉人誘導罪ノ成立要件

衆議院議員選舉法第十二條第二號ノ誘導罪ハ同條所定ノ特殊直接利害關係ヲ利用シテ選舉人等ヲ誘導スヘキ行爲ヲ爲スニヨリテ成立シ相手方カ其ノ誘導ニ應シタルト否トハ誘導罪ノ成立ニ影響ナキモノトス (大審院一刑、九年(れ)一五五九號、市會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年三月一八日判決、法律新聞三八四八號一四頁)

●子弟ノ失職ニ備ヘ就職斡旋ノ承諾ト特殊ノ直接利害關係

被告人庄八郎ハ自己ニ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人諸山藤五郎ニ對シ若シ久義(藤五郎ノ實子)カ誠首セララルトキハ自分ニ於テ現在ヨリ有利ナル地位ニ就職シ得ル様斡旋シ遣ルニ付自分ノ爲選舉運動ヲ爲シ吳レ度キ旨依頼シタルモノナリト云フニ在リテ實子ノ失職スルヤ否ヤ失職スルモ現在ヨリ有利ナル地位ニ就職シ得ルコトハ本人ニ對シテ勿論其ノ實父ニ對シテモ直接利害關係アル事項ト云フヲ得ヘキカ故ニ右事實ハ衆議院議員選舉法第十二條第二號ニ所謂特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタルモノニ該當スルコト明瞭ナリ (大審院一刑、九年(れ)一五五九號、市會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年三月一八日判決、法律新聞三八四八號一四頁)

第十四條

前二條ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

●選舉ニ關シ數人共同シテ利益ヲ受ケタル場合ノ追徵

市會議員ノ選舉ニ際シ選舉人又ハ法定ノ選舉運動者ニ非サル者カ候補者ニ於テ當選ヲ得ル目的ヲ以テ金錢ヲ供與スルモノナルノ情ヲ知リナカラ數人共同シテ該供與ヲ受ケタル場合ニ於テモ之カ追徵ハ共犯者各自ノ分配額ニ從ヒテ行フヲ適當ナリトス、然レトモ其ノ分配額明ナラサル場合ニ於テハ共同シテ供與ヲ受ケタル金錢ハ共犯者ノ共有ニ屬シ各自ノ分配額ハ平等ナリト認ムルコト社會通念上當然ノ判斷ニ屬スルヲ以テ追徵ノ場合ニ於テモ亦固ヨリ此ノ額ヲ基本トシテ其ノ追徵額ヲ定ムヘキモノトス (大審院四刑、九年(れ)一四五七號、市會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年一月二九日判決、法律新聞三八三二號七頁)

●選舉運動費並ニ報酬ノ不可分の供與ト全額追徵ノ當否



選舉運動費ト選舉運動ノ報酬トカ分別シテ供與セラレ而カモ其ノ費用ノ殘金カ返還セラレタル場合ニ於テ之ヲ追徴スヘカラサルヤ勿論ナリト雖モ選舉運動費ト選舉報酬トカ不可分のニ供與セラレタル場合ニ於テハ其ノ供與金全部カ違法性ヲ帶フルモノト解スヘク隨ツテ其ノ金員中ヨリ若干返還セラレタルモノアリタルトキト雖モ之ヲ追徴シテ何等妨アルコトナシ、然リ而シテ衆議院議員選舉法第十四條ニ所謂收受シタル利益ハ刑法賄賂罪ニ於ケル賄賂ト其ノ性質ヲ異ニスルモノニ非サルヲ以テ其ノ返還セラレタル場合ニ其ノ返還ヲ受ケタル者ヨリ利益ヲ沒收シ得ヘク若シ沒收不能ノ場合ニ其ノ價額ヲ追徴シ得ヘキコトハ論ヲ俟タス (大審院三判、一〇年(れ)一〇號、市會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年五月八日判決、法律新聞三八四二號一七頁)

第一百十五條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

二 交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキ(第二號抄)

●偽計詐術ニ依ル選舉自由ノ妨害ト目的ノ要否

衆議院議員選舉法第十五條第二號ハ同條第一號及第三號ノ場合ト異ナリ其ノ選舉人議員候補者議員候補者タラムトスル者選舉運動者又ハ當選人ニ對スルト否トヲ問ハス苟モ選舉ニ關シ交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選舉ノ自由ヲ妨害スルニ於テハ投票ヲ得ルノ目的ノ有無議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムルノ目的ニ出テタルト否等總テ其ノ目的ノ如何ニ拘ラス之ヲ處罰スルノ趣旨ニシテ所論ノ如ク叙上特記ノ者ヲ除外シタル不特定人ヲ對象トシタル犯行ニ係ルモノニ止マルモノニ非

ス又同法第十三條第一號ハ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル等ノ目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者等ニ對シ金錢其ノ他ノ利益ノ供與ヲ爲ス等同法第十二條第一號又ハ第二號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者又同法第十三條第二號ハ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト等ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タリシ者議員候補者タラムトシタル者等ニ對シ金錢其ノ他ノ利益ノ供與ヲ爲ス等同法第十二條第一號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ヲ各處罰スルノ趣旨ナルヲ以テ右第二百一十條第一號又ハ同第二號ニ掲グル行爲以外ノ行爲タル偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシメ選舉ノ自由ヲ妨害スルニ於テハ該行爲カ前掲法第十五條第二號ノ罰則ニ觸ルルコトハ何等妨ケアルコトナク同條ト前掲法第十三條第一號第二號トハ互ニ抵觸スルコトナシ (大審院四判、一〇年(れ)七二四號、縣會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年七月二六日判決、法律新聞三九〇三號一三頁)

第二百二十七條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス(第四項抄)

●町會議員選舉ニ於ケル投票ノ減少及偽造行爲ト包括罪

原判決ノ證據ニ依リテ認定シタル事實ニ依レハ昭和八年十月一日施行ノ德島縣海部郡日和佐町會議員選舉ニ際シ町長タル被告人ハ選舉長トシテ開票場ニ臨ミ最初ニ投票ヲ點檢スヘキ地位ニ在ルヲ奇貨トシ自派候補者ニ對スル投票ヲ偽造シ又ハ減少ヲ爲シ以テ自派議員ノ絶對多數ヲ獲得センコトヲ企テ原判示ノ如ク投票用紙百五十枚ニ自派候補者野口金藏等ノ氏名ヲ記載シ置キ同年十月一日開票ニ際シ選舉長トシテ投票點檢中同日午後七時ヨリ同十一時頃迄ノ間ニ原判示



反對候補者等ニ對スル既存ノ投票百五十枚ヲ取去リテ之ヲ減少シ且前ニ作成シ置キタル同數ノ投票紙ヲ投票中ニ差入レ以テ同投票ノ偽造ヲ遂ケタルコト明白ニシテ右ノ如キ場合ニ於ケル投票ノ減少及偽造行為ハ畢竟正當ナル既存投票ノ計算ニ影響ヲ及ボシ選舉ノ公正ヲ侵害スル點ニ於テ同一ノ價值ヲ有スルモノニシテ同一ノ意思ノ發動ニ出ツルモノナルトキハ包括的ニ一罪ヲ構成スルモノト解スルヲ相當トスヘク從テ之ヲ擬律ヲ爲スニ當リテハ單ニ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第二百二十七條第四項ヲ適用スルヲ以テ足レリトシ刑法第五十五條ヲ適用スルノ限ニ在ラス (大審院一刑、九年(れ)一六〇三號、町會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年四月二日判決、法律新聞三八六一號一〇頁)

第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

●連續シタル個々面接及戸別訪問ト罰條  
個々面接ノ行為ト戸別訪問ノ行為トハ均シク選舉ノ自由公正テフ單一ナル公共的利益ヲ侵害スル同一性質ノ犯罪ニシテ同一法條ニ規定セラレ只其ノ行為ノ態様ヲ異ニスルニ過キササルヲ以テ連續シテ個々面接ノ行為ト戸別訪問ノ行為ト併セ爲シタル場合ニ於テハ單ニ衆議院議員選舉法第九十八條ノ規定ヲ包括的ニ適用シ該規定ニ違反スルモノトシテ同法第二百二十九條ニ依リテ處斷スルヲ以テ足り各行爲ニ付一々同法第九十八條ノ第一項ト第二項トヲ區別シテ其ノ法ノ適用ヲ示ス要アルモノニ非ス (大審院二刑、一〇年(れ)二四四號、村會議員選舉罰則違反被告事件、一〇年五月二日判決、法律新聞三八六四號七頁)

## 會計法

●會計法規違反ノ法律行為ノ效力 (民法法律行為ノ章同項參看)

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ  
●會計法三三條「他ノ法律」ニハ公法及私法ヲ包括ス (民法一七三條「民法一七三條一號短期時效」ノ法意「參看」)

## 會計規則

第二十八條 歳入徴收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得  
歳入徴收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徴收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得  
●健康保險出張所長ト不動産登記法ニ所謂官廳

〔照會〕 今回警視廳官制及地方官官制中改正セラレ警視廳及府縣ノ健康保險出張所長ヲ設置セラルルコトト相成候處是等健康保險出張所長ハ會計規則第二十八條ノ規定ニ依リ内務大臣ヨリ歳入徴收官ト定メラレ健康保險特別會計ニ關スル歳入金ノ徴收事務ヲ掌リ滯納處分其ノ他徴收



上ノ手續ハ總テ其ノ權限トシテ執行スルコト、相成候ニ付テハ當該健康保險出張所長ハ不動産登記法第二十八條ノ二、第二十九條等ニ所謂官廳トシテ夫々其ノ職務ヲ執行スルコトヲ要スル義ト被存候ヘ共爲念及照會候  
〔回答〕 右ハ貴見ノ通り思考致候此段及回答候也 (社會局長照會、一〇年五月一日民事局長回答  
法曹會雜誌、一三卷六號一一四頁)

## 議院法

### 第十九條(抄)

各議院ノ議長ハ歳費トシテ七千五百圓副議長ハ四千五百圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ三千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ケ但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得

### ●代議士ノ歳費ニ對スル差押

衆議院議員カ國庫ニ對シテ有スル歳費請求權ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスルモノニ外ナラサルヲ以テ性質上可分ノ權利ニ屬スルコト疑ナシ然レハ其全部ヲ差押フルト一部ヲ差押フルトハ一ニ差押債權者ノ自由ニ在ルコト明白ナルト同時ニ其一部ノミニ局限シテ爲サレタル差押力其效力ヲ請求權ノ全部ニ及ホスヘキ理由アルコトナシ (大審院四民、九年(オ)一五七〇號、不當利得返還請求事件、一〇年二月二七日判決、法律新聞三八二〇號五頁)

## 法例

### 第一條

法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス(第一項抄)

### ●所謂公布ノ日ノ意義

法例第一條ニ所謂「公布ノ日」トハ官報掲載ノ日ヲ謂フモノニシテ公布セシメラレタル日附ヲ謂フモノニ非ス (一〇年五月二二日書記長監督書記及本省屬事務打合會ニ於ケル刑事局ノ解釋法曹會雜誌一三卷六號一一六頁)

### ●所謂公布ノ日ヨリノ意義

法例第一條ニ所謂「公布ノ日ヨリ起算シ」トアルハ公布ノ即日ヨリ計算スルノ意ニシテ改正刑事訴訟法第百十三條ノ效力ハ官報ニ掲載セラレタル本月十三日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經過シタル翌日即チ六月二日ヨリ其ノ效力ヲ發生スルモノト解ス (一〇五二三刑事局長解、雜誌一三卷六號一一六頁)

### 第十六條

離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

### ●英國人ノ離婚訴訟ト準據法

甲第一號證(倫敦ソマセツト、ハウス總登記所ノ認證アル婚姻登記證書謄本)並被告人訊問ノ結果ニ依レハ原被告ハ共ニ英國臣民ニシテ其英國ニ在住中倫敦ハムステッドニ於テ法律ニ從ヒ



適法ナル婚姻ヲ爲シタルモノナルコト明カニシテ右婚姻ハ日本ニ於テモ其效力ヲ認ムヘキモノナルトコロ原告ハ事實摘示ノ部ニ記載シタル事由ヲ原因トシテ被告トノ離婚判決ヲ請求スルニ付按スルニ法例第十六條本文ハ斯ル事項ニ付テハ其原因タル事實ノ發生シタル當時ニ於ケル夫ハ本國法ニ依ルヘキコトヲ規定シ從テ本件ニ在リテハ被告ノ本國法即チ英國ノ法律ニ依リテ前記原告主張ノ事由カ本件離婚ノ原因トナルヤ否ヤヲ判定スヘキモノナルトコロ英國ノ法律ニ依レハ斯ル事項ニ付テハ專ラ訴訟提起當時ニ於テ夫カドミサイル (boni et mali) 今之ヲ住所ト譯ス) ヲ有スル地ノ法律ニ依ルヘキモノニシテ而シテ英國ノ法律上或人カ永久若ハ不定期間引續キ一定ハ場所ヲ本據トシテ生活ヲ營ム意思ヲ有スルトキハ其人ハ其場所ニドミサイルヲ設定シタルモハト認ムヘキモノナルコト鑑定人ジョン、ガズビーノ鑑定ノ結果ニ徴シ之ヲ知ルヘク更ニ被告カ昭和四年九月中日本ニ來リ其翌年成蹊學園ニ教職ヲ奉シ爾來本判決肩書ノ場所ニ居住シ再ヒ英國ニ歸リ住ムコトナク日本ニ居住スル意思ヲ繼續シテ今日ニ至レルコト被告本人訊問ノ結果ニ徴シ明カニシテ右事實ニ依レハ本訴提起當時日本ニ所謂ドミサイル即チ住所ヲ有シタルモノト認ムヘキヲ以テ本件ニ於テ離婚ノ原因アリヤ否ヤハ法例第二十九條ニ依リ結局日本ノ法律即チ民法ノ規定ニ從ヒ判定セラルヘキモノト謂ハサルヘカラス、而シテ被告本人訊問ノ結果ニ依レハ原告、被告ハ婚姻以來其性格、趣味ノ一致セサル點乃至ハ被告ト原告祖母(原告等ノ扶養ヲ要スヘキ者) トノ折合良カラサルコト等ノ爲メ兎角夫婦間ノ圓滿ヲ缺キ二年ヲ滿タサル英國居住中モ多クハ別居生活ヲ營ミ居リシカ被告ハ昭和四年九月日本ニ渡ルニ當リテモ原告ヲ同伴セズ前示ノ如ク日本ニ於テ一定ノ職業ニ就キ相當ノ收入ヲ獲ルニ及ンテモ未タ嘗テ原告ニ對シ生活費ヲ送金支給シタルコトナク被告ヲシテ自らノ勤勞ニ依リテ生計ヲ立ツルノ已ムナキニ至ラ

シメ更ニ其後二回ニ亙リ原告ヨリ被告ニ對シ同様ヲ求メ日本渡航ノ旅費ヲ請求シ來リタルモ被告ハ前示ノ如キ性格、趣味等ノ相異、原告ニ被告ノ從事スル研究ニ對スル諒解ノ缺タルコト等ヲ舉示シテ原被告ノ日本ニ於ケル共同生活力兩者ノ幸福ヲ招來スルモノニアラサル旨ヲ申送り其來リテ同様スルコトヲ拒ミ其旅費ノ請求ニモ應セス遂ニ其儘今日ニ至レル事實ヲ認ムルニ十分ニシテ而シテ右被告舉示ノ事由ノ如キハ假ニ其存在ヲ肯定シタリトスルモ未タ以テ妻タル原告ノ同様請求ヲ拒否スヘキ正當ノ事由ト謂ヒ難シ即チ叙上ノ事實ニ徴スレハ被告ハ昭和四年九月中日本ニ渡リテヨリ以來引續キ今日ニ至ル迄惡意ヲ以テ配偶者タル原告ヲ遺棄シ居レルモノト謂フヘク右ハ民法第八百十三條第六號所定ノ離婚原因ニ該當スルヲ以テ右事實ヲ原因トシ被告トノ離婚ノ判決ヲ求ムル原告ノ本訴請求ハ正當トシテ之ヲ許容スヘシ (東京地一民、九年(タ)五〇〇號、一〇年二月四日判決、法律新聞三八二五號七頁)

第二十九條 當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其國ノ法律ニ從ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキトキハ日本ノ法律ニ依ル

●英國人ノ離婚訴訟ト準據法 (法例第一六條同項參照)

### 裁判所構成法

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

法例 (一九條) 裁判所構成法 (二條)



●耕地整理組合費等ニ基ク相殺抗辯ト司法裁判

耕地整理組合ハ其ノ性質上公法人ニ屬シ組合員ノ組合ニ納入スヘキ組合費延滞利息過怠金等ノ請求權ハ公法上ノ權利トシテ取扱フヘキモノニシテ民事訴訟ノ目的ト爲シ得サルモノナルコト耕地整理法第七十九條ノ規定ニ徴シ明ナルヲ以テ相殺ノ爲控訴人カ主張シタル請求權ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ司法裁判所ニ於テハ之ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ前記控訴人ノ相殺ノ抗辯ハ失當ナリ (長崎控二民、九年(ア)一三二號、求償金請求控訴事件、九年一月二日判決、法律新聞三七九八號七頁)

●水先人組合ノ性質 (水先法同項参照)

第十五條 區裁判所ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

●區裁判所出張所ノ登記官吏ト官廳

官廳ナル意義ハ法令上之ヲ定メタルモノナキモ直接間接國家事務ノ一部ヲ處理決定スルノ權限アル機關ヲ指稱スルモノト解スルヲ普通トス此ノ意義ニ於テ各省大臣各府縣知事ヲ行政官廳ト謂ヒ又合議裁判所ノ部若ハ區裁判所判事ヲ官廳ト謂フヲ得ヘク裁判所構成法第三十一條ニ依リ設置セラレタル地方裁判所支部モ亦官廳ノ一ナリト謂ヒ得ヘシ翻ツテ所問區裁判所出張所ハ右支部ト略同様ナル體制ノ下ニ裁判所構成法第十七條ノ二ニ基キ設置セラレタルモノニシテ同法第十五條第二項ニ依リ同所ニ於テ登記事務ヲ取扱フ登記官吏ハ其ノ職權ヲ以テ登記事務ヲ處理決定ス (不動産登記法第四十九條第百四十九條ノ三同條ノ五及第百五十條乃至第百五十三條等

参照)ルハ機關ニ外ナラサルカ故ニ縱令其ハ職務權限ノ範圍ハ狭小ナリト雖之ヲ目シテ官廳ノ一ナリト解スルヲ妨ケス (福山區裁判所照會、法曹會、九年一月一六日決議、雜誌一三卷一號一三〇頁)

第十七條ノ二 司法大臣ハ區裁判所ニ屬スル事務ノ一部分ヲ取扱フ爲區裁判所出張所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

●區裁判所出張所ノ登記官吏ト官廳 (裁判所構成法第一五條第二項同項参照)

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス(抄)

第一 終審トシテ

(ロ) 地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令並ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

●地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決ニ對スル再審棄却ノ決定ハニ審裁判ナリ

福島地方裁判所カ第二審トシテ抗告人ニ對シ爲シタル各判決ニ對シ同人ヨリ同裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルトコロ同裁判所ハ孰レモ其ノ請求ヲ理由ナシトシテ棄却ノ決定ヲ爲シタルヲ以テ抗告人ハ之ニ對シ宮城控訴院ヘ即時抗告ヲ爲シタルモノナルコトハ記録ニ徴シ明瞭ナリ然リ而シテ再審請求ハ各審級ノ確定判決ニ對シ事實認定ノ不當ヲ理由トシテ爲ス攻撃方法ナルカ故ニ之ニ關スル裁判ハ原則トシテ再審ヲ求メラレタル判決ノ審級ト同一ナリトス本件ハ福島地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決ニ對スル再審ノ請求ナレハ之ニ付同裁判所ノ爲シタル決定ハ右ノ理由ニ依リ第二審トシテ爲サレタル裁判ナリト謂フヘク從テ該裁判ニ對スル抗告裁判所カ裁判所構成法第五十條第一ハロノ規定ニ依リ大審院ナルコトハ疑ヲ容レサルトコロニシテ宮



域控訴院ハ本抗告事件ニ付管轄權ヲ有セサルモノトス刑事訴訟法第四百六十九條第三號ニ於テ再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告ニ付更ニ即時抗告ヲ爲スヲ許容シタリト雖右規定ハ上級審ヲ有スル場合ニ限ルモノニシテ大審院カ抗告裁判所トシテ決定ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ適用ヲ見サル法意ナルコトハ本院ノ夙ニ判例トシテ肯認スルコトコナリ、然レハ右規定アルノ故ヲ以テ地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル判決ニ對スル再審請求ニ付同裁判所ノ爲シタル決定ハ第一審トシテ爲サレタル裁判ナリト斷定セサルヘカラサル理由ナク又裁判所構成法ノ前記規定中ニハ本件ノ場合ヲ包含スルモノナルコト疑ノ餘地ナシ (大審院一刑、九年(フ)三三號、再審請求棄却決定ニ對スル抗告事件、九年一月二十九日決定、法律新聞三八一三號一七頁)

第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

●執達吏ノ職務義務違背ト行政監督權服從義務(執達吏ノ事務分配ト其ノ效力)其ノ一(二審決定)

本件記録中ニ存スル執行委任書及御嵩區裁判所執達吏役場作成名義ノ執行委任書返戻ニ關スル書面ノ記載ニ依レハ抗告人カ昭和九年四月廿六、七日頃御嵩區裁判所執達吏ニ對シ岐阜地方裁判所所屬公證人大熊三之助作成第三一九二五號執行力アル公正證書正本ニ基キ債務者タル岐阜縣益田郡下原村福來細井兼松外二名ニ對スル有體動産ノ強制執行ヲ委任シタル處同執達吏ハ右執行事件ハ昭和八年度岐阜地方裁判所管轄内執達吏總會ニ於ケル協定ニ依リ高山區裁判所執達吏ニ於テ取扱フヘキモノナルノ故ヲ以テ抗告人ノ該執行委任ヲ拒絕シタルコトヲ認メ得ヘク、又

記録編綴ノ岐阜地方裁判所管轄内執達吏會長井上文太郎作成回答書ノ記載ニ徵スレハ昭和八年四月廿八日ノ岐阜地方裁判所管轄内執達吏通常總會ニ於テ執達吏ハ所屬區裁判所管轄區域外ノ執行事件ハ相互ニ受理セサルコト但シ所屬區裁判所ノ發シタル判決命令並ニ管轄區域外ニ跨リタル執行事件ハ此限りニアラストノコトヲ協定可決シ昭和八年五月一日右決議事項ニ付岐阜地方裁判所長ノ認可ヲ得タルコトヲ認ムルニ足レリ、然リ而シテ執達吏ハ職務上其ノ所屬區裁判所ノ一人ノ人ノ判事若クハ監督判事又ハ其裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官タル地方裁判所長ノ監督命令ニ服從セサルヘカラサルコト裁判所構成法第百條第百三十五條第四號第五號執達吏規則第四條第一項ノ規定ニ照シ明白ニシテ一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務トヲ每司法年度ノ終ニ於テ前以テ各執達吏ニ分配スヘク此ノ分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘキコト執達吏規則第七條ノ明定スル所ニ係リ裁判所構成法第九十七條ハ執達吏カ如上ノ監督命令及事務分配等ノ制限内ニ於テ有效ニ職務ヲ行ヒ得ヘキ土地ノ區域ヲ定メタルニ止マリ同規定アルカ故ニ直ニ前記監督命令及事務分配等ノ制限ヲ無視シテ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ任意ニ其職務ヲ行ヒ得ヘキモノト解スルノ失當ナルコト如上各規定ヲ對照スルコトニ依リ自明ノ理ニ屬シ(尤モ該命令及制限ニ違反シテ爲シタル執行行為ノ效力ノ如何ハ別論トス)又執達吏職務細則第二條ハ執達吏ノ職務ヲ施行スヘキ管轄區域ハ裁判所構成法第五十七條及執達吏規則第七條ノ規定ハミニ從フヘクシカモ執達吏ハ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受クルトキハ執達吏規則第七條ハ固ヨリ其他何等ハ制限ニモ從フコトヲ要セス直ニ其委任ニ服スル義務アリトハ趣旨ヲ定メタルモノニ非スシテ前記監督命令ノ許ス範圍内ニ



於テ裁判所構成法第九十七條執達吏規則第七條ノ規定ニ從フヘク當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受ク  
ルトキハ執達吏規則第七條ノ規定ニ拘ラス同シク前記監督命令ノ許ス範圍内ニ於テ直ニ其委任  
ニ應スヘキ義務アルコトヲ定メタルモノト解スルノ相當ナルコト是亦裁判所構成法及執達吏規  
則ノ當該規定並執達吏職務細則ナル規定ノ性質ニ稽ヘ容易ニ領解シ得ラルヘキ所ナリトス、而  
シテ今本件ニ付岐阜地方裁判所管内執達吏總會ニ於テ執達吏ハ所屬區裁判所管轄區域外ノ執行  
事件ハ相互ニ受理セサルコトヲ協定可決シ右決議事項ニ付其ノ所屬地方裁判所ノ長官タル岐阜  
地方裁判所長ノ認可ヲ得タル以上其管内ノ執達吏タル者カ右決議事項ヲ遵守スルハ取リモ直サ  
ス當該監督權ニ服従スルノ所以ナルヲ以テ該決議ニ依レハ高山區裁判所所屬執達吏ニ於テ取扱  
フヘキ本件執行委任ヲ御嵩區裁判所所屬執達吏ニ於テ拒絕シタルハ即チ執達吏規則第十條ニ所  
謂委任ヲ拒ムニ付正當ノ理由アル場合ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ右拒絕ニ對  
スル異議申立ヲ却下シタル原決定ハ相當ナリ (九年ノ)三一號、執達吏執行委任拒絕ニ對スル異  
議申立事件、法律新聞三八〇五號六頁)

●執達吏ノ職務義務違背ト行政監督權服従義務(執達吏ノ事務分配ト其ノ效力)其ノ二(上告  
審決定)

裁判所構成法第九十七條ハ執達吏ハ其所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レ  
ハ場所ニ於テモ其職務ヲ行フト規定スルヲ以テ執達吏カ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタル場合  
ハ該執行事件カ自己ノ屬スル區裁判所ノ管轄スル地方裁判所ノ管轄區域内ナル以上其ノ屬スル  
區裁判所ノ管轄區域外ナルモ之カ委任ヲ拒絕スヘカラサルハ言ヲ俟タズ、本件ニ付之ヲ觀ルニ  
原裁判所ノ確定シタル事實ニ依レハ原告人カ昭和九年四月二十六、七日頃御嵩區裁判所々屬執

達吏ニ對シ岐阜地方裁判所々屬公證人大熊三之助作成第三一九二五號執行力アル公正證書正本  
ニ基キ債務者タル岐阜縣益田郡下原村福來細井兼松外二名ニ對スル有體動産ノ強制執行ヲ委任  
シタルトコロ同執達吏ハ右執行事件ハ高山區裁判所々屬執達吏ニ於テ取扱フヘキモノナルノ故  
ヲ以テ原告人ノ該執行委任ヲ拒絕シタルト云フニ在ルヲ以テ右執達吏ハ正當ノ理由ナクシテ委  
任ヲ拒絕シタルモノニ該當シ原告人ノ本件異議申立ハ其ノ理由アルモノトス、尤モ右執達吏ハ  
昭和八年四月二十八日ノ岐阜地方裁判所管内執達吏通常總會ニ於テ執達吏ハ所屬區裁判所管轄  
區域外ノ執行事件ハ相互ニ受理セサルコトヲ協定可決シ昭和八年五月一日右決議事項ニ付岐阜  
地方裁判所長ノ認可ヲ經タルコトヲ理由トシテ前示ノ執行委任ヲ拒絕シタルモノナルコト亦原  
裁判所ノ確定スルトコロナリト雖裁判所構成法ノ規定ハ炳トシテ前示ノ如クナルノミナラス明  
治二十三年法律第五十一號執達吏規則第七條ハ一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及  
檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務ト各執達吏ニ分配スヘシ此ノ分  
配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘシ事務分配ハ毎司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事又  
ハ監督判事ヲ以テ之ヲ定ムト規定シタルヲ以テ此ノ規定ニ從ヒ一旦事務分配ノ定マリタル後ハ  
執達吏ハ之ニ遵由セサルヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ委任ヲ受ケタル事件カ自己ノ事務分配ニ  
屬セサルトキハ之カ委任ヲ拒絕スヘキモノナリト雖該規定自體既ニ明ナルカ如ク司法年度ノ終  
ニ於テ事務分配ノ定ヲ爲スコトヲ得ルハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ  
委任スヘキ事務トニ限局セラレ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケル事務ニ付テハ斯ル分配ノ定ヲ爲  
スコトヲ得ヘキ法規上ノ根據アルコトナシ此ヲ以テ執達吏職務細則第二條ハ執達吏ノ職務ヲ施  
行スヘキ管轄區ハ區裁判所構成法第九十七條及執達吏規則第七條ノ規定ニ從フヘシ、然レトモ



執達吏ハ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受クルトキハ執達吏規則第七條ノ規定ニ拘ラス直チニ其ノ委任ニ應スル義務アリト規定シタルニ外ナラス、然レハ當事者ヨリ岐阜地方裁判所區域内ノ執行事件ニ付直接ニ委任ヲ受ケタル場合ハ岐阜地方裁判所管内執達吏ハ前叙ノ如キ協定アルノ故ヲ以テ之カ委任ヲ拒絶スヘカラサルモノナルコト自ラ明瞭ナリトス但シ執達吏カ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタル場合ニ於テ其監督官タル地方裁判所長ヨリ所屬區裁判所ノ管轄區域外ニ於テ該事務ヲ行フヘカラサル旨ノ監督上ノ命ヲ受ケタル場合ハ其ノ故ヲ以テ該執行委任ヲ拒絶スルコトヲ妨ケスト雖岐阜地方裁判所管内執達吏通常總會ニ於ケル前示協定ニ對シ岐阜地方裁判所長ノ爲シタル認可ハ之ヲ以テ前叙ノ如キ行政監督權ノ行使ト同視スルコトヲ得サルモノトス、然ラハ原審カ御嵩區裁判所ノ執達吏ニ於テ本件ノ執行委任ヲ拒絶シタルハ正當ノ理由ニ基クモノナリト爲シタルハ失當ニシテ結局理由不備ノ違法アルニ歸ス (大審院四民、九年(ク)一〇四四號、執達吏委任拒絶ニ對スル異議却下決定事件、一〇年一月二三日判決、法律新聞三八〇五號五頁)

第二百十條 四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命ジ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

●補充判事ノ審問關與ト公判手續更新原因

裁判所構成法第二百十條ノ規定ニ依レハ四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テハ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命ジ之ニ立會ハシムルコトヲ得ヘク此ノ補充判事ハ其ノ審問中或判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ノ完結スルノ權ヲ有スルモノニシテ補充判事ハ公判開廷ノ最初ヨリ其ノ審問ニ立會フモノナルヲ以テ該

規定ニ基キ刑事ノ審問ニ立會ヒタル補充判事ハ其ノ審問中或判事ノ事故ニ因リ引續キ審問ニ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テハ之ニ代リ從來ノ審問ニ引續キ其ノ儘爾後ノ審問ニ關與シ裁判ヲ完結スヘキモノニシテ刑事訴訟法第三百五十四條ニ所謂開廷後判事ノ更迭アリタルトキニ該當セサルヲ以テ公判手續ヲ更新スル要アルコトナシ蓋シ右補充判事ノ規定ハ四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ開廷後判事ノ更迭ニ因リ公判手續ヲ更新セサルヘカラサルカ如キ場合ヲ豫期シ更新ニ因リ其ノ手續ヲ重複遲滞セシメサル趣旨ニ外ナラサレハナリ、サレハ原審ニ於テ初ヨリ本件審問ニ立會ヒタル補充判事石田和外力第五回公判以後差支ニ因リ引續キ審問ニ參與スルコトヲ得サル判事山口民治ニ代リテ部員ノ一員トナリ其ノ儘引續キ爾後ノ審問ニ關與シ裁判ヲ完結シタルハ正當ニシテ其ノ公判手續ニハ毫モ所論ノ如キ瑕疵アルモノニ非ス (大審院二刑、一〇年(レ)二七六號、爆發物取締罰則違反幫助騷擾幫助殺人幫助被告事件、一〇年一〇月二四日判決、法律新聞三九一四號一九頁)

辯護士法 (明治二六年三月四日法律第七號)

第十四條 辯護士ハ左ニ掲グル訴訟事件ニ付キ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第一 相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件(抄)

●強制執行ヲ爲シタル辯護士ト第三者ノ該執行停止申請事件受任ノ當否

甲ヨリ委任ヲ受ケ乙ニ對シ強制執行ヲ爲シタルニ丙ヨリ甲ニ對シ強制執行ノ異議ヲ訴テ起シ同時ニ其ノ停止申請ヲ爲シタリ其ノ後甲ノ代理人タル辯護士ハ丙(第三者)ヨリ右強制執行停止申



請事件ニ付テ保證取消ノミノ委任(保證取消ノミノ委任トハ本訴ヲ除外スルノ謂ナリ)ヲ受ケタルカ如キ場合ハ辯護士法第十四條第一號後段ニ該當スヘキモノト解スヘキモノナリ (笠岡區裁判所照會、法曹會、九年一月四日決議、雜誌一三卷二號八一頁)

●相手方ヨリ協議ヲ受ケタル事件ノ復代理人選任ト辯護士法十四條

辯護士法第十四條ハ訴訟當事者ノ利益保護ノ目的ヲ有スルト同時ニ又辯護士ヲシテ誠實ニ其ノ職務ヲ執行セシメテ其ノ風紀ヲ維持シ品位ヲ瀆スコトナカラシムルノ律意ニ出テタルコト勿論ナルカ故ニ既ニ相手方タルヘキ者ヨリ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ縱シヤ委任者ニ損害ヲ及ホス虞ナシトスルモ絕對ニ之カ委任ヲ受ケテ其ノ職務ヲ行フコトヲ得サルモノト謂ハサルヲ得ス然リ而シテ前叙原判決認定ノ事實ニ依レハ辯護士坂本新作ハ既ニ被告人ヨリ委任ヲ受ケタル事件ニ付更ニ其相手方タル被告人ヨリ委囑セラレ訴外辯護士大島農夫雄ヲ自己ノ復代理人ニ任シ該事件ノ裁判上ノ和解ニ關與セシメタルモノナルカ故ニ坂本新作ノ職務行爲タルヤ前示法條ニ抵觸スルモノニシテ大島農夫雄ニ對スル授權ハ其ノ效力ナキモノト斷セサルヲ得ス (大審院四民、九年(オ)一〇一〇號、請求異議事件、九年一月二日判決、法律新聞三八一九號九頁)

第二十六條

辯護士會則ニハ會長副會長常議員ノ選舉及其ノ職務、總會、常議員會及其ノ議事ニ關スル規程、辯護士ノ風紀ヲ保持スル規程並ニ謝金及手数料ニ關スル規程其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設ク可シ

●辯護士報酬額決定ノ標準

右報酬ノ額ニ付キ案スルニ辯護士カ受クヘキ訴訟事件ハ相當ナル報酬額ハ委任ハ時、場所、訴

訟物ノ價額事件ハ性質、難易、訴訟ノ結果、既ニ支拂ハレタル實費及ヒ手数料、委任者、受任者ノ關係等諸般ノ事情ヲ參酌シテ之レヲ定ムヘキモノニシテ本件委任カ大正十四年六月頃ノ事實ニ係リ控訴人カ松澤ニ對シ右訴訟中交付シタル費用及手数料ハ當事者間ニ爭アレトモ少クトモ訴狀印紙代金二百九十一圓鑑定費用金百二十圓證人鑑定人申請費用金五圓等ノ實費ノ外手数料等ヲ加ヘ總額金九百圓ニ上ルコト並ニ右訴訟事件ノ價額カ金九萬一千八十圓ニシテ地代ニ付イテハ一ヶ月一坪ニ付金一錢八厘又ハ一錢四厘強ナリシヲ金十五錢ニ増額ノ旨請求シテ金七錢ニ増額ノ旨判決アリ而シテ該事件ハ控訴中ニ係ルコトハ總ヘテ當事者間ニ爭ヒナク又本件委任ハ東京市ニ於テ成立シ該訴訟事件ハ通常行ハル單純ナル地代増額請求事件ニシテ特ニ複雜困難ナル訴訟事件ニアラサリシコトハ原審證人松澤讓吉ノ證言ニ依リテ之レヲ認メ得ヘクシテ從前兩者間ニ別段ノ交渉ナカリシモノナルコトハ原審ニ於ケル控訴人本人訊問ノ結果ニヨリテ之レヲ認メ得ルトコロナリ、叙上ノ事情ト原審鑑定人田多井四郎治ノ鑑定ノ結果トヲ綜合考覈スレハ右報酬額ハ金一千圓ヲ以テ相當ト認ムヘキモノトス (東京控二民、八年(ホ)一五五八號、報酬金請求事件、一〇年六月二十九日判決、法律新聞三八八五號七頁)

●訴訟委任契約ニ於ケル「取下ハ成功ト看做」ノ解釋

本件契約證タル成立ニ爭ナキ甲第一號證ニハ「拙者ニ於テ解任和解、拋棄認諾取下等致候節ハ成功ト看做シ謝金全部直チニ可差出候」トノ記載シアリテ取下ノ實質的效果カ勝訴ト同一ナル場合ニ限ルカ如キ何等制限ヲ記載セサルノミナラス之レカ辯護士ト委任者トノ間ノ成功報酬ニ關スル特約ナル點並ニ凡ソ訴訟委任ニ於テハ委任者受任者其事件ノ有利ナル進行處理ヲ處期



スルヤ固ヨリ論ナキトコロニシテ受任者タル辯護士カ折角其専門的智識經驗ヲ盡シテ漸ク事件ノ有利ナル轉回ヲ見ツツアルトキ委任者ニ於テ擅ニ事件ノ解任和解取下等ヲ爲シ委任ヲ消滅セシメンカ之レカ爲メ辯護士ハ成功ノ曉受クヘカリシ謝金ヲ請求スルヲ得サルニ至ルヘク其損害ヤ又大ナリト謂フヘキ點ヨリ考察スレハ當事者ハ前記特約ニヨリ同項所定ノ取下ハ辯護士ニ於テ事件處理ノ爲メ何等ノ行爲努力ヲ爲ササル場合ハ勿論假令之レヲ爲シタリトスルモ事件ノ性質上若クハ其處理宜シキヲ得サル爲メ到底勝訴ノ見込ミナキ場合ハ之レヲ含マス、而カモ亦被告主張ノ如ク取下ニヨル實質的效果カ勝訴ト同様ナル場合ヲモ指サス其主張立證ノ宜シキヲ得タルト將又相手方ハ自白等ニヨルト其事由ノ如何ヲ問ハズ辯護士ニ於テ相當ナル努力ヲ拂ヒ因ツテ事件ヲ有利ニ轉回シツツアル場合ニ於テ委任者カ無斷取下ヲ爲シタル場合ヲ指スモノト解スルヲ相當トス (東京地八民、八年(甲)一七〇〇號、報酬金請求事件、一〇年七月一八日判決、法律新聞三八七號四頁)

- 特約ナキ場合ニ於ケル辯護士ノ報酬 (民法六四八條同項參看)
- 辯護士ノ中途解任ト報酬手数料 (同上)

## 法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律

第一條 辯護士ニ非サル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シ鑑定、代理、仲裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スチ業トスルコトヲ得ス但シ正當

ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

### ●司法代書人ノ職務範圍外ノ行爲

司法代書人カ委囑ヲ受ケテ訴訟書類又ハ非訟書類ヲ作成スルニ當リ委囑ノ趣旨ヲ完全明瞭ニ記載シテ形式ヲ整ヘ以テ依囑者ノ便益ヲ計ルコトハ代書人トシテノ業務ト外ナラサルカ故ニ所問法律事務取扱ノ取締法律ニ牴觸スルモノニ非ス然レトモ其ノ方法トシテ事件ノ内容ニ付判斷ヲ爲シ鑑定ニ屬スル程度ノ處置ヲ爲スカ如キハ代書業ノ範圍ヲ逸脱シ前記法律ニ所謂鑑定ニ該當スルコトアルヘク從テ同法ノ制裁ヲ免ルルヲ得サルコトアルヘシ (法曹會、一〇年六月二八日決議、雜誌一三卷九號九一頁)

## 司法代書人法

第一條 本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スチ業トスル者ヲ謂フ

### ●登記原因證明書ノ作成ト司法代書人ノ職務

登記書類ニ關シテハ登記原因ヲ證明スル書類モ亦司法代書人法第一條所謂裁判所ニ提出スヘキ書類ニ包含セラルヘキモノナルカ故ニ之カ作成ニ付テモ同法施行細則第七條第八條ノ適用アルモノトス (新城區裁判所照會、法曹會、一〇年四月一二日決議、雜誌一三卷九號九〇頁)



### 代書人規則

第十七條 本令其他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

#### ●司法書士ニ非サル代書人ノ登記申請ト違反行爲

登記申請ニハ登記原因ヲ證スル書面ノ提出ヲ要スルカ故ニ該書面ハ司法書士法第一條ニ該當スル書類ナルコト勿論ナリ從ツテ所問ノ如ク司法書士ニ非サル代書人カ營業トシテ之ヲ作成スルニ於テハ代書人規則第十七條ノ制裁ヲ免レス (新城區裁判所照會、法曹會、一〇年六月二十八日雜誌一三卷九號九一頁)

### 行政裁判法

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカウサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ(第一項抄)

#### ●町稅附加稅賦課ニ對スル異議ト訴ノ却下 (町村制第一一〇條同項參照)

### 府縣制

第十三條ノ二 議員候補者タラムトスル者ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日目マテニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

#### ●公民權ヲ有セサル間ニ爲シタル縣會議員立候補届出ノ效力

議員候補者ノ届出ヲ爲シタル者カ届出當時公民權ヲ有シタリヤ否ヤハ届出タルノ效力ニ影響ナシ從テ届出ヲ爲シタル當時公民權ヲ有セザリシトスルモ選舉當日ニ於テ被選舉權ヲ有スルニ於テハ届出ノ效力ヲ有スルモノトス (法曹會、一〇年九月二十七日決議、雜誌一三卷一二號八四頁)

第六條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其

#### ●法人ノ土地並家屋賃貸收益ト府縣稅

法人ノ土地家屋ノ賃貸ニ因リテ生スル收入ヲ對象トスル府縣稅營業收益稅附加稅ハ其ノ對象タル收入ヲ生スル土地家屋ノ所在地府縣ニ於テノ賦課スヘキモノニシテ假令該府縣ニ於テハ右土地家屋ノ賃貸ヲ爲ス營業所ヲ有セス他ノ府縣ニ於テ之ヲ有スル場合ニ於テモ右ノ府縣ハ之ヲ賦課スルコトヲ得サルモノナリ (行政三、七年一八五號、營業收益稅附加稅ノ賦課ニ對スル決定取消請求ノ訴、一〇年四月一八日判決、法律新聞三八五八號一一頁)



# 市制

第三十二條 (抄) 官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

## ●官吏タル市會議員ノ臨時又ハ常設ノ委員應諾ト所屬長官ノ許可

市會議員ニ當選シ市制第三十二條第四項ニ依リ所屬長官ノ許可ヲ受ケ之ニ應諾セル官吏カ市制第八十三條ノ臨時又ハ常設ノ委員トナル場合同條第三項ノ適用ヲ受ケ其ノ都度所屬長官ノ許可ヲ要スルモノナリ、蓋シ市制第八十三條第三項ニ依リ同第七十三條第七項ヲ準用スルノ結果同第三十二條第四項ノ再準用アルヲ以テナリ (法曹會、九年一月一六日決議、雜誌一三卷二號八六頁)

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

## ●市會議員選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アル場合ノ意義

原告及參加人ハ市制第三十五條ニ所謂選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合トハ當選者ノ得票ヨリ無資格者ノ爲シタル無効投票ヲ控除シタル數カ市制第三十條第一項ノ法定得票數ニ達セサル場合ノ義ト解スヘシト云フモ右ハ單ニ原告指摘ノ場合ニ限ラス無資格者ノ爲シタル無効投票控除ノ結果當選者ノ得票數カ落選者ノ得票數ヨリ少數ト爲ル場合ヲモ包含スルモノナルコトハ當裁判所カ屢次判示セル所ノ如クニシテ原告ノ主張ハ採用シ難シ、又原告及參加人ハ被告カ

右無効投票ノ爲選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルヤ否ヲ判定スルニ當リ之ヲ當選者ノ得票ノミヨリ控除シタルハ失當ニシテ各候補者(當選者及落選者ヲ含ム)ノ得票ヨリ控除スヘキモノナリト主張スルモ右無効投票ヲ當選者ノ得票ノミヨリ控除スルハ當選者カ其ノ當選ヲ失フ虞アルヤ否ヲ檢覈スル爲ナルヲ以テ落選者ノ得票數ヨリ控除スヘキモノニ非サルコト條理上當然ナリ然レハ本件選舉ヲ無効トス但シ原告以外ノ當選者ハ其ノ當選ヲ失ハストシタル本市會ノ決定及之ヲ是認シタル被告ノ裁決ハ正當ナリ (行政二、八年四二二號、市會議員選舉ノ效力ニ關スル縣參事會裁決取消ノ訴、九年七月二〇日判決、法律新聞三七八九號一七頁)

第六條 有給吏員ニハ市條例ノ定ムル所ニ依リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

## ●東京市編入町村吏員ノ退職料及遺族扶助料ノ性質ト管轄

被控訴人ノ本訴請求ノ要旨ハ被控訴人ハ元東京府北豊島郡西巢鴨町ノ書記ニシテ大正十三年一月十五日退職シ爾來同町ヨリ有給吏員退職料及遺族扶助料條例ノ規定ニヨリ退職料ノ給與ヲ受ケ次テ昭和七年十月一日同町カ控訴人ニ編入セラレタル後ノ控訴人ヨリ其ノ編入町村吏員退職料及遺族扶助料ニ關スル條例ノ規定ニ從ヒ引續キ之レカ給與ヲ受ケ居リタルモノナルトコト控訴人ハ昭和九年四月一日ヨリ同年九月三十日迄ノ退職料ノ支給ヲ爲ササルヲ以テ之カ支拂ヲ求ムト謂フニ在ルヲ以テ按スルニ前記ノ如ク東京府北豊島郡西巢鴨町ニシテ一旦東京市ニ編入セラレタル以上西巢鴨町ナル地方團體ハ消滅シ從テ之ト被控訴人トノ間ノ退職料支給ニ關スル法律關係モ亦當然消滅シ去リタルコト明カニシテ被控訴人カ爾後市ヨリ退職料ノ支給ヲ受ケ



タルハ昭和七年十月一日東京市條例第二十一號編入町村吏員退隱料及遺族扶助料ニ關スル條例ニ基キ東京市ヨリ退隱料ヲ受クル權利ヲ與ヘラレタルニヨルコト多ク謂フニ及ハス而シテ右ノ條例ニ基ク退隱料及遺族扶助料ハ市制第六六條ニヨリ市ノ有給吏員ニ給スルモノハニ準スヘキヲ以テ被控訴人ノ受クル退隱料ニ關スル異議ニ付テハ須ラク同法第七條所定ノ手續ニ依ルヘキモノニシテ通常裁判所ニ訴ヘ得ヘキ限リニアラス既ニ然レハ通常裁判所タル原裁判所ニ起シタル被控訴人ノ訴ハ明カニ不適法ニシテ却下ヲ免レサルモノトス (東京地一三民、一〇年(レ)二二七號、退隱料請求控訴事件、一〇年六月一四日判決、法律新聞三八五四號一七頁)

**第一百十九條** 市内ニ住所有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

**●法人ノ土地家屋賃貸收益ト市稅**  
土地家屋ノ賃貸ニ因リテ生スル法人ノ收入ヲ對象トスル市稅營業收益稅附加稅ハ其對象タル收入ヲ生スル土地家屋ノ所在地市ニ於テノミ賦課スヘキモノニシテ假令該市ニ於テハ右土地家屋ノ賃貸ヲ爲ス營業所ヲ有セス他ノ市ニ於テ之ヲ有スル場合ニ於テモ右他ノ市ハ之ヲ賦課スルコトヲ得サルモノナリ (行政三、九年(行)九五號、市稅賦課ニ關スル訴訟願裁決ニ對スル訴、九年七月二一日判決、法律新聞三七九一號一七頁)

**第三百二十一條** 市稅、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ(抄)

**●救護費ノ償還請求ト國稅滯納處分 (救護法第二七條同項参照)**

### 町村制

**第十七條** 町村會議員中議員ヲ生シタル場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

**●訴訟願裁決前ニ於ケル繰上當選手續ノ當否 (町村制第三十五條同項参照)**

**第十八條ノ二** 町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ  
町村長ハ縱覽開始ノ日前三日目迄ニ縱覽ノ場所ヲ告示スヘシ

**●法定期間ニ遅レテ縱覽ニ供シタル選舉人名簿ノ效力ト異議ノ申立 (一部期間代用シタル調査個票ト選舉人名簿)**

町村制第十八條ノ二ノ規定ハ選舉人名簿ノ正確ヲ期スルカ爲該名簿ノ確定前豫メ關係者ヲシテ該名簿ノ脱漏又ハ誤載ノ有無ヲ檢シ町村制第十八條ノ三ニ依ル異議ノ申立ノ機會ヲ得シムル趣旨ナリトス而シテ所問調査個票ハ町村制ニ所謂選舉人名簿ニアラサレハ所問ノ場合選舉人名簿ハ十一月十日ヨリ關係者ノ縱覽ニ供セラレタルモノト認ムヘキモ選舉人名簿ハ法定ノ期日ニ遅レテ縱覽ニ供セラレタルノ故ヲ以テ當然ニ無効タルモノニアラサルヲ以テ選舉人カ選舉權ヲ有スルニ拘ラス名簿ニ脱漏又ハ誤載セラレタル結果之ヲ行使シ得サル場合ニアラサレハ關係者ハ町村制第十八條ノ三ニ依ル異議ノ申立ヲ爲シ得サルモノト解スヘキモノトス (法曹會、九年



一〇月二六日決議、雜誌一三卷二號八四頁)

第十八條ノ三

選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立テ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定シ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ修正スヘシ  
前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

●選舉人名簿ニ關スル異議ニ對スル町村長ノ決定權ト現任議員ニ付テノ資格審査

選舉人名簿確定ニ付テハ其ノ選舉人カ現ニ村會議員タルトキト雖町村制第十八條ノ三ニ依リ町村長ニ於テ異議當否ヲ決定スルコトヲ得

〔理由〕 選舉權ヲ有スル公民ハ被選舉權ヲ有スルヲ原則トスルモ之ニ對スル種々ノ例外アリテ二者必スシモ一致スルモノニ非サルカ故ニ次年度ノ選舉人名簿ノ確定ニ付テハ其ノ選舉人カ現ニ村會議員タルト否トヲ問ハス町村制第十八條ノ三ニ依リ町村長自ラ異議ノ當否ヲ決定スルコトヲ得ルモノトス而シテ現在議員カ選舉人タル資格ナキモノトシテ次年度名簿ニ記載スヘカラサル者ト認メラルル場合ニハ町村長ハ町村制第三十五條所定ノ例外ヲ除クノ外村會ノ決定ニ依ルニ非サレハ議員ノ失職ヲ認ムルヲ得サルモノトス (法曹會、一〇年二月一日決議、雜誌一三卷五號七八頁)

●法定期間ニ遅レテ縱覽ニ供シタル選舉人名簿ノ效力ト異議ノ申立 (町村制第十八條ノ二同項参照)

第三十三條 (抄) 町村會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

●訴願裁決前ニ於ケル繰上當選手續ノ當否 (町村制第三十五條同項参照)

第三十五條 (抄) 町村會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第二十九條第五項ニ掲クル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第二十九條第五項ニ掲クル者ニ該當スルヤ否ハ町村會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外町村會之ヲ決定ス

- 一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ
  - 二 破產者ト爲リタルトキ
  - 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第三十三條第九項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

●訴願裁決前ニ於ケル繰上當選手續ノ當否

〔決議〕 町村制第三十五條ニ依リ被選舉權ナシト決定セラレタル議員カ之ニ對シ訴願ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決前ニ於テ同制第十七條第一項ノ手續ニ依リ當選者ヲ定ムルコトヲ得サルモノトス

〔理由〕 町村制第三十五條ニ依ル町村會ノ決定ハ行政處分タルノ性質ヲ有スルコト並ニ一般行政處分訴願ニ依リ執行ヲ停止セラレサルヲ以テ原則トスルモノナルモ右決定ニ對シ訴願アル場合ニ於テ其ノ裁決前同制第十七條第一項ノ手續ヲ爲スヘキモノニ非サルコトハ同制ノ解釋上明白ナリ即同制第三十五條第六項ニ於テ第三十三條第九項ヲ準用スルハ本問ニ於ケルカ如ク町村



會ニ於テ被選舉權ナシトノ決定ニ對シ訴願アル場合ニ關スル規定ニ外ナラス蓋シ訴願ハ行政處分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタルコトヲ理由トシテ許サルヘキモノナルカ故ニ被選舉權アリトスル決定ニ對シテハ許サルヘキモノニ非サルコト勿論ナリ若訴願裁決前ニ於テ繰上當選ノ手續ヲ爲スモノトセハ裁決力訴願人ノ利益ニ決シタル場合ニハ定員過剩ノ議員ヲ生スルニ至ルノ不都合ヲ生スヘシ是前掲決議ヲ爲スノ所以ナリ(法曹會、一〇年二月一五日決議、雜誌一三卷五號七九頁)

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

●町會議員選舉ニ於ケル投票ノ減少及偽造行為ト包括一罪(衆議院議員選舉法第一二七條四項同項參照)

第四十條(抄) 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

六 不動産ノ管理處分及所得ニ關スル事

十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

●町村ノ一部力有スル財産ノ管理者ト違法處分(町村制第一二四條同項參照)

●町村ニ提供預金セラレタル身元保證金ト利息ノ歸屬者

町村ニ提供サレタル各種ノ身元保證金契約保證金等ヲ町村ニ於テ預金シタル時ハ特別ノ規定若ハ特約ナキ限町村ニ於テ其ノ利息ヲ取得ス但シ國債證書ヲ以テ代納サレタル場合ニ於ケル利札ハ之ニ反ス(法曹會、九年七月一日決議、雜誌第一三卷一號一一〇頁)

第六十三條(抄) 助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ第一項ノ例ニ

依ル

●町村助役推薦ノ爲豫メ爲シタル非公式議決ト町村長及町村會議員ノ職務(刑法第一九八條同項參照)

第七十一條 前數條ニ定ムル者ノ外町村ニ必要ノ有給吏員ヲ罷キ町村長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

●雇員ト町村吏員

町村カ條例ヲ以テ町村制第七十一條ニ依リ設置スル有給吏員及其ノ定數ニ付雇ナル名稱ヲ附シタルモノアル場合ニ於テ右雇ナル名稱ヲ附スルモ町村長町村制第七十一條第一項ニ依リ之ヲ任命シタル者ナル以上其ノ町村吏員ト謂フヘキモノトス(法曹會、九年一月二一日決議、雜誌一三卷三號六一頁)

第七十二條(抄) 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

●村會ノ決議ナクシテ爲サレタル村長ノ行為ノ效力

村會ノ決議ヲ要スル事項ニ付其決議ナクシテ村長ノ爲シタル行為ハ村ニ對シテ其ノ效力ナキコト夙ニ當院ノ判例トスル處ナリ(大正八年(オ)第七百四十號事件同年十月九日判決參照)

(大審院五民、九年(オ)二九六六號、木材代金請求事件、一〇年五月一〇日判決、法律新聞三八四四號一二頁)

町村制 (七一條、七二條)



●村有財産管理者ノ意義

町村制第七十二條第二項第二號ニ依レハ村有財産ノ管理ハ村長ノ職責ニ屬スルコト明ニシテ事實上村長カ收入役ヲシテ村有財産ノ保管出納ヲ掌ラシムルモ同號但書ニ依リ特ニ之ヲ管理者ト定メタルコトナキ以上ハ之カ爲其ノ管理者ハ收入役ナリト云フヲ得ス從テ此クノ如キ場合ニ於テモ村長ハ市制町村制施行令第三十三條ニ所謂現金證券其ノ他ノ財産ノ管掌者タルモノナルカ故ニ收入役カ右村有財産ヲ費消シタル場合ニ於テモ村長カ村有財産亡失ノ責ニ任スヘキコト明ナリ (行政三、七年二六二號、賠償裁決取消請求ノ訴、九年一月二二日判決、法律新聞三八五八號九頁)

第七十六條(抄) 町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

●町村長ノ專決權ト豫備費ニ關スル不當支出 (町村制第一一四條同項參照)

第八十條(抄) 收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

●町村收入役ノ行爲ト町村ノ責任 (民法第四四條同項參看)

第九十八條 三月以上町村内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ過リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

●戸數割ノ賦課ト町村稅

所問酒造所ハ家事經濟ノ一部ヲ營ム場所ナレハ之ヲ構戸ト認ムヘキモ戸數割ハ構戸ノ事實ト住

所若ハ三月以上滞在ノ事實トカ同一市町村内ニ併存スル場合ニ限り之ヲ賦課シ得ルモノナルヲ以テ所問ノ場合ノ如ク甲村ニ住所ヲ有シ乙村ニ構戸ヲ有スルトキハ甲村ハ同人ノ甲村ニ於ケル所得額及資産ノ狀況ニ乙村ニ於ケル所得額及資産ノ狀況ヲ加算斟酌シテ戸數割ヲ賦課スヘク乙村ニ於テ戸數割ヲ賦課スヘキモノニアラス (法曹會、九年一月九日決議、雜誌一三卷二號八五頁)

第一百十條(抄) 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以内ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

●町稅附加稅賦課ニ對スル異議ト訴ノ却下

町村制第一百十條ノ規定ニ依レハ町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲シ町村會ノ決定ヲ受ケ其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ更ニ其ノ裁決ニ不服アルトキ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス、然ルニ本件ニ於テ原告ハ町稅附加稅ノ賦課ニ付加治木町長ニ異議ノ申立ヲ爲サス從テ同町會ノ決定ヲ受クルコトナク直接被告ニ異議ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ被告ハ右申立ハ決定スヘキ限ニ在ラストシテ之ヲ排斥シタルモノナルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ナリ然レハ本件町稅附加稅ノ賦課ニ付テハ訴ハ前示町村制第一百十條ノ規定ニ依ル異議ハ申立及訴願ノ手續ヲ經サル適法ノ手續ニ違背シタルモノト謂フヘク從テ行政裁判法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス (行政三、八年四八三號、縣稅ノ賦課ニ關スル縣參事會ノ決定ニ對スル訴、一〇年七月八日判決、法



律新聞三九一八號一二頁)

●**第四百十四條** 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

●**町村長ノ專決權ト豫備費ニ關スル不當支出**

町村長カ豫備費ノ定額ヲ超エテ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ヲ爲スコトハ縱令歲入ニ餘裕アリトスルモ之ヲ許ササルモノトス、若夫レ豫備費ノ定額ヲ超エテ支出ノ必要アル場合ニ於テハ更ニ町村會ノ議決ヲ經テ豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スノ外ナシ町村豫算ニ付テハ憲法第六十四條ノ如ク責任支出ヲ許スノ規定ナキヲ以テ國家ノ歲計豫算ノ場合ト同一ニ解スルコトヲ得ス (法曹會、一〇年四月一二日決議、雜誌一三卷六號一一〇頁)

●**第六十六條** 町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ(第一項抄)

●**町村豫備費ノ性質**

町村制第六十六條所定ノ豫備費ハ町村ノ歲入出豫算表中ニ掲載セラレ町村會ノ議決ヲ經ヘキモノナルヲ以テ歲入出豫算ノ一部ニ屬スルモノトス (法曹會、一〇年四月一二日決議、雜誌一三卷六號一一〇頁)

●**第二百二十四條(抄)** 町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

●**町村ノ一部ノ意義**

我國ニ於テハ舊町村制實施以前ヨリ町村ノ一部ニシテ既ニ特別ノ財産ヲ有スル部落ノ存スルア

リ舊町村制實施後ニ於テモ當時ノ町村ニシテ區域狹小ナルカ爲或ハ其ノ資力貧弱ナルカ爲メ其ノ儘獨立ノ町村ト爲スヲ不適當トシ其ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲シ現時ノ町村ヲ構成スルニ至リシ爲茲ニ從來ノ町村カ其ノ在來ノ區域ヲ存シ所謂大字ト爲リ新町村ノ一部トシテ依然財產ヲ保有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアル場合ヲ認ムルノ必要ヲ生シ町村ノ一部ノ權利義務ヲ認メサルヲ得サルニ至リタルヲ以テ町村制ハ此等財産ヲ有シ或ハ營造物ヲ設ケタル町村ノ一部ヲ認メテ之ニ關スル規定ヲ設ケタルモノナリ故ニ町村制第二百二十四條ニ所謂町村ハ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキト云ヘルハ其ノ名稱ハ如何ヲ問ハズ町村ハ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノヲ指稱スルモノニシテ從テ該町村ハ一部ハ成ハ區ナルコトナルヘク又所謂大字部落ナルコトアルモノトス (龍野區裁判所照會、法曹會、一〇年四月一二日決議、雜誌一三卷六號一〇七頁)

●**町村ノ一部カ有スル財産ノ管理者ト違法處分**

町村制第二百二十四條第一項第七十二條第四十條第六號ニ依レハ町村ハ一部ニシテ財産ヲ有スルモノアルトキハ其ノ財産ノ管理處分ハ町村長カ町村會ノ議決ヲ經テ爲スヘキモノニシテ若シ町村長カ之ヲ爲シタルニ非ス又ハ町村會ノ議決ヲ經タルモノハニ非サルトキハ法律上ハ效力ヲ生スヘキモノニ非サルコト明白ナリ、然ルニ上告人ノ主張ニ依レハ瀧尾村ノ一部タル大字津守區ノ所有ナル本件土地ニ付上告人ノ前々主後藤慶助ハ所論ノ權利ヲ津守區ト合意ノ上取得シタルモノナルモ原審ノ確定セル所ニ依レハ慶助ハ大正四年一月五日津守區ヨリ之ヲ取得シタルモノナル處其ノ之ヲ取得セシムヘキ行爲ハ村長ノ爲シタルモノニ非ス又村會ノ議決ヲ經タルモノニ非サルカ故ニ慶助ハ有效ニ右權利ヲ取得シ得サリシモノナリト云フヘク隨テ其ノ有效ニ取得シタ



ルコトヲ前提トスル上告人ノ本訴請求ヲ排斥シタル原判決ハ正當ナリ (大審院三民、一〇年(オ)一六九八號、權利確認等請求事件、一〇年一〇月三〇日判決、法律新聞三九一三號七頁)

### 北海道一級町村制

第四條(抄) 選舉人町村會議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ町村制第二十九條第一項又ハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送附ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

#### ●北海道一級町村ノ選舉ノ效力ニ關シ依據法條ニ誤アル異議申立ト職權調査

(一) 本件異議申立カ北海道一級町村稚内町會議員選舉ノ效力ニ關スルモノナルコトハ當事者間爭ナキ所ナルヲ以テ偶々異議申立書記載ノ依據法條ニ誤アリトスルモノ之ヲ以テ該異議申立ヲ不適法トシテ却下スヘキモノニ非ス從テ稚内町會力之ヲ受理シ本件決定ヲ爲シ被告力之ヲ是認シタルハ正當ナリ (二) 選舉ノ效力ニ關スル異議申立アリタル場合ニ於テ決定應ハ職權ニ依リ事實ノ調査ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ必スシモ異議申立人ノ證據ノ提出ヲ俟タサルヘカラサルモノニ非サルナリ (行政二、一〇年四八號、選舉ノ效力ニ關スル訴願、一〇年五月三日判決、法律新聞三八九一號一三頁)

## 特許法

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

#### ●公知ナル雜誌記載ノ原理ヲ應用セル蒸溜塔ト特許ノ價值

原審決ハ本件縮合物製造方法ハ昭和四年十一月二十日發行ノ雜誌護謄ニ其ノ製法ノ記載アリテ既ニ公知ニ屬スルノ故ヲ以テ其ノ特許登錄ヲ拒絕スヘキモノト認メタルモノナリト雖モ右雜誌ニ記載セルトコロハ原審決ニ掲ケタル説明ニ依ルモ知り得ル如ク單ニ「ウルシオール」ト「フオルムアルデヒド」ト「アムモニア」ノ存在ノ下ニ反應セシメテ「ベークライト」類似ノ縮合物ヲ製造シ得ヘキ旨ノ抽象的原理ヲ説示シタルモノニシテ其ノ製法又ハ製品カ如何ナル工業的價值ヲ有スルモノナルカニ付キテハ一言ノ及ヒタルモノナキニ反シ本件特許願ハ其ノ明細書ニ徵スレハ其ノ原理ヲ應用シタル或種ノ具體的方法ニ依リ工業的ニ優秀ナル固形の電氣絶緣材料及塗料ヲ製出スルニ在リテ此ノ點ニ付キテハ右雜誌記載ハ何等具體的ノ内容ヲ示ササルヲ以テ兩者ハ必シモ首尾ヲ通シテ同一ノモノト云フヲ得ス其ノ製法ニ依ル所産ノ工業的效果如何ニ依リテハ本件考案ハ必シモ悉ク右雜誌記載ニ依リ公知ト爲リタルモノト云フヘカラサルモノアリ而シテ特許ノ目的ハ考案ノ原理如何ニハ係ルモノニアラス其ノ製法ト工業的效果トハ關聯ニモ存スルモノナルカ故ニ假令其ノ原理ニ於テ同一ナルモノトスルモノ本件出願ニ係ル特許カ其ハ具體的製法ニ依リ重要ナル工業的效果ヲ擧ゲ得ヘシトセハ本願ハ亦此ノ點ニ於テ特許ノ價值アルモノト云ハサルヘカラス (大審院一民、八年(オ)二九六號、特許願拒絕査定不服事件、九年三月一日判決、大審院裁判例八卷民事四一頁)



●構造ノ相似點ノミノ觀察ト原理ノ詮索及應用ニ依ル工業的效果ノ究明

原審判決ハ本願ノ蒸溜塔ヲ特許第一九六七二號蒸溜用冷却器ト比較シ兩者ハ蒸溜塔カ或程度ノ冷却ヲ行ヒテ蒸溜物中ノ沸騰點高キ部分ヲ凝縮セシムルニ對シ冷却器ハ冷却ヲ十分ニ行ヒテ蒸溜物ノ大部分ヲ凝縮セシムルノ差異アルニ止マリ其ノ構造ハ圓筒ノ長サヲ螺旋狀管ト爲スコトニ依テ短縮シタル點ニ於テ全然同一ニシテ其ノ蒸溜釜ト聯結シテ使用シ冷却ニ依リ蒸溜物ノ凝縮ヲ行フコトモ亦全ク相一致セルカ故ニ之ヲ別個ノ考案ト認ムルヲ得スト爲シ上告人ノ申立ヲ棄却シタルモノナリト雖モ凡ソ圓筒ノ長サヲ螺旋狀管ト爲スコトニ依リテ短縮スルカ如キ考案ハ夫自體特許ニ値セサルモノトスルモ之ヲ特殊ノ裝置ニ應用シ爲メニ特別ノ工業的效果ヲ擧クタルニ於テハ特許發明ヲ構成スル場合ナシト云フヘカラス現ニ前記蒸溜用冷却器特許ノ趣旨ハ此ノ考案ヲ木醋液採取ヲ目的トスル冷却裝置ニ應用シタル點ニアルナリ、然リ而シテ本願ハ之ヲ蒸溜裝置ニ應用シタル點ニ特長ヲ有スルモノナリ抑モ化學工業上冷却器ト蒸溜器ハ其蒸溜氣體ヲ水分ニ凝集セシムルコトニ於テ共通ノ作用ヲ營ムモノナルモ前者ハ單ニ之ヲ以テ能事終ハレリトスルニ反シ後者ハ沸騰點ノ異ル成分ヲ混有スル物體ヲ分溜精製スル爲メ之ヲ一旦蒸氣體ニ化シ其ノ高沸騰點成分ヨリ高沸騰點成分ヲ順次凝縮分離セシメ所要ノ凝縮液ヲ其ノ最低沸騰點ニ至ル迄各分離點ニ於テ採取セントスルニ適當ナル裝置ナルコトヲ必要トシ凝縮熱ノ利用ニ於テ低沸騰點成分ヲ抽出シ得ヘキコトニ於テ將又分溜シタル所要ノ各成分ヲ採取シ得ヘキコトニ於テ其ノ原理ノ複雜ニシテ工業的操作ノ多樣ナル冷却器ノ如キ單純ナルモノト之ヲ對比ス可キモノニアラス若シ圓筒ヲ螺旋形ニ仕做スコトニ依リ如是複雜ナル作用ヲ至便ナラシムヘキ方策アルニ於テハ其ノ工業的效果ハ化學工業ニ採リテ多大ノ貢獻ナラサルヲ保スヘカラス其ノ冷却

器ニ應用セラレ居レリトハ事實ハ必シモ後者ハ工業的效果ノ偉大ナルヲ減殺スルモノト斷定シ難キモノアルヘシ原審判決ハ蒸溜用冷却器ヲ蒸溜塔ニ轉用スルコトハ化學實驗室内ニ於テハ常ニ行ハルコトナリト云フモ冷却器ヲ其ノ儘轉用シテ常ニ所要ノ效果ヲ擧ゲ得ヘキヤ甚タ疑ナキ能ハス上告人ノ原審ニ於テ主張シタルコロニ依レハ本願考案ヲ蒸溜裝置ニ應用スルコトニ依リ工業上非常ナル便益ヲ得可シト云フ、果シテ然ルヤ然ラハ即チ其ノ工業的效果ハ頗ル之ヲ尊重スヘキニ似タリ原審ハ上叙何人モ考ヘ得ヘキ構造ノ相似點ニ拘泥シ其ノ原理ノ詮索其ノ應用ニ依ル工業的效果ノ考察ニ於テ缺クルトコロアルモノニシテ蒸溜ト云フカ如キ重要ナル工業ニ關スル發明ヲ審案スルニ付キ用意ノ周到ヲ缺クモノナシトセス、(大審院一民、八年(オ)五三六號、特許願拒絶査定不服事件、九年三月二六日判決、大審院裁判例八卷民事七七頁)

●鐵鋼ノ縱橫筋接原理應用ト新製品ノ特許價值

上告人ハ原審ニ於テ引例ノ製品ハ心型抽出後時ヲ經又ハ手ヲ以テ押ストキハ歪曲傾斜シテ引例第一圖ト同様ニ變化スルコトハ見本ヲ一見セハ明白ナル事實ナルニ反シ本願發明ノ要旨ハ(イ)云々(ロ)云々(ハ)云々(ニ)各筋接觸部ヲ熔接スルコト(ホ)強大ナル橫壓抗力ヲ蓄積セル恒久性正形菱券型鐵筋ヲ容易ニ得ラルル效果アルコト等ニ存スル旨主張セルコト明白ナリ而シテ鐵鋼ハ縱橫筋ヲ互ニ熔接スルコトハ從來極メテ普通ニ行ハル所ナリトスルモ之ヲ應用シテ引例ノ製品ト右ノ如ク大ニ效果ヲ異ニスル本願發明ヲ爲スカ如キハ直ニ當事者カ特考ヲ要セスシテ容易ニ爲シ得ヘキ所ナリト云フヲ得サルモノト認ムルヲ相當トスルニ拘ラス原審カ右ノ點ニ對シ特段ノ説明ヲ加ヘスシテ上告人ノ申立ヲ排斥シタルハ則審理不盡理由不備ノ違法アリ

(大審院三民、八年(オ)一六五三號、特許願拒絶査定不服事件、九年四月二一日判決、大審院裁判例八卷民



事一〇七頁)

●鐵筋組成方法ノ新規發明ト審理不盡又ハ理由不備

原審決ニ於テハ本件特許ニ於ケル鐵筋組成方法ト甲第一號證記載ノ英國特許ニ於ケルソレトノ差異及後者ニ於ケル整距螺線並緊縮杆ノ作用效果ニ付論旨摘錄ノ如ク說示シ畢竟兩者ノ鐵筋組成方法ニハ設計ノ微差アルニ過キスト認定セルモ甲第一號證ノ記載及圖面ニ依レハ後者ニ於ケル整距螺線並緊縮杆ノ施設ハ其ノ鐵筋組成方法ノ要部ヲ爲スモノニシテ之ヲ缺如セムカ急傾斜螺線ヲ其ノ組成方法ニ於ケルカ如ク結付スルモ以テ鐵筋組成ヲ完成シ得サルヘキコトハ之ヲ推測スルニ難カラス然ルニ本件特許ニ於ケル鐵筋組成方法ハ其ノ明細書及圖面ニ依レハ所論ノ如ク右整距螺線及緊縮杆ヲ全ク使用セス而テ心型ニ螺狀緯筋力捲付セラレタル後急傾斜螺線力全機構ノ骨子トシテ筋違狀ニ組入レラレ之ト螺狀緯筋トノ結付ニ依リ大體ニ於テ該緯筋ノ形狀ヲ保持シ且緯筋ノ捻轉ニ因ル鐵筋軀體ノ歪曲變形ヲ阻止スル效果ヲ收メ之ニ依リテ殆ント鐵筋組成ノ目的ヲ達セルカ故ニ緯筋ト縱筋トノ結付ハ複雑ナル方法ニ依ルコトヲ要セス細線ニ依リ簡單ニ結ヒ付ケラレアルモノナルコトヲ認メ得サルニ非ス故ニ前示英國特許及本件特許ニ於ケル各鐵筋組成方法ニ於テ共ニ急傾斜螺線ヲ結付セル點ハ一致セルモ前者ニ於テ整距螺線及緊縮杆ヲ缺如スルモ其急傾斜螺線ノ作用ニ依リ能ク鐵筋組成ヲ完成シ得ヘキモノナリヤ又後者カ該螺線及緊縮杆ヲ使用セサルモ前者ト同シク鐵筋組成ノ目的ヲ達シ得ルハ急傾斜螺線ノ作用ニ基クモノニアラサルヤ若シ然ラストセハ如何ナル作用ニ依ルモノナリヤ等ノ諸點換言スレハ前示英國特許ニ於ケル急傾斜螺線ト本件特許ニ於ケルソレトカ各鐵筋組成方法ニ於テ有スル全機能ヲ明ニシタル上其ノ異同ヲ審究セサル限り後者ニ於ケル右組成方法カ前者ノソレニヨリ容易ニ實

施シ得ヘキモノナリヤ否ハ未タ之ヲ確知スルヲ得サルモハナルニ拘ラズ原審決ハ此ノ點ニ付肯シ得ヘキ說明ヲ付セス單ニ各鐵筋組成方法ノ各部ヲ全組織ヨリ分離シテ部分的抽象的ニ比較論述セルヲ以テ該理由ニ依リテハ本件特許ニ係ル發明カ新規ニ非スト斷スルニ由無ク之ヲ要スルニ審理不盡又ハ理由不備タルヲ免レス (大審院三民、九年(オ)一五九四號、特許無效請求事件、九年一月二十五日判決、大審院裁判例八卷民事二九〇頁)

第二十條 特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

●非辨理士ノ行爲ト特許法第二十條ノ解釋

〔照會〕 一、非辨理士カ辨理士ト協同シテ特許事務所ヲ開設シ内部ニ於テハ兩者カ實務ヲ分擔シ辨理士ハ特許局ニ對スル意思表示ノミヲナシ外部ニ對シテハ共同責任ヲ負フモノトスル經營方法ハ特許法第二十條ニ抵觸セサルヤ

二、非辨理士カ實質上單獨ニテ特許事務所ヲ設置經營シ單ニ表面ノミ特定又ハ不特定ノ辨理士ノ承諾ヲ得其ノ辨理士ノ名ニ於テ特許局ニ對スル意思表示ヲ爲ス場合ハ特許法第二十條ニ抵觸セサルヤ

三、非辨理士カ名實共ニ辨理士ト同等ノ關係ナクシテ何々特許事務所ナル看板ヲ掲ケ不定多數ノ依頼者ヨリ特許局ニ對スル出願請求申立等ノ手續ヲ引受クルヲ業トシ唯特許局ニ對シ提出スル書類ニハ表面上本人ノ名ヲ以テスルヲ常トスルモノハ特許法第二十條ニ抵觸セサルヤ

〔回答〕 右ハ具體的ニ諸事項ヲ明確ニシタル後ニ非サレハ遽ニ斷定致シ得サルモ辨理士ニ非サル者カ特許局ニ對シ特許ニ關シテ爲スヘキ事項ニ付代理人ト爲ルコトヲ業トスル場合ハ勿論右事項ノ内容ニ付本人又ハ其ノ代理人タル辨理士ニ於テ實質的ニ何等關與セサルニ拘ラス是等ノ



者ノ名ヲ以テ右事項ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ業トスルトキハ特許法第二十條ニ抵觸スルモノト解スヘキモ右事務ヲ取扱フコトヲ業トスル場合ト雖モ本人又ハ辨理士ノ指揮監督ノ下ニ於テ之ヲ取扱フニ於テハ概ネ支障ナキモノト解スルヲ相當ナリト思料ス (特許局總務部長照會、一〇年四月二六日刑事第五三〇八號、刑事局長回答、法曹會雜誌一三卷六號一一三頁)

第四十七條 特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定テ爲ササルトキハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

●共有セル特許權ニ基キ改良シタル新特許實施ノ當否

特許權者カ他人ノ特許發明ヲ使用スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサルトキハ原特許權者ノ許諾又ハ之ニ代ル審決ヲ得ルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサルコトハ特許法第四十九條ノ規定ニ徴シ明ナル處ナレトモ同法第四十七條ニ依レハ特許權カ共有ニ係ル場合ハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定テ爲ササル限他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ハ全部ヲ實施スルコトヲ得ルモノナル處共有者ノ一人カ其ノ共有ニ係ル特許發明ヲ基礎トシ之ヲ改良又ハ擴張シタル新ナル特許發明ヲ實施スルコトモ原特許發明實施ノ一態様ニ過キサルモノナルカ故ニ原特許權ハ他ノ共有者ノ許諾ヲ受クルコトヲ必要トセス從テ豫メ補償金ノ支拂又ハ其ノ供託ヲ爲スコトヲ條件トセスシテ自己ノ權利ニ係ル新特許發明ヲ實施シ得ルモノト解スルヲ相當トス蓋シ特許法第四十九條ハ既存ノ特許發明ヲ基礎トシ之ニ改良又ハ擴張ヲ施シテ新發明ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ原特許權者カ正當ノ理由ナクシテ原特許發明ノ實施ヲ許諾セサルトキハ新特許權者ハ自己ノ特許發明ヲ實施スルニ由ナク斯ノ如キハ徒ラニ既存特許發明ノ保護ニ厚クシテ後ノ優良ナル發明ノ實施ヲ阻止シ惹イテハ産業ノ進歩發展ノ障壁ト爲ル

コトアルヲ慮リ原特許權ニ付何等實施權ナキ者ト雖尙原特許權ノ實施ヲ爲スコトヲ得セシメ以テ發明ノ獎勵助長ニ資センカ爲設ケラレタル規定ニシテ此ノ立法ノ精神ニ鑑ミ既存特許權ノ共有者ノ該特許發明ノ實施權ヲ制限スルカ如キ趣旨ニ非サルモノナルヤ明ナルモノト謂フヘケレハナリ而シテ申請人及被申請人ノ共有ニ係ル第八六二一八號特許權ノ實施ニ關シ兩名間ニ契約ヲ以テ別段ノ定テ爲ササルコトハ當事者間ニ爭ヒナキ處ナレハ前叙ノ理由ニ依リ被申請人ハ申請人ノ許諾ヲ得ルコトヲ從テ豫メ補償金ノ支拂又ハ其ノ供託ヲ爲サスシテ其ノ共有ニ係ル第八六二一八號特許權ヲ實施シ之ニ改良ヲ加ヘタル自己ノ權利ニ係ル第一〇六六一八號特許權ヲ實施シ得ヘキモノトス (大阪地五民、一〇年(コ)三七二號、假處分異議事件、一〇年八月三十一日判決、法律新聞三八九一號五頁)

第三百三條 審判ニ於テハ當事者又ハ參加人ノ申立テサル理由又ハ取下ケタル理由ニ付テモ之ヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付當事者又ハ參加人ニ期間ヲ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ

●特許法第一〇三條ニ所謂理由ノ意義

特許法第三百三條ニ所謂理由ハ本案ニ關スルソレヲ指シ訴訟要件ノ如キハ性質上職權調査ノ事項ニ屬スルカ故ニ裁判所カ訴訟資料ニ據リ認定シタル事實ニ基キ當事者ノ主張ノ有無ニ拘ルコト無ク其判斷ヲ爲スヘキハ固ヨリ正當ナリ (大審院二民、一〇年(オ)五六七號、商標登錄無效請求事件、一〇年七月九日判決、法律新聞三九一五號一六頁)



### 特許法施行規則

第十一條 (抄) 特許局ニ書類、雛形又ハ見本ヲ差出シタル者ハ審査、審判、抗告審判又ハ再審繫屬中ニ限り之ヲ訂正シ又ハ補充スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルモノハ此ノ限ニ在ラス

#### ●實用新案出願ノ圖面訂正ト要旨ノ變更

特許局ニ差出シタル書類雛形又ハ見本ト雖モ事實審理ノ繫屬中ハ其ノ訂正又ハ補充ヲ爲スヲ得ルコトハ特許法施行規則第十一條第二項ノ規定スルトコロニシテ此規定ハ實用新案ノ場合ニモ準用アルコトハ實用新案法施行規則第七條ノ規定スルトコロナリ夫レ雛形又ハ見本ハ論無シ書類ト雖圖面ノ如キハ其ノ訂正補充ハ取りモ直サス原物ニ於ケル構造ノ點ニ存スル變更ナルコト言フ俟タスト云ハムヨリモ構造ノ變更ナラサル訂正補充ナルモノハ之ヲ想像スルニ由無シト云フノ勝レルニ如カス唯其ノ構造ノ變更カ要旨ノ變更ト爲ルニ至リテ始メテ之ヲ許サス這ハ特許法施行規則第十一條第二項但書ノ規定スルトコロナリ要旨トハ猶本質ト云フカ如シ最早其ノ同一性ヲ失フコト無クシテハ變更スルニ堪ヘサル要處ノ謂ナリ (大審院五民、八年(オ)二四三五號、登録實用新案權利範圍確認請求事件、九年一月三〇日判決、大審院裁判例民事六頁)

### 實用新案法

第一條 物品ニ關シ形狀、構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其

ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得

#### ●形態ノ類似セル考案工程ノ新規性ト實用新案ノ目的

凡ソ實用新案權ハ形ノ新規性ニ對シテ與ヘラルモノナリト雖モ其ノ之ヲ保護スヘキ所以ノモノハ形ノ新規ナルモノニシテ之ヲ實用ニ供シ得ヘキモノタルニアリ即吾人ノ生活用具ニ對シテ新ナル形式ヲ與フルト共ニ其ノ製造ノ工業的ニ之ヲ遂行シ得ヘキコトヲ必要トスルモノナルコトハ多言ヲ俟タサルトコロニシテ實用新案權ノ内容ヲ擧クルトキ其ノ工程ヲ說カスシテ形態ノミヲ表示スル例アルハ其ノ工程ノ常識ヲ以テ直ニ判斷シ得ヘキカ爲メ之ヲ省略シタルニ因ルモノナリ若工程ニシテ形態ニ依リ直ニ之ヲ知リ難キカ如キ場合ニハ必スヤ工程ノ如何ヲ參酌セサル可カラサルモノニシテ工程ト形態ト相俟ツテ工業的ニ有用ナル新規性ノ有無ヲ斷定スヘク當院方昭和八年六月九日言渡同年(オ)第四百五十五號事件判決ニ於テ型自體ニ新規性ヲ帶フルトキハ考案ノ重點ハ工程ニ存スル場合ト雖モ實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得可キ旨ヲ判示シタル所以モ亦茲ニ存スルナリ、尤モ實用新案ノ登録ヲ受ケントスルモノニシテ既ニ其ノ工程ニ付キ特許權ヲ與ヘラレタル場合モアルヘシト雖モ其ノ工程ハ之レアルカ故ヲ以テ實用新案權ノ保護ヲ受クヘキ目的トナリ得サルモノニアラス新規ナル型夫自體ニ於テハ之ヲ保護スヘキ要ナキモノモ其ノ工程ニ依リテ始メテ新シキ形態ノ工業的効果ヲ擧ケ得ヘキ場合ノ如キハ之ヲ一括シテ實用新案トシテ保護スヘキ價値ナキモノト云フヘカラス此ノ如キ場合ニハ工程力特許權ノ保護ヲ受クルト共ニ工程ト其ノ成果タル型トカ實用新案權ノ目的トナルコトヲ妨ケサルナリ (大審院一民、九年(オ)一三三七號、實用新案登録願拒絕査定不服事件、九年一月二二日判決、大審院裁判例八卷民事二八〇頁)



第七條 實用新案登録出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

●實用新案法ニ所謂先用者ノ實施權

實用新案法第七條所定ノ所謂先用者ノ實施權ハ實用新案出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業ノ設備ヲ有スル者ニ附與シタルモノニシテ其ノ善意トハ出願權利者ノ權利ヲ害スルコトヲ知ラサルヲ謂ヒ又實施ノ事業ニ屬シ或ハ事業ノ設備ヲ有ストハ考案者カ其ノ考案ヲ利用スル意思ヲ有シ客觀的ニ他人ニ於テ其ノ利用ノ事實ヲ認識シ得ヘキ程度ノ事業又ハ施設ノ存スルコトヲ云フ (大審院一民、九年(オ)六六二號、實用新案法定實施權確認請求事件、九年一月一五日判決、大審院裁判例八卷民事二七八頁)

實用新案法施行規則

第七條 特許法施行規則第一條乃至第三十六條ノ二(中略)ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

●實用新案出願ノ圖面訂正ト要旨ノ變更 (特許法施行規則第十一條第二項同項參照)

●商標權侵害排除請求權保全ノ假處分ト取消 (民訴七五九條同項參看)

商標法

第二條

左ニ掲ケル商標ニ付テハ之ヲ登録セズ

九(抄) 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

●商標稱呼ノ異同ト判定ノ誤謬

原審決ハ本願商標ハ「ODOL」ナル羅馬字ヨリ成ルヲ以テ其ノ稱呼ハ「オドル」ナルヲ自然トスヘク特ニ「オドル」ト發音スルモノト認ムルヲ得ス引用登録商標カ「オドリ」ノ文字ヨリ成ルニ比シ其ノ稱呼ニ於テ語尾ニ微細ナル相違アルニ過キス兩稱呼ハ互ニ相類似シ且其ノ指定商品カ第三類香料及他類ニ屬セサル化粧品ナル點ニ於テモ相抵觸スルモノト做シ本願商標ハ之ヲ登録スヘキモノニアラスト判定シタリ然レトモ「ODOL」ナル商標ハ右指定商品ノ商標トシテ「オドリ」ナル發音ノ下ニ多年世界的ニ著名ナルモノニシテ其ノ發音ハ本邦ニ於テモ世人ノ一般的ニ熟知スルトコロニ屬スルコトハ顯著ナル事實ニ屬スルカ故ニ右商標ノ稱呼ヲ「オドル」ト發音スルモノト認メ其ノ稱呼ヲ引用商標ト比照シ以テ之ヲ相類似スルモノト做シタルハ其ノ判定ノ基本ニ於テ誤謬アルノ非雖ヲ免レサルモノトス果シテ然ラハ「オドル」ト「オドリ」トハ其ノ形狀ニ於テ多大ノ相違アリ其意義ニ於テモ「ODOL」ナル文字ハ「オドリ」ト何等ノ類似點ナク「ODOL」ノ發音タル「オドル」モ亦「オドリ」ト必シモ其ノ間ニ相通スルモノアリト云フヘカラス兩者ハ同一又ハ類似ノ商標ナリト云フヘカラサルモノニシテ之ヲ類似ノ商品ニ用フルモ毫モ商品ノ誤認又ハ混同ヲ來ササルモノト認ムヘキモノトス (大審院一民、九年(オ)一五七七號、商標登録願拒絶査定不服事件、九年一月二〇日判決、大審院裁判例八卷民事三〇四頁)

●商標稱呼異同ノ判定標準

商標ノ稱呼ナルモノハ當該商標ノ形象色彩内容等諸般ノ特徴カ人ノ耳目ニ訴フルトコロアルニ



因、テ、自、ラ、生、シ、來、ル、ニ、外、ナ、ラ、ス、シ、テ、其、ノ、如、何、ニ、之、ヲ、稱、呼、ス、ヘ、キ、ヤ、ニ、付、テ、ハ、固、ヨ、リ、一、定、ノ、理、法、ア、  
 ル、コ、ト、ナ、ク、要、ス、ル、ニ、其、時、其、ノ、處、ニ、於、ケ、ル、一、般、取、引、者、間、ニ、於、ケ、ル、風、習、ヲ、標、準、ト、ス、ル、ノ、外、ア、ル、ヘ、カ、  
 ラ、ス、今、上、告、人、ノ、本、願、商、標、ト、引、用、ニ、係、ル、登、録、商、標、(第、八、九、四、六、五、號)ト、カ、其、ノ、稱、呼、上、同、一、又、ハ、類、  
 似、ス、ル、ヤ、否、ヤ、ヲ、按、ス、ル、ニ、本、願、商、標、ハ、圓、形、輪、廓、内、ニ、五、本、ノ、細、キ、橫、線、ヲ、引、キ、之、ニ、重、合、セ、テ、一、羽、ノ、飛、  
 翔、セ、ル、鳩、ノ、形、象、ヲ、描、キ、其、ノ、上、部、ニ、太、ク、PEACE、其、ノ、下、部、ニ、細、ク、ELASTIC、ナル、各、英、字、ヲ、稍、  
 弧、狀、ニ、記、入、シ、タル、モ、ヨ、リ、成、ル、カ、故、ニ、前、記、英、字、ニ、シ、テ、既、ニ、廣、ク、一、般、取、引、者、間、ニ、通、用、セ、ラ、ル、場、  
 合、ノ、如、キ、ハ、格、別、然、ラ、ザ、ル、限、リ、右、ノ、文、字、ノ、如、キ、ハ、殆、ン、ト、眼、中、ニ、置、カ、ル、コ、ト、ナ、ク、一、般、人、ハ、當、該、商、  
 標、ヲ、以、テ、單、ニ、鳩、印、ト、呼、ビ、テ、怪、マ、サ、ル、コ、ト、疑、ヲ、容、レ、サ、ル、ト、コ、ロ、ナ、リ、而、シ、テ、引、用、ニ、係、ル、前、記、登、録、商、  
 標、ハ、步、行、ス、ル、二、羽、ノ、鳩、ノ、形、象、ヨ、リ、成、ル、カ、故、ニ、是、亦、通、常、鳩、印、ト、呼、ハ、ル、モ、ト、認、ム、ヘ、キ、ヲ、以、テ、兩、  
 商、標、ハ、稱、呼、ニ、於、テ、同、一、ナ、リ、ト、謂、ハ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、然、ラ、ハ、右、ト、同、趣、旨、ノ、判、斷、ニ、出、テ、タル、原、審、決、ハ、正、  
 當、ナ、リ、(大、審、院、二、民、一、〇、年、(オ)、一、〇、二、七、號、商、標、登、録、願、拒、絶、査、定、不、服、事、件、一、〇、年、九、月、六、日、判、決、法、  
 律、新、聞、三、八、九、〇、號、一、八、頁)

●類似商標ノ甄別方法

商標ハ自己ノ生産製造加工選擇證明取扱又ハ販賣ニ係ル商品ヲ他人ノ同種商品ト區別スル爲使  
 用セラルル標識ニシテ其ノ使命ハ自己ノ商品ト他人ノ同種商品トノ混同誤認ヲ防止スルニ在ル  
 コト商標法ノ規定ニ徴シ明瞭ナルヲ以テ商標カ類似スルヤ否ヤヲ甄別スルニハ之ヲ直接相對照  
 觀察スル所謂對比的觀察ニ依ラスシテ須ラク時ト處トヲ異ニシテ觀察スル所謂隔離的觀察ニ從  
 ヒ該商標ニヨリ商品相互ノ混同誤認ヲ生スルノ虞ナキヤ否ヤニヨリ決スヘク圖樣細目ノ差異ニ  
 拘泥セス卒爾ノ間ニ顧客ノ耳目ニ與フル印象ノ異同如何ニヨリ判定スルヲ相當トスヘク從テ其

ノ文字ノ要部ヲ同シクシ且之ニ對スル稱呼ヲ等ウスルカ如キ處アル場合ニ於テハ右商標ハ相類  
 似スルモノト謂ハサルヘカラス (神地姬支、八年(ヲ)一四四號、損害賠償請求事件、一〇年十一月  
 一二日判決、法律新聞三九二五號一一頁)

●一部分ヲ除キ全體的構圖ニ於ケル類似商標

原審決ハ上告人ノ有スル本件登錄第九〇六六七號商標ハ舊第二十七類「カタン」糸ヲ指定商品  
 トシ其ノ構成ハ圖形輪廓内中央部ニ一本ノ「ラケツト」ニ三個ノ「ボール」ヲ配シタル圖形ト  
 「TRADEMARK」ノ文字トヲ橫書シタル略長方形ヲ爲セル一劃ヲ設ケ其ノ上下ニ帶狀ノ一  
 劃及弧狀ノ劃ヲ各一劃ニ劃シ上段帶狀劃内ニハ「BESTCORD」下段帶狀劃内ニハ「800 YAR  
 DS」ノ文字ヲ書シ又其ノ上下ノ弧狀劃内ニハ共ニ發光形狀ヲ現ハシタル外下段弧狀劃内ニハ更ニ  
 楕形ヲ設ケ其ノ中ニ「80」ノ文字ヲ記シタルモノヨリ成リ其ノ着色ニ付テハ中央部ヲ赤トシ  
 「ラケツト」ヲ白拔トシ周圍輪廓ヲ金色ニ限定シタルモノニシテ又被上告人カ「カタン」糸ニ  
 使用スルコトニ付争ナキ(イ)號標章ノ構成ハ金色ノ圖形輪廓内中央部ニ一本ノ「バツト」ニ各  
 一個ノ「グレープ」及「ボール」ヲ配シタル圖形及「TRADE MARK」ノ文字ヲ共ニ白拔ニ  
 表ハシ且地色ヲ赤色ニ彩リタル略長方形ヲ爲セル一劃ヲ設ケ其ノ上下ニ夫レ夫レ金色ノ發光狀  
 ヲ有スル弧狀ノ一劃ヲ内側トシ末廣形枠欄ヲ外側トスル區劃ヲ設ケ上段末廣形枠欄内ニハ「B  
 ESTCORD」ノ文字ヲ下段末廣形枠欄内ニハ中央ニ劃シタル楕形内ニ「80」ノ文字及其ノ左右  
 ノ「800」及「YDS」ノ文字ヲ何レモ赤色ヲ以テ橫書シタルモノヨリ成ルモノナルトコロ右兩  
 者ノ要部ト認ムヘキハ各中央部ニ於ケル長方形ノ輪廓内ニ顯著ニ表ハサレタル圖形ニシテ其ノ  
 他ノ部分ハ附記附飾ニ屬スト認ムヘキヲ以テ兩者ノ區別ハ專ラ該圖形ニ依リ之ヲ決定スヘク而



シテ該圖形ハ其ノ配置物ヲ異ニスルヲ以テ全體トシテノ離隔的觀察ニ依ルモ外觀上何等相紛ルル處ナク稱呼及觀念ニ於テモ亦何等相類似スルトコロナキモノナル旨判示シタリ、然レトモ叙上判示並記錄ニ編綴セラレアル上告人ノ登錄商標及被上告人使用ノ(イ)號標章ニ依レハ兩者ハ孰レモ中央圖形ノ上下ニ配セル文字態樣及着色ニ於テ略類似シ且其ノ全體ノ構圖的意匠ニ於テモ頗ル相紛ラハシキモノ存スルコト著明ナルヲ以テ斯ル場合ニ中央ノ圖形ノミヲ特ニ其ノ上下ノ文字態樣等ヨリ抽出シテ比較觀察セムニハ之ヲ首肯スルニ足ルヘキ特段ノ事由ナカルヘカラス然ルニ原審決ハ何等其ノ特段ノ事由ヲ判示スルトコロナク唯漫然右ノ如キ抽出的觀察ノ下ニ兩者ノ外觀的類似性ヲ否定シ去リタルハ失當ニシテ原審決ハ此ノ點ニ於テ支持スルニ由ナキモノトス (八年(オ)二六四六號、商標權利範圍確認請求事件、大審院裁判例八卷民事一三七頁)

●新聞紙ノ題號ト商標法ノ適用

新聞紙ノ題號ハ商標法ノ支配ヲ受クヘキモノニ非スト解スヘキ根據ナク又新聞紙法第一條第二項同第四條及同第七條ノ規定ハ何レモ商標專用權ニ關スル商標法ノ規定ノ適用ヲ除外セル法意ニ非ルコト多言ヲ俟タス而シテ被上告人カ「廣島中國新聞」ナル題號ヲ大正十四年一月頃「中國新聞」ト改題シ爾來之ヲ使用シテ新聞紙ヲ發行シ來リタル事實ハ原判決ノ確定セルトコロナルモ被上告人ハ其後「中國新聞」及「廣島中國新聞」ナル二個ノ題號ヲ聯合商標トシテ登錄セル事實ハ亦原判決ノ認定セルトコロナルカ故ニ原判決カ上告人ニ對シ右登錄ニ係ル聯合商標ト同一若クハ相類似セル「廣島中國新聞」ナル題號ノ使用ヲ止ムヘキ旨ノ被上告人ノ本訴請求ヲ是認シタルハ何等違法ヲ以テ目スヘカラサルモノナリ (大審院三民、一〇年(オ)二六三號商標、並商標使用禁止請求事件、一〇年六月八日判決、法律新聞三八五三號一五頁)

第九條

他人ノ登錄商標登錄出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登錄ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

●所謂周知標章ノ繼續使用權

商標法第九條ニヨリ所謂周知標章ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得ル者ハ其者カ該標章ヲ他人ノ登錄商標ノ登錄出願以前ヨリ自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業若クハ業務ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スルカ爲メ自己ノ標章トシテ使用スルコトヲ要スヘク既ニ他人カ其者ノ商品ナルコトヲ表彰センカ爲メ或標章ヲ使用シタル商品ヲ同人又ハ第三者ヨリ買入レ之ヲ其標章ヲ附シタル儘他ノ販賣スル者ノ如キハ之ニ該當セサルモノト解スルヲ相當トス (大阪控二民八年(ホ)一〇三四號、標章使用權確認訴訟事件、九年一月一三日判決、法律新聞三七九五號一八頁)

●商標法第九條ノ解釋

現行商標法第九條第一項ニハ「他人ノ登錄商標ノ登錄出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需用者間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スルモノハ其ノ他人ノ商標ノ登錄ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得」トアリテ其「他人ノ登錄商標ノ登錄出願」トハ最初ノ登錄出願ヲ指シテ論ハ如ク後日ニ於ケル更新登錄ノ出願ヲ謂フハ義ナラザルハ解釋上明白ナルヲ以テ之ニ反スル所論ハ採ルニ足ラス又同條ニ「廣ク認識セラレタル」



トアルハ最初ノ登録出願前ヨリ取引者又ハ需用者間ニ周知セラレタルハ意味ニシテ其ノ周知ノ程度ヲ定ムル標準如何ハ固ヨリ其ノ當時ノ狀況ニ照シ判斷スヘキハ寔ニ所論ノ如クナルモ原審ハ本件ニ顯ハレタル資料ニ依リ被上告會社前主ノ出願當時上告人所有標章ノ周知ナラザリシコトヲ認定シタルモノナレハ何等違法ナク又同法條ノ「善意ニ使用スル者」トハ登録出願前ヨリハ善意使用者ヲ意味スルヤ一見明白ニシテ其法規改正後ノ善意ヲ標準トスト云フカ如キハ殆ント法文自體ニ徴シ採用ノ由無キ見解ト云ハサルヲ得ス若シ夫レ明治四十二年法律第二十五號舊商標法第三條ニ依リ重複登録ヲ爲ス權利ヲ保有シタル者ト雖當時其登録ヲ爲サザリシ以上今日ニ於テ周知標章使用權ヲ有スルヤ否ヤハ專ラ現行商標法第九條第一項ニ依リ之ヲ律スヘキハ已ニ判示セルトコロノ如シ爾リ而シテ登録セラレタル商標アル以上何人モ最早之ト同一又ハ類似ノ標章ヲ使用スル權利無キニ至ルハ原則ナルニ拘ラス唯周知標章ノ善意使用者ニ限り例外トシテ使用權ヲ認ムルト共ニ其場合登録セラレタル商標權者ニモ亦若干ノ保護ヲ與フルモノ之ヲ當該法條第一項第二項ノ規定ト爲ス畢竟彼ト等ク之ヲ濟フハ法意ニ外ナラス左レハ斯カル使用權者ト雖其一旦不正競争ノ目的ヲ以テ當該標章ヲ使用スル以上茲ニ善意使用ノ要件ヲ缺クノ結果例外タリシ使用權ハ之ヲ喪失シ原則ニ立戻リテ又其使用權無キニ至ルハ當然ノ結果ト云ハサルヲ得ス (大審院五民、九年(オ)二七四一號、商標使用權確認等請求事件、一〇年四月三〇日判決、法律新聞三八八二號七頁)

●他人ノ登録商標ノ使用ヲ繼續シ得ル者

商標法第九條ノ規定ニ依リ他人ノ登録商標ノ使用ヲ繼續シ得ル者ハ必スヤ其ノ者カ當該商標ヲ他人ノ登録出願以前ヨリ其ノ他人ト同一又ハ類似ノ商品ニ付自己ノ標章トシテ使用スルモノナ

ルコトヲ要シ單ニ他人カ其ノ使用標章ヲ商標トシテ附シタル商品ヲ買入レ販賣スル卸賣業者ノ如キハ之ヲ包含セス (大審院二民、一〇年(オ)一二號、標章使用權確認請求事件、一〇年五月一七日判決、法律新聞三八四六號七頁)

第十二條

商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

●聯合商標ノ指定商品中一部分割讓渡ノ效力

聯合商標ハ二個以上ノ商標カ關聯シテ不可分ノモノナルヲ以テ其ノ一部ヲ分離シテ他ニ讓渡スルトキハ商標又ハ商品ノ類似混同ノ虞ヲ生シ聯合商標ヲ認許シタル主意ヲ沒却スルカ如キ結果ヲ招致スルヲ以テ之カ分離讓渡ヲ認メサルハ商標法第十二條第三項ノ明定スルトコロナリト雖モ聯合商標ノ指定商品ノ内一部ヲ限定シテ之ヲ分割讓渡スルモ前示ノ如キ虞ナキヲ以テ之カ讓渡ヲ妨ケサルハ同條第二項ニ徴シテ推知シ得ヘシ從テ聯合商標ノ一部ヲ分離シテ讓渡スル契約ハ無効ナラムモ聯合商標ノ指定商品ノ一部ヲ分割讓渡スル契約ハ何等無効ノモノニ非スト解スルヲ相當トス (大審院一民、八年(オ)二一五六號、商標權使用禁止假處分命令申請事件、九年三月一九日判決、大審院裁判例八卷民事六四頁)

第十五條 (抄)

商標權者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變

更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ



●商標法一五條一項ノ趣旨

商標法第十五條第一項ノ規定ハ商標權者カ故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタル一切ノ場合ニ適用セラレ其ノ附記又ハ變更ノ程度如何ヲ問ハサルモノナレハ登録商標ニ附記又ハ變更ヲ加ヘテ成レル商標カ其ノ要部ニ於テ原登録商標ト類似シ單ニ附從的部分ニ差異アル場合ニ於テノミ其ノ適用アルモノト解スヘキニアラス、然レハ原審決カ上告人ノ使用スル甲第五號證ノ標章カ (SUZUME) ナル文字ヲ顯著ニ有スル點及飛翔スル雀ノ圖形ヲ有スル二點ニ依リ右ハ文字商標ナル本件登録商標ヨリ「スズメ印」ノ文字ヲ削除シ之ニ代フルニ雀ノ圖形其ノ他附記の文字ヲ附記シタルモノト說示シ前記ノ法條ヲ適用シタルハ相當ナリ (大審院二民、九年(オ)三一三號、商標登録取消請求事件、一〇年四月一六日判決、法律新聞三八四一號一七頁)

第十六條(抄) 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

●商標權消滅後ノ無効審判ノ效力

商標ハ商標權消滅後ト雖商標法第十六條第一、二項ハ各號ハ一ニ該當スルトキハ之ヲ無効ト爲スヘキモノナルコト同條第三項ノ規定スル所ニシテ是ニ由ルモ商標登録ノ無効審決確定ノ效力ハ無効原因發生ノ當時ニ之ヲ遡及セシムル法意ナルコトヲ窺知スルニ足ル蓋シ此ノ遡及效ヲ認ムル所以ハ他ニ非ス該商標權消滅シ其ノ登録ハ抹消セラレタリトスルモ登録抹消前ニ於テ斯ル無効ノ商標ヲ使用シ爲ニ他人ニ被ラシメタル損害ニ付テハ右商標使用者ヲシテ之レカ賠償義務

ヲ負擔セシムルノ要アリテ既ニ登録ノ抹消セラレタル商標ニ付テモ之レカ無効審判ヲ求ムル法律上ノ利益存スルカ爲ナリ然ラハ則チ本件商標登録無効審判請求事件ニ於テ本件商標ハ商標法第二條第一項第九號ニ違反シ第十六條第一項第一號ニ該當スルコトヲ理由トシテ之レカ無効審判ヲ求ムル被上告人ハ假令右審判請求後ニ於テ上告人カ右商標權ヲ拋棄シテ其ノ登録抹消セラレタルモ尙本件請求ヲ爲スニ付法律上ノ利益ヲ有スルコト一點ノ疑ナシ (大審院二民、一〇年(オ)五六七號、商標登録無効請求事件、一〇年七月九日判決、法律新聞三九一五號一五頁)

第三十四條(抄) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録商標ト同一若クハ類似ノ商標ヲ同一若クハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ販賣シ若ハ交付販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

●商標法三四條第一號ト轉賣者及第三轉賣者

商標法第三十四條ハ其ノ第一號ニ於テ他人ノ登録商標ト同一若クハ類似ノ商標ト同一若クハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ販賣シ若ハ交付販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ヲ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處スヘキ旨ヲ規定ス、今同號ヲ分析スレハ其ノ行爲主體ハ(一)他人ノ登録商標ト同一若クハ類似ノ商標ト同一若クハ類似ノ商品ニ使用シタル者(二)他人ノ登録商標ト同一若クハ類似ノ商標ト使用シタル者(三)同商品ヲ販賣シタル者又ハ(四)同商品ヲ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ノ四者ト爲ルカ故ニ右商標法第三十四條第一號カ直接販賣者ニ對スル外所謂知情ノ轉賣者及第三轉賣者ニ對シテモ適用アルコトハ一點ノ疑ヲ容ルヘカラス (大審院三刑、九年(レ)一三九六號、商標法違反被告事件、九年一月二二日判決法律新聞三八二四號九頁)



第四十條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス  
舊法ニ依リ商標ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

●舊法ニ依リ登録セラレタル商標權ノ效力

商標法附則第四十條第一項ニ依レハ舊法ニ依リ登録セラレタル商標ハ原則トシテ本法ニ依リ登録セラレタルモノト同視シ之ニ同法ヲ適用スルノ法意ナリト解スヘク從テ舊法ニ依リ登録セラレタル商標ノ權利ハ指定商品ト類似スル商品ニ對シテモ其ノ效力ヲ及ホスヘキモ當該類似ノ商品ニ付既ニ他人ノ登録商標存在スルトキハ之ト同一又ハ類似ノ聯合商標ハ之ヲ出願シ得サルモノト做スヲ相當トスヘシ (大審院四民、八年(オ)四四四號、商標登録願拒絶査定不服事件、一〇年一月七日判決、法律新聞三九二八號一〇頁)

著作權法

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

●債務者ノ著作物ニ對スル債權者ノ偽作

縱令著作權者ニ對シ債權ヲ有スル者ト雖著作權者ノ許諾ヲ得スシテ其著作物ヲ複製スルニ於テハ著作權法第三十七條ニ所謂偽作ヲ爲シタル者ニ該當スルモノトス蓋同法ハ著作權ノ侵害ヲ保護スルコトヲ以テ立法セラレタルモノナレハ法律秩序ヲ紊シテ自主救済ニ出ツルカ如キハ許ス

ヘキニ非サレハナリ (大審院四刑、一〇年(レ)四二四號、一〇年五月二四日判決、法律新聞三八七三號一二頁)

●偽作ノ意義

著作權法第三十七條ニ所謂偽作トハ著作權者ノ許諾ナクシテ其ノ著作物ヲ發行ノ目的ヲ以テ複製スルコトヲ謂フモノナレハ苟モ發行ノ目的ヲ以テ之ヲ複製スルニ於テハ未タ發行スルニ至ラサルモ同條ノ罪ノ成立ニ影響ナキモノト解セサルヘカラス、蓋シ同法第三十條ニハ發行スル意思ナキモノハ偽作ト看做サスト規定セルヨリ見ルモ偽作ニハ發行ノ意思ヲ條件トスルト同時ニ其ノ意思ニテ複製スレハ足り必スシモ現實ニ發行サレタルヲ要セサレハナリ (大審院四刑、一〇年(レ)四二四號、著作權法違反被告事件、一〇年五月二四日判決、法律新聞三八七三號一二頁)

第三十九條 第二十條、第二十條ノ二及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

●複製ノ意義

著作權法ニ所謂複製トハ原作ト全然同一ノモノヲ再製スル場合ニ限ラス其ノ枝葉ニ於テ多少修正増減アルモノヲシテ原作ノ再製ナリト感知セシムル場合モ亦複製タルヲ失ハス (大審院四刑、一〇年(レ)四二四號、著作權法違反被告事件、一〇年五月二四日判決、法律新聞三八七三號一二頁)

新聞紙法



第四十一條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

●新聞紙法ニ所謂安寧秩序ヲ紊スノ事項 (愛國心の發露と其の手段)

按スルニ我カ國體ヲ尊重スル愛國ノ精神ニ基キ現社會腐敗ノ素因ヲ排除シテ國利民福ヲ計ラムトスル諸般ノ合法的運動ハ固ヨリ之ヲ推獎スヘキモノナリト雖其ノ目的ヲ達成セムカ爲テ國法ヲ犯シ不法ノ暴力ヲ行使シ法律秩序ヲ無視シテ急速ニ社會革新ヲ斷行スヘシト爲スカ如キハ誤マレルノ甚シキモノニシテ斯ル行動ノ存スルアラハ我カ國ニ於ケル公共ノ平安、紀綱ノ整肅ヲ保持スルコト能ハサルニ至ルヘク到底之ヲ看過許容スヘキニ非ルナリ、左レハ現社會ヲ革新セムカ爲速ニ非法的の直接行動ヲ爲スノ必要アルコトヲ示唆慫慂スル記事ヲ雜誌ニ掲載スルカ如キハ其ノ目的動機ノ如何ヲ論セス客觀的ニ觀察シテ安寧秩序ヲ紊スモノト認メサルヲ得ス判示記事ハ右ノ意義ニ於テ正ニ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スモノニ該當スト云フヘク此ノ點ニ關スル原審ノ見解亦之ト其軌ヲ一ニスルモノトス (大審院三刑、一〇年(れ)七九七號、新聞紙法違反被告事件、一〇年九月四日判決、法律新聞三九一七號六頁)

第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノ認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セズ公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

●新聞紙法第四十五條ノ事實證明ヲ得サル名譽毀損ト侮辱罪 (刑法第二三二條同項參照)

●私行ナリヤ否ヤノ標準

因テ案スルニ刑法第二百三十條ノ罪ハ犯罪ノ動機如何ヲ問ハス成立スト雖新聞紙ニ依リ行ハルル場合ニ於テハ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除ク外特ニ人ヲ害スル惡意カ動機ト爲リタルコトヲ要スヘク若シ裁判所カ專ラ公益ノ爲ニスル意ニ出テタルコトヲ認メタルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許シ其ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セサルコト新聞紙法第四十五條ノ律意ニ徴シ疑ナキ所ナリ而シテ所謂私行ナリヤ否ヤハ吾人ノ私的生活關係ナリヤ否ヤヲ以テ標準トスヘク被害者カ公職ヲ有スルノ一事ハミニ依リ決スヘキモノニ非ス (大審院四刑、一〇年(れ)五四二號、名譽毀損侮辱被告事件、一〇年六月二八日判決、法律新聞三八六四號一〇頁)

●出版物ニ依ル市長ノ職務行爲ニ對スル名譽毀損ト事實證明ノ要否(刑法第二三〇條同項參照)

出版法

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス(抄)

●出版物ニ依ル市長ノ職務行爲ニ對スル名譽毀損ト事實證明ノ要否(刑法第二三〇條同項參照)

醫師法



第六條ノ二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ衛生官吏  
ヲシテ診療録ヲ査閲セシムルコトヲ得

● 巡查ノ診療簿檢閲ト之カ提示ヲ爲シタル醫師ノ秘密漏泄罪 (刑法第一三四)條同項參照

第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者醫師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモノナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

● トラホーム患者ニ對スル外科手術行爲ト醫師法違反

被告人ハ免許ヲ受ケスシテ十數人ノトラホーム患者ヲ診察シ其ノ患部顆粒ヲ紙捻ニ燃惹ヲ卷付  
ケタルモノヲ以テ摩擦シテ破リ血液ヲ之ニ吸收セシメタル後ホーヅキノ汁ヲ該患部ニ注入シ外  
科的手術ヲ行ヒテ醫業ヲ爲シタルコト明白ナルカ故ニ原判決カ被告人ノ本件行爲ヲ醫師法違  
反トシテ處斷シタルハ相當ナリ (大審院二刑、九年(れ)一四三一號、醫師法違反被告事件、九年一  
二月二四日判決、法律新聞三八二四號一一頁)

● 醫業ノ意義

業ハ疾病ヲ診察治療スル醫ノ行爲ヲ常業ト爲スノ謂ナリ而シテ患者ノ病名若ハ其ノ容態ヲ聽キ  
其ノ病狀ヲ判斷シ之カ治療ノ爲藥液ヲ注射シ或ハ藥品ヲ塗布シ或ハ之ニ適應スル藥品ヲ供與ス  
ルカ如キハ即チ診察治療タル醫ノ行爲ニ外ナラス從テ醫師ノ免許ナキニ拘ラス業トシテ如上醫  
ノ行爲ヲ爲シタルトキハ醫師法第十一條第一項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス (大審院四刑、一〇  
年(れ)四號、醫師法違反被告事件、一〇年三月二二日判決、法律新聞三八三一號一五頁)

● 營利ノ目的ナキ行爲ト醫師法違反

苟モ免許ヲ受ケスシテ醫行爲ヲ業ト爲スニ於テハ醫師法第十一條ノ罪責ヲ免カレス而シテ同罪  
ノ成立スルカ爲ニハ行爲者ニ於テ營利ノ目的ニ出テタルコトヲ必要トスルモノニ非サルナリ  
(大審院三刑、一〇年(れ)九四九號、醫師法違反被告事件、一〇年一〇月九日判決、法律新聞三九〇三號一  
八頁)

● 賣藥ノ使用ト投藥行爲

假令賣藥ヲ使用シタリトスルモ投藥タルニ妨ケナキコトハ夙ニ當院判例(大正三年四月七日宣  
告)ノ示ス所ナリ (大審院二刑、一〇年(れ)一一一九號、醫師法違反被告事件、一〇年一月一日  
判決、法律新聞三九二三號一八頁)

## 醫師會令

第五條 前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス(抄)

● 醫師會ノ過怠金ト委任狀ニヨル決議 (八王子市南多摩郡醫師會事件)

控訴人ハ大正八年勅令第四百二十九號醫師會令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ被控訴人等ハ  
何レモ右控訴人醫師會ノ會員ナルコト並ニ控訴人醫師會ハ昭和六年三月二十七日ノ定時總會ニ  
於テ被控訴人等ニ控訴人主張ノ如キ控訴人醫師會々則第七條違反ノ行爲アリトノ理由ニ依リ同  
人等ニ各過怠金五百圓ヲ科スル旨決議シタリト同年四月六日被控訴人等ニ其ノ旨通知シ其ノ